

大阪市民の
スポーツと健康に関する実態調査

- 報 告 書 -

平成15年3月

大 阪 市

はじめに

大阪市では、だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる「スポーツパラダイス大阪」の実現をめざして、中央体育館や長居陸上競技場などの国際級の大規模施設から、各区に1館の設置をめざすスポーツセンター・屋内プールまでスポーツ施設の整備を進めるとともに、学校体育施設の開放や多様なスポーツ教室、市民スポーツの祭典、各種市長杯大会を開催するなど生涯スポーツの普及、振興に努めています。

生涯スポーツを振興するためには、市民の皆様の最新のスポーツと健康に関する意識と現状を把握することが大切であることから、大阪市では5年ごとに「大阪市民のスポーツと健康に関する実態調査」を行っております。

本書は平成14年8月～9月にかけて市民の皆様に協力いただき実施した調査の結果を報告書としてまとめたものです。

今回の調査では、市民の皆様の健康に関する意識、運動・スポーツの実施状況、スポーツの観戦経験、スポーツボランティア経験などの調査項目に加え、新たに総合型地域スポーツクラブについての調査項目を設け調査しました。今回の調査結果の分析には、必要に応じて前回の調査結果や平成12年に行われた内閣府調査など同種の調査結果との比較も行っております。

この結果については、平成15年3月策定の「大阪市生涯スポーツ振興計画」に盛り込んでいるほか、今後の市民の健康づくり、生涯スポーツの振興を図る上での重要な基礎資料として活用してまいりたいと考えております。

なお、この調査は大阪市と大阪体育大学生涯スポーツ学科スポーツマネジメント研究室が共同で実施しました。

目 次

【本報告書を読むにあたって】	3
調査結果の概要	4
第1章 調査方法	
1. 調査の全体構成	23
2. 調査の方法	24
3. 調査対象の一般特性	25
(1) 回答者の性別	
(2) 回答者の年代別	
第2章 調査結果	
1. 健康に関する意識について	27
(1) 現在の健康状態	
(2) 健康維持の方法	
2. 運動・スポーツの実施状況について	31
(1) 運動・スポーツの実施状況とこの1年間に行った頻度	
(2) この1年間に行った運動・スポーツの種目	
(3) 今後行ってみたい運動・スポーツの種目	
(4) 運動・スポーツを行った理由	
(5) 運動・スポーツを行わなかった理由	
(6) 運動・スポーツを実施した場所	
3. クラブ・同好会の加入状況について	48
(1) クラブ・同好会への加入状況	
(2) クラブ・同好会の形態	
(3) クラブ・同好会への加入意向	
4. 総合型地域スポーツクラブについて	56
(1) 総合型地域スポーツクラブの認知度	
(2) 総合型地域スポーツクラブに関する情報の入手先	
(3) 総合型地域スポーツクラブへの関心	
(4) 総合型地域スポーツクラブへの関心の程度	
(5) 地域住民の主体的なかかわりに対する意識	
(6) 会費について	
(7) 希望する公的援助の内容	

5. スポーツ行事への参加状況について	66
(1) スポーツ行事への参加状況	
(2) 参加を希望するスポーツ行事の種類	
6. スポーツボランティアの活動について	70
(1) スポーツに関するボランティア活動の経験	
(2) ボランティア活動の内容	
(3) 今後のボランティア活動の意向	
7. スポーツに関する試合・大会の観戦について	74
(1) 競技場での観戦経験	
(2) 競技場で観戦した試合・大会の種目	
(3) テレビでの観戦経験	
(4) テレビで観戦した試合・大会の種目	
8. 国際競技大会、オリンピックムーブメントに関する意識について	80
(1) 国際競技大会・イベントの認知度	
(2) 今後開催を希望する国際競技大会の種目	
(3) オリンピアンに行ってもらいたい活動	
9. スポーツ情報サービスについて	85
(1) スポーツに関する情報の入手方法	
(2) 入手したいスポーツ情報	
10. 「スポーツ都市大阪」のイメージについて	89

【本報告書を読むにあたって】

1. N は質問に対する回答者数で、100%が何人に相当するかを示す比率算出の基数である。
2. 列記している選択肢の中から、回答を 1 つ求めたものを“単独回答”、複数求めたものは“複数回答”としている(表中)。
3. 表中の構成比(%)は、構成比(%)の高いものから順に並べているものと、そうでないものがある。
4. 表中、各項目の左端に記載した 1、2、3 などの数字は、順位を表している。また、性別、年代別の構成比(%)の左端に記載した、□、□、□などの○付き数字は、性別または年代別の順位を表している。
5. 複数回答の表中、“平均回答数”は、回答者 1 人あたりの回答数を表し、単位は件となっている。少数点第 3 位以下を四捨五入して表記している。
6. 表中の「MA」は、1 回答者が 2 つ以上の回答をすることができる質問(Multiple Answers の略)のことである。
7. 構成比(%)は四捨五入をしているため、合計が 100%にならない場合もある。
8. 本調査の質問票は、総理府が行った「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 12 年 10 月)(以下、総理府調査)と、大阪府教育委員会が行った「平成 10 年度 大阪市民のスポーツと健康に関する実態調査報告書」(以下、前回調査)を参考に作成した。そのため、本調査の結果を報告する際、上記の報告書との比較できる項目については、比較検討を付け加えている。

調査結果の概要

1. 健康について

高齢社会を迎え、健康づくりは豊かで充実した生活や人生をおくるための最も重要な取り組みの一つとなっている。特に、今日では運動不足や過剰な栄養、ストレスなどが誘因となって引き起こされる生活習慣病が健康をおびやかす最大の要因となっており、運動やスポーツを積極的に取り入れて、健康的なライフスタイルを確立する努力が求められている。そこで、市民一人一人の健康状態への意識、健康の維持増進への取り組みをたずねた。

- 健康評価は楽観的。回答者の約84%が「健康である」と自己評価。
- 全国調査とほぼ同じ「健康である」の割合も、「非常に健康」では30歳代以降の各年代で全国に比べて大きく低下。
- 健康維持法は「睡眠・休養」と「栄養・食事内容」が中心。「運動・スポーツ」も3番目に上げられる高い健康維持法。
- 「運動・スポーツ」は、男性では20歳代、30歳代と60歳以上を中心にすべての年代で、女性は50歳代、40歳代、60歳代以上で高い割合。

市民は自己の健康状態について比較的楽観的な評価を下しており、「非常に健康である」が14.1%、「まずまず健康である」が70.1%で、全体の84.2%が「健康である」と答えている。この割合は、総理府が平成12年に実施した「体力・スポーツに関する世論調査」の割合(83.9%)とほぼ同様である。しかし、総理府調査では「大いに健康」が25.9%を占めており、今回調査の「非常に健康である」と比較して約12ポイント上回っている。年齢別では、総理府調査と比較して男性では40歳代以降で10～19ポイント、女性では30歳代以降で10～14ポイント、「非常に健康」とする者の割合が低くなっている。

健康維持のためふだんから気をつけていることは、「睡眠・休養をじゅうぶんにとる」が44.9%と最も高く、次いで「栄養・食事に気をつける」40.6%、「運動・スポーツをする」32.9%と続いている。性別では、「運動・スポーツをする」が男性で2番目(37.4%)にあげられる健康維持法となっており、その傾向は20歳代で第1位にあげられたのをはじめ全ての年代に共通している。女性では、「運動・スポーツをする」は4番目の実施率であり、2位にあげられた50歳代、全体平均を超えた40歳代、60歳代以上を除けば低い割合にとどまっている。総理府調査との比較では、全体の傾向、「運動やスポーツをする」の割合(33.7%)、共にほぼ同じである。

2. 運動・スポーツについて

運動やスポーツは、“健康ではつらつとした生活や人生をおくる”ための最も重要な活動(健康)であるとともに、長い人生と増大する自由時間を“生きがいをもっていきいきと生きる(生きがい)”ための重要な文化の一つである。文部省(現文部科学省)は、生涯スポーツ社会づくりをめざした「スポーツ振興基本計画」(平成 12 年)を発表した。生涯スポーツ社会づくりは、人々の自主的、自発的なスポーツ参加と、行政のスポーツ環境整備への取り組みが、健康で生きがいのある社会づくりに向けて相乗的に機能するよう、効果的な連携を図っていくことではじめて可能である。そのような視点にたって、最初に市民の運動・スポーツ実施の現状について見ていくことにする。

(1) 運動・スポーツ実施

- 過去1年間に運動やスポーツを行った人は約 58%で、全国調査を約 10 ポイント下回る。
- 運動・スポーツを行った人の実施頻度では、週に 1 日以上の日常的な実施者が約 57%を占め、全国調査を若干上回る。
- 『運動・スポーツの日常的な実施者』が調査者全体に占める割合は 33%で、前回調査とほぼ同じであるが、「週 3 日以上」は前回調査を大きく上回る。
- 性別では男性が約 36%、女性が 31%で、全国調査と比較すると男性はほぼ同じ、女性は 7 ポイント下回る。特に、男性の 40 歳代と女性の 20 歳代、30 歳代が、全体平均を大きく下回る。年代別に全国の値と比較すると 20 歳代で 11 ポイント、40 歳代で 5 ポイント全国平均を上回り、逆に 30 歳代で 4 ポイント、60 歳以上で 12 ポイント下回る。
- 若い層ほど運動・スポーツから遠ざかる女性。男性 40 歳代は、運動・スポーツ実施の『落ち込み年代』となっている。

何らかの運動・スポーツをこの1年間に行った人は全体の約 58%で、質問紙の形式が若干異なり正確な比較は難しいが、総理府調査(68.0%)を約 12 ポイント下回っている。この傾向は、20 歳代を除けば男女ともあらゆる年代に共通している。運動・スポーツを行っている人の実施頻度では、『運動・スポーツの日常的な実施者(「週 3 日以上」+「週 1~2 日」)』が 57.3%で過半数を占めており、総理府調査(54.7%)を 2.6 ポイント上回る結果となった。

『運動・スポーツの日常的な実施者』が回答者全体に占める割合は 33.0%で、前回調査(32.2%)とほぼ同じ割合であるが、総理府調査の 37.2%を約 4 ポイント下回った。性別では男性が 35.8%、女性が 31.0%で、男性は総理府調査(36.4%)とほぼ同じ、女性は総理府調査(38.0%)を 7 ポイント下回った。

年代別に『運動・スポーツの日常的な実施者』の割合を見ると、男性は 20 歳代が 48.3%と非常に高く、50 歳代(38.8%)も男性全体の平均を上回っている。逆に 40 歳代(24.1%)は非常に低く

なっており、運動・スポーツ実施の『落ち込み年代』となっている。女性は、50 歳代(38.8%)と 60 歳以上(33.3%)で女性全体の平均を上回ったが、逆に 20 歳代(23.5%)と 30 歳代(22.8%)で平均を下回った。女性の若い年代で実施頻度の低いことが全体の割合を低下させている。

総理府調査と比較すると、今回調査が 20 歳代で 34.9% - 23.6%、40 歳代で 28.4% - 23.4%と、それぞれ約 11 ポイントと 5 ポイント高くなっており、逆に 30 歳代で 27.0% - 30.6%、60 歳以上で 33.3% - 44.9%と、約 4 ポイントと 12 ポイント低かった。今回調査の実施頻度が総理府調査と比較して低くなったのは、60 歳以上の『運動・スポーツの日常的な実施者』が、全国値と比較して相対的に低い割合にとどまったことに起因している。

(2)この1年間に行った運動・スポーツの種目

- 男女ともとび抜けて実施頻度の高いのは「ウォーキング」。
- 男性はゴルフ派、女性は「体操(ラジオ体操、職場体操、美容体操、なわとびを含む)」や「健康づくりの水泳」「ハイキング・ピクニック」など、健康づくりの身近な運動やアウトドア活動が高い実施率。
- 20 歳代、30 歳代の「スキー・スノーボード」「海水浴」、50 歳代、60 歳以上の「ハイキング・ピクニック」「登山」、男性 20 歳代～40 歳代の「キャンプ・オートキャンプ」、50 歳代、60 歳以上の「釣り・狩猟」など、性や年代の特徴が明らかなアウトドアの運動・スポーツ。
- 40 歳代から高まる健康づくりへの関心。「ウォーキング」は、男女とも 40 歳代から実施率が高まり、50 歳代、60 歳以上で 50～60%の極めて高い実施率。「健康づくりの水泳」は、女性の 40 歳代以降で特に高い実施率。
- 男性 20 歳代で「サッカー」が「野球」や「ソフトボール」を上回り非常に高い実施率。サッカー人気で地域スポーツの王者交代の兆しも、「ソフトボール」と「卓球」「テニス」は、中高年世代を中心に依然として根強い人気を保つ。

この1年間に行った運動・スポーツでは、「ウォーキング」が 46.8%ととび抜けて高く、性別でも男女ともに 40%を超えて第 1 位にあげられた。次いで、男性では「練習場でのゴルフ」(30.1%)、「ゴルフ」(26.9%)、「軽い球技」(25.6%)が、女性では、「体操(ラジオ体操、職場体操、美容体操、なわとびなどを含む)」(29.5%)、「健康づくりの水泳」(26.5%)、「ハイキング・ピクニック」(23.0%)が、上位 4 位までにあげられた実施率の高い活動である。男性はゴルフ、女性は健康づくりの身近な運動・スポーツやアウトドア活動への関心の高さが特徴的である。

年代別の特徴をあげると、「ウォーキング」は男女とも 40 歳代から実施率が高まり(男性 23.8%、女性 35.1%)、50 歳代と 60 歳以上で、男性は 52.5%と 61.5%、女性は 48.8%と 60.7%で、それぞれ第 1 位にあげられた実施率の高い活動である。同様の傾向は、女性の「健康づくりの水泳」にも見られる。30 歳代(19.5%)から実施率が高くなり、40 歳代(35.1%)、50 歳代(25.6%)、60 歳以上(25.0%)で、それぞれ第 3 位にあげられた。また、「ハイキング・ピクニック」も、男性は 40 歳代

(14.3%)から実施率が高くなり、50歳代(25.0%)、60歳以上(30.8%)では4位、3位にあげられた。女性は30歳代(22.0%)から実施率が高くなり、50歳代(27.9%)、60歳以上(23.2%)では2位、4位にあげられた。これらは代表的な健康づくりの運動・スポーツであり、健康づくりを意識した運動・スポーツへの取り組みは、男性では40歳代、女性では30歳代辺りから始まり、50歳代と60歳以上でピークとなる状況が伺われた。

アウトドアの運動・スポーツは、20歳代、30歳代で「スキー・スノーボード」「海水浴」が、50歳代、60歳以上で「ハイキング・ピクニック」、「登山」が、男女に共通して実施率が高くなった。男性では20歳代から40歳代の各年代で「キャンプ・オートキャンプ」が、50歳代、60歳以上で「釣り・狩猟」が比較的高い実施率で行われており、性や年代によって好まれる活動が異なるのが特徴的である。

その他では、地域スポーツとしてポピュラーな「野球」と「ソフトボール」が、男性の20歳代で28.0%と比較的高い割合で第6位にあげられた。しかし、同じ男性20歳代で「サッカー」が36.0%の高い実施率で第4位にあげられており、20歳代では地域スポーツの王者交代の兆しが伺われた。しかし、「ソフトボール」や「卓球」「テニス」は、中高年世代を中心に依然として高い人気を保っており、「ソフトボール」は男性40歳代以上の各年代で、「卓球」は女性の30歳代から50歳代の各年代で、「テニス」は男性の30歳代、女性の30歳代から50歳代の各年代で、比較的高い割合で楽しめる活動となっている。

(3) 今後行ってみたい運動・スポーツの種目

- 今後行ってみたい運動・スポーツの中心は健康づくりの運動・スポーツ。ベスト4は、「健康づくりの水泳」「ハイキング・ピクニック」「ウォーキング」「体カトレーニング」。
- 「健康づくりの水泳」は、男性の40歳代以上の各年齢層、女性は全ての年齢層で1位、2位に上げられる人気種目。
- 「スキー・スノーボード」「ボート・カヌー・ダイビング」「キャンプ、オートキャンプ」「釣り」「登山・トレッキング」など、高まるアウトドア志向。アウトドアの運動・スポーツは、性や年代によって好まれる活動が異なっているのが特徴的。
- 「テニス」は男性20歳代と30歳代、女性は20歳代から40歳代の各年代で変わらぬ人気。「野球」は男性20歳代と30歳代、「ソフトボール」は50歳代と60歳以上で根強い人気。
- 「太極拳」は女性の40歳代以上に、「エアロビクス」は20歳代と30歳代、50歳代に支持される健康づくり運動。
- その他では、「フォークダンス・社交ダンス・民踊」が女性の60歳以上に人気の高いことが特徴的。「ゴルフ」は男性の30歳代以上の各年代に根強く支持されるも、行った割合に比べて行ってみたい割合は低下。
- 『潜在需要』の高いのは、スイミングや器具を使ったトレーニングなどの健康づくりの運動とアウトドアの運動・スポーツ。潜在需要の低いのは手軽な運動・スポーツやゴルフ。

今後行ってみたい種目は、「健康づくりの水泳」(30.6%)、「ハイキング・ピクニック」(25.3%)、「ウォーキング」(22.6%)、「体力トレーニング(器具を使う体力づくり運動)」(18.5%)、「スキー、クロスカントリースキー、スノーボード」(17.5%)がベスト5で、健康づくりとアウトドアの運動・スポーツが高い人気を集めている。特に、「健康づくりの水泳」は、男性の40歳代以上の各年代、女性は全ての年代で1位、2位に、「ウォーキング」は女性の40歳代以上の各年代、「ハイキング」は男性の50歳代以上の各年代で、1位、2位に挙げられた人気種目である。その他の健康づくり運動では、「太極拳」が女性の40歳代以上に、「エアロビクス」が20歳代、30歳代、50歳代に、比較的高い割合で今後行ってみたい活動としてあげられた。

アウトドアの運動・スポーツは、男性20歳代で「スキー・スノーボード」、30歳代で「キャンプ・オートキャンプ」、40歳代で「釣り・狩猟」、50歳代、60歳以上で「ハイキング」がそれぞれ1位に、女性20歳代、30歳代で「ボート・ヨット・カヌー・ダイビング」が1位、2位、30歳代、40歳代で「スキー・クロスカントリースキー・スノーボード」が3位、50歳代、60歳以上で「ハイキング・ピクニック」が4位に上げられた人気の高い活動で、性や年代によって好まれる種目が異なるのが特徴的である。

地域スポーツの定番である「テニス」は、男性の20歳代と30歳代、女性の20歳代から40歳代の各年代で変わらぬ人気を保っている。同じく「野球」は男性の20歳代、30歳代、「ソフトボール」は50歳代、60歳以上で、根強い人気のスポーツとなっている。

その他では、女性の60歳以上で「フォークダンス・社交ダンス・民謡」が27.3%の高い割合であげられたのが特徴的である。また、「ゴルフ」は男性の30歳代以上の各年代で根強く支持されているものの、この1年間に行った割合(男性26.9%、女性5.5%)に比べて今後行ってみたい割合(男性16.8%、女性5.9%)は、特に男性で大きく低下している。

“今後行ってみたい割合”から“この1年間に行った割合”を差し引いた運動・スポーツの『潜在需要(希望率 - 実施率)』では、「健康づくりの水泳」、「スキー・スノーボード」、「体力トレーニング」、「ハイキング・ピクニック」、「釣り・狩猟」などがプラスに、「ウォーキング」、「体操(ラジオ体操、職場体操、美容体操、なわとびを含む)」、「練習場でのゴルフ」、「軽い球技(キャッチボール、バレーボールの円陣パス、ピンポン等)」、「海水浴(遊泳)」などがマイナスになった。スイミングや器具を使ったトレーニングなどの健康づくりの運動とアウトドアの運動・スポーツの潜在需要が高く、手軽な運動・スポーツやゴルフが低い結果となった。

(4) 運動・スポーツを行った理由

- 生活の楽しみづくりと健康づくりが、運動・スポーツをする主な目的。「楽しみ・気晴らしとして」「健康・体力づくり」「運動不足を感じるから」が、運動・スポーツを行った理由のベスト3。
- 男性では20歳代、30歳代で「友人・仲間との交流」が第2位に、「健康・体力づくり」は男性の60歳以上、女性の40歳代以上の各年代で第1位にあげられた。

運動・スポーツを行った理由では、「楽しみ・気晴らしとして」が62.9%で最も高く、次いで「健康・

体力づくりのため」(59.3%)、「運動不足を感じるから」(48.2%)、「友人・仲間との交流」(35.5)%と続いている。このように運動・スポーツは、生活の楽しみづくり、健康・体力づくり、仲間との交流を主な目的として行われている。

(5) 運動・スポーツを行わなかった理由

- 「時間がない」「機会がない」「年をとったから」が、運動・スポーツをしない理由のベスト3。
- 男性では、「機会がない」が第1位、女性は「金がかかるから」が第3位の高い割合。
- 運動・スポーツ実施の『落ち込み年代』である男性40歳代は、「時間がない」「機会がない」に続いて「金がかかるから」「場所や施設がないから」が主な理由。
- 同じく落ち込み年代である女性の20歳代、30歳代では、「機会がなかった」がそれぞれ3位、2位に上げられる高い理由。
- 「体が弱いから」がベスト3にあげられた全国調査と顕著な違いは、「機会がないから」「仲間がいないから」「場所や施設がないから」の高い割合。

この1年間に「運動・スポーツをしなかった」人に、「運動・スポーツをしなかった」理由をたずねた結果、「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がなかった」49.6%、「機会がなかった」43.8%、「年をとったから」23.8%が、ベスト3にあげられた。

性別では、男性では「機会がない」が第1位、女性は「金がかかるから」が第3位の高い割合であげられた。

運動・スポーツ実施の『落ち込み世代』である男性40歳代は、対象人数が8人で正確な分析は難しいが、「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がなかった」「機会がなかった」に続いて「金がかかるから」(37.5%)と「場所や施設がないから」(25.0%)が比較的高い割合であげられた。男性40歳代は、子育てや仕事に忙しく、子どもの教育や住まいに金のかかる年代でもある。それだけに時間がない、金がかかるが、しなかった理由に高い割合で上げられたと考えられるが、「機会がなかった」と「場所や施設がないから」は、身近で手軽に運動やスポーツを行う環境を整備することで対応可能な問題である。同じ落ち込み年代である女性の20歳代、30歳代でも、「機会がなかった」はそれぞれ3位、2位にあげられており、学校スポーツ施設等の身近なスポーツ施設の活用や手軽に参加できるプログラムの提供、スポーツクラブの育成などが求められている。

総理府調査との比較では、総理府調査で「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がなかった」「年をとったから」に続いて、ベスト3にあげられた「体が弱いから」(15.8%)が、今回調査では11.7%で8番目の低い順位であったことに加えて、「機会がなかった」が、総理府調査(8.6%)、今回調査(43.8%)と大きく異なった点があげられる。スポーツ環境の整備に関わる項目では、他に「仲間がいないから」(総理府 4.9% - 今回調査 18.4%)、「場所や施設がないから」(2.4% - 16.0%)も同様であり、運動・スポーツ環境の一層の充実が求められている。

(6) 運動・スポーツを実施した場所

- 運動・スポーツを実施した場所では、「民間(商業)スポーツ施設」「公園・河川敷など」「公共のスポーツ施設」がベスト3。
- 「公共のスポーツ施設」は、前回調査より 11.5 ポイントの伸び。特に女性は 31.5%の高い利用率。
- 利用している公共施設では「スポーツセンター」「体育館」「屋外プール」がベスト3。
- 前回調査より若干上昇するも依然として低い「学校のスポーツ施設」の利用率。

過去1年間に運動・スポーツを行った人が利用した運動・スポーツ施設では、「民間(商業)スポーツ施設」(32.7%)、「公園・河川敷など」(30.5%)、「公共のスポーツ施設」(27.1%)がベスト3で、公共のスポーツ施設では「スポーツセンター」(32.7%)、「体育館」(24.5%)、「屋外プール」(18.4%)、「テニスコート」(16.3)%が上位に上げられた。

前回調査と比較すると、「民間(商業)スポーツ施設」が約 5 ポイント低下しているのに対し、「公共のスポーツ施設」は 11.5 ポイントと大きく上昇しており、特に女性は 31.5%と前回調査(15.0%)を 16.5 ポイント上回る高い利用率を示している。

「学校のスポーツ施設」の利用率は9.4%で、前回調査(7.5%)より約2ポイント上昇しているものの、依然として低い利用率にとどまっている。

3. クラブ・同好会の加入状況について

総理府調査は、運動・スポーツクラブ加入者の割合が長期に停滞傾向にあり、日常的な運動・スポーツ実施者の増大は、必ずしも運動・スポーツクラブへの加入率の増大と連動していないことを示している。しかし、「スポーツ振興基本計画」で総合型地域スポーツクラブの育成を生涯スポーツ社会づくりの大きな柱として打ち出したように、運動・スポーツのクラブ・同好会への加入が、継続的で日常的な運動・スポーツの実施に大きな影響を与えることは言うまでもない。ここでは市民のクラブ・同好会の加入状況について見ていくことにする。

(1) クラブ・同好会への加入状況

運動・スポーツのクラブ・同好会への加入率は 19.3%で、前回調査を若干下回るも、全国と比べて高い加入率。
男性(21.3%)の加入率が女性(18.3%)を上回る。
高い男性 20 歳代、女性 50 歳代の加入率。男性 50 歳代、女性の 30 歳代、40 歳代が加入率の低い年代。

男女とも 60 歳以上の加入率は高く、高齢世代の加入率上昇が著しい。
全国調査との比較では、男女ともに 4~5 ポイント高い加入率。特に 20 歳代と 60 歳以上で全国を大きく上回る加入率。男性 50 歳代と女性 30 歳代は加入率の低い年代。

運動・スポーツのクラブ・同好会への加入率は 19.3%で、前回調査(20.8%)を 1.5 ポイント下回ったが、総理府調査の 15.8%を 3.5 ポイント上回った。

男性(21.3%)と女性(18.3%)では加入率に 4 ポイントの違いがあり、男性の加入率が高くなっている。しかし、前回調査との比較では男性は約 6 ポイント低下し、逆に女性は 2 ポイント高くなっている。

年代別では、男性 20 歳代(37.9%)と女性 50 歳代(25.0%)の加入率が高く、男性 50 歳代(14.9%)と女性 30 歳代(5.7%)、40 歳代(15.2%)の加入率が低くなっている。前回調査で他の年代と比較して低かった 60 歳以上の加入率(男性 15.5%、女性 9.1%)は、今回調査では男性 21.2%、女性 23.4%と大きく上昇した。逆に、男性は 30 歳代から 50 歳代までの各年代で、女性は 30 歳代で、加入率が 10 ポイント以上低下した

総理府調査との比較では、今回調査の加入率が男性で 4 ポイント、女性で 4.8 ポイント高く、特に男女とも 20 歳代(男性 37.9% - 20.2%、女性 17.6% - 14.2%)と 60 歳以上(男性 21.2% - 16.3%、女性 23.4% - 13.7%)の加入率が、総理府調査を大きく上回った。また、男性 50 歳代、女性 30 歳代の低い加入率については、総理府調査でもそれぞれ 15.1%、9.2%と最も低い加入率であり、今回調査と同様の傾向であった。

(2) クラブ・同好会の形態

- 「民間のクラブ」「地域のクラブ」「同好者のクラブ」が、加入クラブのベスト 3。
- 大加入率が大きく低下した「職場のクラブ」と「学校関係のクラブ」。上昇した「民間のクラブ」と「同好者のクラブ」。変化するクラブの基盤。
- 女性の「民間クラブ」加入者の割合がさらに上昇し、全国調査を大きく上回る。男性の「同好者のクラブ」加入者の割合も上昇。
- 女性は「公共施設のクラブ」の加入率が相対的に高いのも特徴的。

加入しているクラブ・同好会の形態では、「民間スポーツクラブなどが開設する会員制のクラブ」(以下、民間のクラブ)(35.5%)、「地域の仲間をつくるクラブや同好会」(24.8%)、「広く同好者をつくるクラブや同好会」(以下、同好者のクラブ)(21.5%)がベスト 3 にあげられた。この内、前回調査と比べて加入率が上昇したのは「民間のクラブ」と「同好者のクラブ」で、それぞれ 6.3 ポイントと 4.6 ポイントの上昇であった。特に、「民間のクラブ」は女性の加入率が 43.9%と極めて高く、前回調査を約 5 ポイント上回った。「同好者のクラブ」は 27.8%で男性の加入率 1 位のクラブであり、前回調査を約 9 ポイント上回った。

その他、女性では「公共の体育館やプールなどのクラブや同好会」(以下、公共のクラブ)の加入率が15.2%で4位にあげられており、前回調査を約3ポイント上回った。逆に比較的大きく低下したのは「職場のクラブや同好会」(以下、職場のクラブ)(6.6%)と「PTAなど学校関係のクラブや同好会」(以下、学校関係のクラブ)(7.4%)で、前回調査をそれぞれ約11ポイントと5.6ポイント下回った。特に男性の低下率が著しく、「職場のクラブ」は前回調査の24.4%から9.3%へ約15ポイントへと大きく低下し、「学校関係のクラブ」も12.8%から5.6%へと約7ポイント低下した。

質問の形式が若干異なるので正確な比較は難しいが、総理府調査との比較では、「民間のクラブ」は総理府調査では15.8%であり、今回調査が大きく19.7ポイント上回った。特に女性では43.9%対18.5%で25.4ポイントの大きな違いがある。逆に「職場のクラブ」は総理府調査では20.3%であり、今回調査を13.7ポイントと大きく上回った。特に、男性では9.3%対29.6%で、約20ポイントの大きな違いがある。

仕事縁から趣味縁へと余暇の過ごし方や人の関わりが変化する中で、運動・スポーツのクラブ・同好会でも職場離れが進み、男性では「同好者のクラブ」、女性では「民間のクラブ」の加入率が高くなっている。また、女性の「公共施設のクラブ」への加入率の上昇や、「PTAなど学校関係のクラブや同好会」への加入率の低下は、子ども縁を中心とした地域での人の関わりが薄れ、趣味を中心とした人のつながりが現れつつある状況の現れとも考えられる。

(3) クラブ・同好会への加入意向

- 「加入したい」が全国平均を大きく上回る。
- 現在「加入している」と「加入したい」を合わせた割合は全体の50%近くに達し、運動・スポーツのクラブ・同好会への関心の高さを表している。

クラブ・同好会に加入していない人に加入の希望をたずねたところ、38.0%が「加入したいと思う」と答え、総理府調査の25.2%を約13ポイント上回った。性別では男性36.4%、女性39.2%と、現在の加入率が低い女性の方が「加入したいと思う」人の割合が高かった。

現在「加入している」と「加入したいと思う」を合わせた割合は49.2%と半数に近く、市民のスポーツクラブへの関心の高さを表している。

4. 総合型地域スポーツクラブについて

総合型地域スポーツクラブは、文部省(現文部科学省)の「スポーツ振興基本計画」(平成12年)の中で「生涯スポーツ社会づくり」の中心的施策として打ち出された。これまでの単一世代、単一種目で、競技中心のスポーツクラブの加入率が長期にわたって停滞し、ゆきづまり状況にある中で、多世代、多志向、多種目の新しいタイプのスポーツクラブづくりを目指すものである。現在、地域スポーツ振興の中心施策として全国的に取り組みられている。大阪市でも、総合型地域スポーツクラブを「スポーツパラダイス大阪」づくりにつながる施策の一つとして位置づけて取り組んでいるところである。ここでは、市民の総合型地域スポーツクラブづくりの現時点での認知状況を中心にたずねた。

(1) 総合型地域スポーツクラブの認知度

- 総合型地域スポーツクラブについて「知っている」人の割合は約13%。
- 50歳代以上で高い認知度。

総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)について「知っている」人の割合は13.1%であった。総合型クラブの育成は非常に新しい施策であり、大阪市でも取り組み始めてまだ2年ほどであることを考えれば、現時点での認知度としてはまずまずの割合といえよう。

性別による違いは見られなかったが、年代別でははっきりとした特徴が現れており、男女とも50歳代、60歳以上の認知度が17~18%で、他の年代と比べて非常に高かった。総合型クラブは地域スポーツの振興に関わる施策であり、地域との関わりが相対的に高いと思われる中高年世代で認知度が高くなったものと思われる。

(2) 総合型地域スポーツクラブに関する情報の入手

- 情報の入手先は「市の広報誌」「友人・スポーツ仲間」「新聞・テレビ等」がベスト3。
- 男性は「市の広報誌」、女性は「友人・スポーツ仲間」が第1位。男性は「新聞・テレビ等」の割合も高い。

総合型クラブについての情報の入手先では、「市の広報誌等」(45.1%)、「友人・スポーツ仲間」(39.0%)、「新聞・テレビ等」(22.0%)が、他を大きく離してベスト3にあげられた。先に、総合型クラブについて「知っている」のは50歳代と60歳以上の中高年世代に多いと指摘したが、この年代は広報誌をよく読む年代であり、また市のスポーツ振興施策についての情報は市の広報誌やパンフレット等で多く提供されていることから、「市の広報誌等」の割合が高くなったものと思われる。

性別では、男性は「市の広報誌等」が51.5%とび抜けて高く、女性は「友人・スポーツ仲間」

46.8%と「市の広報誌等」40.1%の割合が高くなっている。女性の中高年世代は、男性に比べて地域で活動することが多く、先のクラブ・同好会の形態でも見たように「公共施設のクラブ」や「学校関係のクラブ」に入っている者も多い。そのため地域情報を友人・スポーツ仲間を通して入手する割合が高くなったものと思われる。また、総合型クラブについては、その新しさからテレビや新聞等で取り上げられる機会も比較的多く、そのため男性で「新聞・テレビ等」で情報を入手する割合が高くなったものと思われる。

(3) 総合型地域スポーツクラブへの関心とその内容

- 総合型地域スポーツクラブに「関心がある」人は、50%を超える高い割合。
- 男性の若い世代が高い関心。
- 「関心がある」人の約 42%が「会員になりたい」、10%が「指導者として参加したい」「立ち上げに参加したい」の積極的関心派。
- 新しいタイプの地域スポーツクラブの提唱にとまどいも。地域住民の主体的な関わりについては「望ましいが現実には難しい」が6割を越す。
- 会費の額は「月 501～1,000 円」と「月 1,000～2,000 円」が中心。
- 希望する公的援助は「活動場所の優先使用」「総合型地域スポーツクラブのPR」「クラブづくりのための情報・ノウハウの提供」がベスト3。

総合型クラブについて「関心がある」人は 53.2%で、回答者の半数以上が「関心がある」と答えており、総合型地域スポーツクラブについての市民の関心の高さが伺われる。性別では違いは見られないが、年代別では、先の総合型クラブについての認知度で「知っている」とする割合が 10%未滿と低かった若い世代の関心の高さが特徴的である。男性の20歳代から40歳代までの各年代と女性の20歳代では、「関心がある」の割合が60%を超え、女性の30歳代、40歳代も55%前後の高い割合を示した。

以下の項目は、「関心がある」と答えた人にたずねたものである。関心のある内容について最も多かった回答は「詳しく知りたい」の 42.3%で、次いで「会員になりたい」(41.7%)、「総合型クラブを立ち上げたい」(5.7%)、「指導者として参加したい」(3.3%)と続いている。性別では「会員になりたい」は女性に多く(39.6% - 43.5%)、「指導者として参加したい」と「総合型クラブを立ち上げたい」の積極派は男性に多い(11.9% - 6.8%)。

総合型クラブは住民主体のクラブ運営を柱としている。地域住民の主体的な関わりについては、「望ましいが現実には難しい」が63.7%、「行政が主体的に取り組むべき」が22.4%となった。地域住民の主体的な関わりの必要性は認めながらも、行政に依存することの多い地域活動の現実から、住民が主体的に関わる新しいタイプの地域スポーツクラブの提唱にとまどっている現状が伺えた。

総合型クラブのもう一つの柱は受益者負担である。自分達のクラブ運営に関わる経費を自分達で負担することは、クラブ運営に対する当事者意識を高めることにつながる。また、安定した財源基

盤を確保することで様々なクラブ機能の提供が可能となり、会員一人一人のクラブライフを充実させることができる。そこで総合型クラブの会費についてたずねたところ、「501～1,000円」が39.6%、「1,000～2,000円」が35.7%、「500円以下」が13.8%となり、回答者の大半は会費を月500円から2,000円の間で考えていた。

希望する公的援助については「活動場所の優先使用」が40.2%、「総合型クラブについてのPR」が35.4%、「クラブづくりの情報・ノウハウの提供」が33.9%、「クラブ助成金」が26.1%で上位にあげられた。

5. スポーツ行事への参加状況について

大阪市では、市民が気軽に運動やスポーツに参加できる機会を提供するために、様々なスポーツ行事を提供している。関心はあっても普段、なかなか運動やスポーツに参加する機会をもてない人々にとっては、スポーツ行事は気軽に運動やスポーツに参加できて、日常的な運動・スポーツ実施への橋渡しとなる大切な機会である。ここでは、スポーツ行事の参加状況や希望するスポーツ行事についてたずねた。

- 地域のスポーツ行事への参加率は11.5%で、前回調査と同じ参加率。
- 中高年世代に高い、行事に参加したり、行事を観戦したりする割合。
- 希望する行事は「野外活動」「健康づくり」「レクリエーション」がベスト3。
- 男性は「野外活動」、女性は「健康づくり」が、中高年世代を中心に高い希望率。
- 男女とも20歳代で高い「スポーツ大会・イベント観戦」。

この1年間のスポーツ行事への参加率は11.5%で、前回調査と同じであった。性別では男性が14.2%、女性が10.0%と、男性の方が約4ポイント高く、「見物した」を加えた割合でも22.9%と18.9%で男性の方が高かった。年代別では、男性20歳代が17.2%、50歳代が17.9%と相対的に高い参加率で、前回調査をそれぞれ約11ポイント、6.4ポイント上回った。全体平均より参加率の低いのは、男性30歳代の6.7%、女性20歳代の5.9%、30歳代の4.3%であった。「見物した」を加えた参加率では、男性は50歳代の26.9%が最も高く、次いで60歳以上が24.1%、40歳代が20.7%と続いている。女性は60歳以上が25.2%で最も高く、次いで40歳代21.2%、50歳代18.8%と続いている。総じて中高年世代が、行事に参加したり観戦したりする割合が高くなっている。

希望する行事では、「野外活動(ハイキングなど)」が36.6%と最も高く、次いで「健康づくり(健康づくりイベント)」が34.0%、「レクリエーション(運動会など)」が15.2%と続いている。

性別では、男性では「野外活動」(42.9%)、女性では「健康づくり」(36.6%)が第1位にあげられた。「野外活動」は、男性の40歳代以上の各年代と女性の20歳代、30歳代で第1位にあげら

れた希望率の高い行事である。女性では 40 歳代以上の各年代でも 30% ~ 40% の高い割合であった。「健康づくり」は、女性の 40 歳代以上の各年代で第 1 位にあげられた。男性も 40 歳代で第 3 位、50 歳代、60 歳以上で第 2 位にあげられた希望率の高い行事である。

「野外活動」「健康づくり」がどちらかといえば中高年世代に希望の高い行事であるのに対し、20 歳代で希望率の高いのは「全国・国際スポーツ大会やイベント観戦」であり、男性では 20.7% で 3 位に、女性では 23.5% で 1 位にランクされた。また、男性の 20 歳代では、「競技大会(区民スポーツ大会)」が 41.4% で 1 位に、「テスト(体力テスト・スポーツテスト)」が 34.5% で 2 位にランクされ、他の年代とは際だった特徴を示した。

6. スポーツボランティアの活動について

ボランティアは“自己実現を対価としたレジャー”と言われるように、近年、社会にとっても個人にとってもその重要性が注目され、関心を集める活動となっている。スポーツの分野では、従来から地域スポーツの指導等に多くのボランティアが関わってきたが、スポーツ行事やイベントのボランティア、あるいはスポーツクラブの運営に関わるボランティアなど、新しいタイプのスポーツボランティアへの関心が高まっている。ここでは、スポーツボランティアの活動状況を中心にみていくことにする。

- 過去1年間のスポーツボランティアの経験者は 7.0%。前回調査を 1.7 ポイント、全国制令指定都市の平均を 1.5 ポイント上回る。
- 性別では男性が女性を上回り、年代別では男性の 20 歳代、30 歳代と、50 歳代の経験率が高くなっている。
- ボランティア活動の内容では、「大会・イベントの運営や世話」と「団体・クラブの運営や世話」が中心。
- 24.4% が活動参加への関心を示し、全国政令指定都市平均を 5.7 ポイント上回る。
- 男女とも 20 歳代と 40 歳代以上の各年代で高いボランティアへの関心。

過去1年間のスポーツボランティアの経験者は 7.0% で、前回調査(5.3%)を 1.7 ポイント、総理府調査の全国制令指定都市の平均(5.5%)を 1.5 ポイント上回った。性別では男性(11.0%)が女性(4.4%)を上回り、年代別では男性の 20 歳代が 17.2%、30 歳代が 13.3%、50 歳代が 14.9% と、男性全体の平均を上回って比較的高い経験率を示した。女性では、どの年代も経験率が低くなっているが、中では 40 歳代が 7.6% で最も高い経験率となった。

行っているボランティア活動の内容では、「大会・イベントの運営や世話」(24 件)と「団体・クラブの運営や世話」(22 件)が中心となっている。

今後のボランティア活動への意向をたずねたところ、「ぜひ行いたい」が 2.4%、「できれば行い

たい」が22.0%と、活動参加への関心を示す者の割合が24.4%を占め、前回調査(22.9%)を1.5ポイント、全国政令指定都市平均(19.7%)を5.7ポイント上回った。年代別では、活動参加への関心を示す者の割合が、男女とも20歳代と40歳代以上の各年代で高くなっている。特に男性20歳代で、「ぜひ行いたい」とボランティア活動への強い意欲を示す者が20.7%を占めているのは注目される。

7. スポーツの試合・大会の観戦について

大阪市では、「スポーツパラダイス大阪」の実現をめざして、全国的・国際的なスポーツ大会、イベントの招致を進めている。質の高いスポーツ大会やイベントの開催は、健全なレクリエーションやエンタテインメントの機会を提供し、都市生活に豊かさをもたらすだけでなく、感動や興奮、夢やあこがれ、生きるよろこびなど、スポーツ的感化と言われる優れた教育的機会を提供する。様々なボランティア体験の機会を提供し、自己実現と社会的交流の機会を提供する。また、活発な消費生活を誘導し経済を活性化させるなど、まちづくりへの様々な貢献が期待できる。ここでは、スポーツの試合や大会の観戦の現状について見ていくことにする。

- 競技場でのスポーツの試合や大会の観戦経験は28.0%で、前回調査を上回るも、全国13大都市の観戦率は大きく下回る。
- 女性を上回る男性の観戦率。特に観戦率の高いのは、男性20歳代から40歳代。
- 圧倒的に観戦率の高い「野球」。「野球」と「サッカー」が2大観戦スポーツ。
- テレビでの観戦経験は、週に1回以上が70%を越し高い観戦率。
- 「野球」と「サッカー」の観戦率は拮抗。女性で高い「サッカー」観戦。パンパシフィック大会の影響大きい「水泳」の高い観戦率。

この1年間に競技場で直接スポーツの試合・大会を観戦した人の割合は28.0%で、前回調査を約4ポイント上回っている。しかし、笹川スポーツ財団の「スポーツライフ・データ2000」で13大都市の観戦率が42.3%であることを考えれば、今回調査の観戦率は、大都市としては非常に低いスポーツ観戦率であるといえる。

性別では、男性(33.5%)、女性(24.1%)と、男性の観戦率が上回っていた。特に男性の20歳代から40歳代までの各年代は、いずれも40%を超える高い観戦率である。

観戦経験者に観戦した試合や大会の種目についてたずねたところ、プロ野球を中心とした「野球」(65.7%)が、男女とも60%を超えて高い観戦率であった。第2位にあげられたのは「サッカー」(21.7%)で、特に男性が27.1%と高い観戦率を示した。その他では、男性でラグビー(7.1%)、女性で「卓球」(6.9%)が相対的に高い観戦率であった。

テレビでの観戦経験は、「よく見る(週に3回以上)」が37.7%、「ときどき見る(週に1~2回)」が

33.2%で、『週に1回以上』テレビでスポーツを観戦している人の割合は約 71%と、高い観戦率を示した。性別では、男性の 53.5%が『週に3日以上』、85.8%が『週に1回以上』観戦しており、非常に高い観戦率であるといえよう。大阪の男性は、“テレビでスポーツをよく見るが、スタジアムにはなかなか足を運ばない”という状況が伺える。テレビでの観戦率が高いのは「野球」と「サッカー」で、63.7%、61.3%と、60%を超して拮抗する高い観戦率であった。「野球」と「サッカー」は男女で観戦率が逆転しており、男性は「野球」(72.4%)、女性は「サッカー」(65.4%)の観戦率がより高かった。また、「水泳」も 35.6%の高い観戦率を示したが、調査の直前に行われたパンパシフィック大会が、民放でドラマ性を高めて放映されたことの影響が大きかったと思われる。その他、「ゴルフ」が男性で 17.3%と比較的高い観戦率であった。

8. 国際競技大会、オリンピックムーブメントに関する意識について

先に述べたように、大阪市は「スポーツ国際都市大阪」の創造をめざして様々な国際競技大会の招致に努めている。また、WOA(世界オリンピック協会)と共催で、オリンピックの精神をまちづくりやスポーツの振興に生かすべく様々な取り組みを行っている。ここでは、それらの活動の認知度や期待についてたずねた。

- 70%に近く、群を抜く「2002 FIFAワールドカップ」の高い認知度。「アジア競技大会」「世界卓球選手権大会」「国際グランプリ陸上大会」が、認知度のベスト4。
- 認知度 12.6%。まだこれから「世界柔道選手権大会」のPR。
- 開催を希望する国際競技大会の種目は、「サッカー」「水泳」「陸上競技」「総合的競技大会」「野球」などが高い割合。
- 性、年代で異なる希望種目。「サッカー」は男性では若い年代で、女性では 30～50 歳代で希望されており、「野球」は男性の、「バレーボール」は女性の中高年に高い希望。
- オリンピックに期待する活動では、「スポーツイベントへの参加・交流」「地域のスポーツクラブ等での交流・指導」「学校訪問」がベスト3。
- 女性に多い「学校訪問」、男性に多い「スポーツに関する講演会」。「学校訪問」は、男女とも学齢期の子どもを持つ年代である 30 歳代、40 歳代に高い希望。「地域のスポーツクラブ等での交流・指導」は、男性は 40 歳代以上、女性は 50 歳代以上で、中高年に高い希望。

大阪市で開催されたり、これから開催される国際競技大会の認知度では、「2002 FIFAワールドカップ」が 68.2%で際だって高い結果となった。また、ここ 1～2 年の間に開催された「東アジア競技大会」(22.5%)、「世界卓球選手権大会」(16.6%)、「国際グランプリ陸上大会」(16.3%)が、認知度の高い大会ベスト 4 であった。2003 年に開催予定の「世界柔道選手権大会」の認知度は 12.6%で、なお一層のPRが必要である。

開催を希望する国際競技大会の種目では、「サッカー」「水泳」「陸上競技」「総合的競技大会」「野球」など、ここ数年に行われた国際大会の種目が多く選ばれた。性別では、男性は20歳代と30歳代が「サッカー」、40歳代は「水泳」、50歳代と60歳以上では「野球」と「陸上」が、女性は20歳代が「水泳」、30歳代から50歳代の各年代が「サッカー」、60歳以上で「水泳」と「バレーボール」の希望が高くなっており、性や年代で希望種目が異なっているのが特徴である。

オリンピックに期待する活動では、「スポーツイベントへの参加・交流」(44.1%)、「地域のスポーツクラブ等での交流・指導」(37.7%)、「学校訪問」(33.9%)がベスト3となった。「スポーツイベントへの参加・交流」は、男女とも20歳代と30歳代を中心に各年代で高い割合で期待された。その他の性や年代による特徴では、「学校訪問」は女性に多く(女性38.8% - 男性28.0%)、「スポーツに関する講演会」は男性に多かった(男性25.2% - 女性16.6%)。また、「学校訪問」は、男女とも30歳代、40歳代の学齢期の子どもを持つ年代に期待が高く、「地域のスポーツクラブ等での交流・指導」は、男性は40歳代以上、女性は50歳代以上と、中高年に期待が高かった。

9. スポーツ情報サービスについて

インターネットの普及や放送のデジタル化が急速に進み、情報をめぐる環境は大きく変化している。スポーツの領域においても、インターネットを通じたスポーツ情報の入手や、パソコン等による施設利用、イベント参加の申し込みなど、情報環境は変化しつつある。

ここでは、スポーツ情報サービスの現状を、市民の情報入手先や希望する情報について見ていくことにした。

- 「市区広報誌から入手」が60%を超えて際だって高いスポーツ情報の入手先。
- 「新聞」「テレビ・ラジオ」「車内広告で」を加えて情報入手先のベスト4。
- 20歳代を中心に徐々に高まる「インターネット」での情報入手。
- 「施設」「行事・イベント」「教室やプログラム」「全国的、国際的なスポーツ大会」が、知りたい情報ベスト4。「クラブやサークル」がそれに続いて比較的高い希望。
- 「クラブやサークル」は、男性は若い年代、女性は中年世代に高い希望。

スポーツ情報を主に何で知るかについては、「大阪市政だよりや区の広報誌など、行政が出す刊行物・広報、パンフレット」(以下、市区広報誌から入手)が60.9%と際だって高く、次いで「新聞・新聞広告で」(32.9%)、「テレビ・ラジオで」(29.9%)、「電車・バスなどに貼られた広告で」(以下、車内広告)(20.9%)と続いている。これら4項目が他を大きく引き離して高い情報入手先であった。前回調査との比較では、上位の順位はあまり変わらないものの、「市区広報誌から入手」は56.3%から60.9%へ、4.6ポイント高くなり、逆に「車内広告」が約7ポイント、「知人・友人から」が9.8ポイント低くなった。

性別では、女性は「市区広報誌から入手」が64.5%で男性を約8ポイント上回り、男性は「新聞・

新聞広告で」が 39.0%で女性を 10.7 ポイント上回った。

その他、年代別の特徴は、20 歳代で「新聞・新聞広告で」の情報入手の割合が非常に低い反面、「インターネット」の割合が高くなっていることである。スポーツ情報の入手については、まだ広報誌や新聞などのアナログ情報が中心であるが、若い年代で接触する情報媒体の変化の兆しが伺えた。

知りたい情報では、「スポーツ施設について」が 43.6%で最も高く、次いで「市民参加型の行事・イベント」(28.0%)、「スポーツ教室やスポーツプログラム」(26.5%)、「全国的、国際的なスポーツ大会」(21.7%)と続いている。「スポーツクラブやサークル」についての情報も、17.6%の比較的高い割合であげられた。性別では、男性で「全国的・国際的なスポーツ大会やイベント」が 27.6%で第 3 位にあげられ、女性で「スポーツ教室やスポーツプログラム」が 29.9%で第 2 位にあげられた。

年代別では、「スポーツ施設について」が、女性の 60 歳代以上を除く全ての年代で、知りたい情報の第 1 位にあげられた。その他、「スポーツ教室やプログラム」が男性の 30 歳代と 40 歳代で 30%を超えて第 2 位に、「スポーツクラブやサークル」が 40 歳代で 31%で第 3 位にあげられた。「スポーツクラブやサークル」は、20 歳代と 30 歳代でも 20%を超す比較的高い割合であげられていた。また、女性の 60 歳以上で「市民参加型の行事やイベント」が 35.1%で第 1 位に、40 歳代と 50 歳代で「スポーツクラブやサークル」が、19.7%、22.5%の比較的高い割合であげられた。「スポーツクラブやサークル」は、男性では若い年代を中心に、女性では中年世代を中心に希望されているのが特徴的である。

10. スポーツ都市大阪のイメージ

大阪市は、「スポーツパラダイス大阪」の創造をかかげてスポーツの振興に取り組んでいる。「スポーツパラダイス」とは、市民の活発なスポーツ参加に支えられた「スポーツの楽しさがあふれるまち大阪」、世界の人々をあたたく迎えるホスピタリティと質の高い都市基盤・スポーツ環境に支えられた「国際スポーツ都市大阪」の実現である。そのような視点にたつて、ここでは「スポーツ都市大阪」についての市民のイメージについてたずねた。

スポーツ都市大阪の代表的なイメージは、「自然につつまれてスポーツが楽しめるまち」と「手軽に利用できるスポーツ施設が整備されたまち」。

- 「市民のためのスポーツ大会・行事が多く開催されるまち」を加えてベスト 3。“緑につつまれ、手軽にスポーツを楽しめるまち”が、市民が抱くスポーツ都市大阪のコアイメージ。
- 「全国的・国際的なスポーツ施設が整備されたまち」「全国的・国際的レベルのスポーツ大会が多く開催されるまち」も、比較的高い割合で支持されるイメージ。

市民の「スポーツ都市大阪」のイメージは、「自然につつまれてスポーツが楽しめるまち」が

55.6%、「手軽に利用できるスポーツ施設が整備されたまち」が 52.7%で、群を抜いて高い割合となった。「市民のためのスポーツ大会・行事が多く開催されるまち」の 17.1%を加えてベスト3となり、市民がスポーツ都市大阪に抱くコアイメージは、“緑につつまれ、手軽にスポーツを楽しめるまち”となった。この傾向は特に女性に顕著で、「手軽に利用できるスポーツ施設が整備されたまち」は、56.5%と男性を約 9 ポイント上回った。

大阪市が国民体育大会を契機に整備を進めた「全国的・国際的なスポーツ施設が整備されたまち」や、それらを生かして活発な招致を行っている「全国的・国際的レベルのスポーツ大会が多く開催されるまち」も、それぞれ 12.5%、12.3%で、比較的高い割合で支持された。この傾向は特に男性に顕著で、「全国的・国際的なスポーツ施設が整備されたまち」は、17.7%と女性を約 9 ポイント上回った。

前回調査との比較では、「自然につつまれてスポーツが楽しめるまち」は、今回調査が 5.7 ポイント高く、「手軽に利用できるスポーツ施設が整備されたまち」は 2.4 ポイント低くなった。「市民のためのスポーツ大会・行事が多く開催されるまち」は、ほぼ同じ割合であった。「全国的・国際的なスポーツ施設が整備されたまち」は順位が 3 位から 4 位に、割合が約 5 ポイント低下したが、「全国的・国際的レベルのスポーツ大会が多く開催されるまち」は、ほとんど同じ割合であった。「全国的・国際的なスポーツ施設が整備されたまち」の割合の低下は、大規模施設がほとんど整備されて、施設があることがあたりまえに感じられるようになったことの影響が考えられる。

全体で 1 位・2 位にあげられた項目は、男女とも、年代に関わりなく 1 位・2 位にあげられた。傾向としては「手軽に利用できるスポーツ施設が整備されたまち」は、20 歳代から 40 歳代までの比較的若い年代に、「自然につつまれてスポーツが楽しめるまち」は、男性は 50 歳代と 60 歳以上、女性は 40 歳代以上の、中高年世代で最も高くイメージされた。

その他の年代別の特徴では、「全国的・国際的レベルのスポーツ大会が多く開催されるまち」が、男性の 20 歳代、30 歳代と 60 歳以上、女性の 30 歳代で、それぞれ 20%を超して第 3 位にあげられた。比較的若い世代に「全国的・国際的なスポーツ大会が開かれるまち」のイメージが高いことが伺われた。

市民のスポーツ都市大阪のイメージは、“緑につつまれ、手軽にスポーツを楽しめるまち”であり、「スポーツの楽しさがあふれるまち大阪」につながるイメージである。それらのイメージをコアにして、文化・情報の発信基地としての“国際的なスポーツ大会やイベントが開催され、それに必要な大規模スポーツ施設が整備されたまち”、すなわち「国際スポーツ都市大阪」につながるイメージがブレンドされたのが、市民が抱く「スポーツ都市大阪」のイメージであった。

第 1 章

調查概要

1. 調査の全体構成

本調査は 10 部から構成されており、詳細は以下のようになっている。

1. 健康に関する意識について
 - ・健康状態 ・健康維持の方法
2. 運動・スポーツの実施状況について
 - ・実施状況 ・実施頻度 ・実施した種目 ・今後行ってみたい種目
 - ・実施理由 ・実施しなかった理由 ・実施場所
3. クラブ・同好会の加入状況について
 - ・加入状況 ・形態 ・今後の加入意向
4. 総合型地域スポーツクラブについて
 - ・認知度 ・情報の入手先 ・関心の有無 ・関心の程度 ・意識 ・会費
 - ・公的援助の内容
5. スポーツ行事への参加状況について
 - ・参加状況 ・希望するスポーツ行事
6. スポーツボランティアの活動について
 - ・経験の有無 ・活動の内容 ・今後の活動意向
7. スポーツに関する試合・大会の観戦について
 - ・競技場での観戦経験 ・競技場で観戦した種目 ・テレビでの観戦経験
 - ・テレビで観戦した種目
8. 国際競技大会、オリンピックムーブメントに関する意識について
 - ・認知度 ・希望する国際競技大会の種目 ・オリンピックに行ってもらいたい活動
9. スポーツ情報サービスについて
 - ・情報の入手先 ・入手したいスポーツ情報
10. 「スポーツ都市大阪」のイメージについて

2. 調査の方法

(1) 調査対象

大阪市内に住居する満 20 歳以上の者(2002 年 8 月現在)

(2) 対象の抽出

対象の抽出数は 2,000 であり、大阪市の人口(2,598,774 人:平成 12 年度国勢調査)の約 1,000 分の 1 に相当する。抽出方法は、住民基本台帳と外国人登録原票から、大阪市内各区の選挙区における母集団の大きさを算出し、それぞれ 2,000 の調査票配布数を比例配分した。その上で、調査対象者を選挙人名簿と外国人登録原票から無作為抽出した。

(3) 調査方法

配布、回収とも郵送法による自記入方式

(4) 調査期間

2002 年 8 月～同年 9 月

- ・ 調査票発送 8 月 28 日
- ・ 調査票回収 8 月 30 日～9 月 20 日

(5) 回収状況

配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
2,000 票	649 票	32.5%	626 票	31.3%

3. 調査対象の一般特性

(1) 回答者の性別

回答者の性別比率は、男性が 40.6%、女性が 57.7%となっており、女性の回答者が多かった(図 1.)。なお、国勢調査(平成 12 年度)における大阪市の 20 歳以上人口の男女比率は、男性が 48.5%、女性が 51.5%となっていた。



図 1. 回答者の性別構成比(単独回答、単位:%)

(2) 回答者の年齢

回答者の年代別比率は、60 歳以上が 35.1%と一番高くなっており、次いで 50 歳代が 23.5%、30 歳代が 16.1%、40 歳代が 15.2%、20 歳代が 10.1%の順になっていた(図 2.)。

また性・年代別の順位をみても、男女とも同様の順位となっており、中高年層の回答者が多くなった。

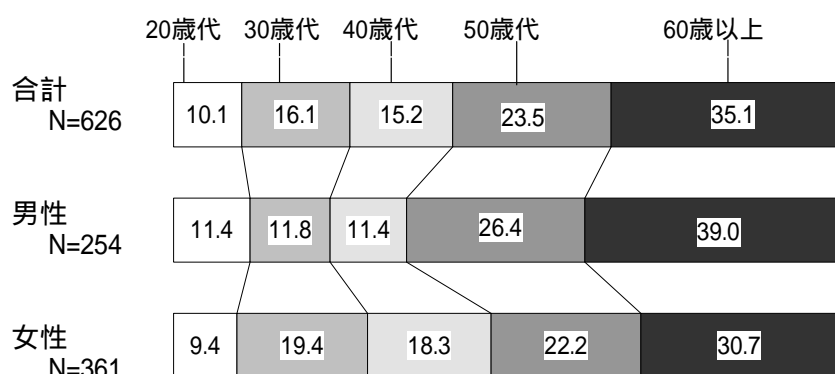


図 2. 回答者の性・年代別構成比(単独回答、単位:%)

第 2 章

調 查 結 果

1. 健康に関する意識について

(1) 現在の健康状態

自己の健康に対する意識を、回答者全体でみると、「まずまず健康」が70.1%と圧倒的に高くなっており、次いで「非常に健康」が14.1%、「あまり健康でない」が13.4%、「非常に悪い」が2.1%の順になっていた(図3.)。回答者の8割以上が自分を健康だと意識していることが分かる。また、前回調査との比較では大きな変化は見られなかった。

さらに性・年代別にみると、「非常に健康」に最も多く回答しているのは、男女ともに20歳代であり、その比率は年代が上がるにつれて減少していた(図4.、図5.)。総理府調査と比較すると、男性では40歳代以降で10~19ポイント、女性では30歳代以降で10~14ポイント、「非常に健康」とする者の割合が低くなっている。

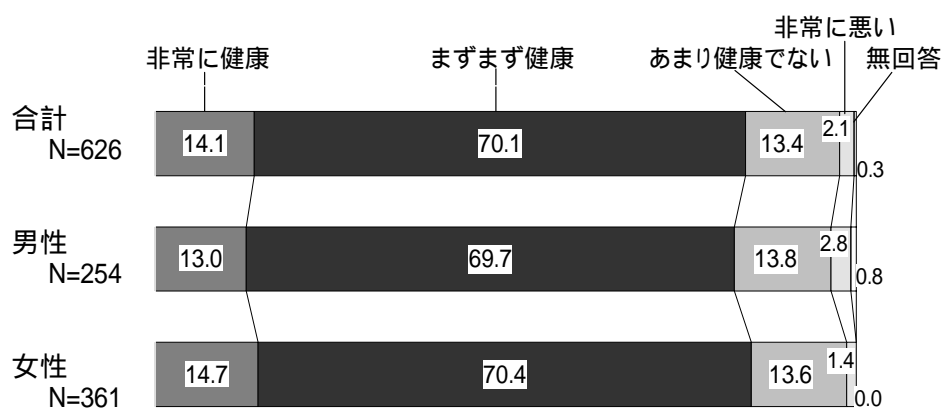


図3. 健康状態 / 性別 (単独回答、単位:%)

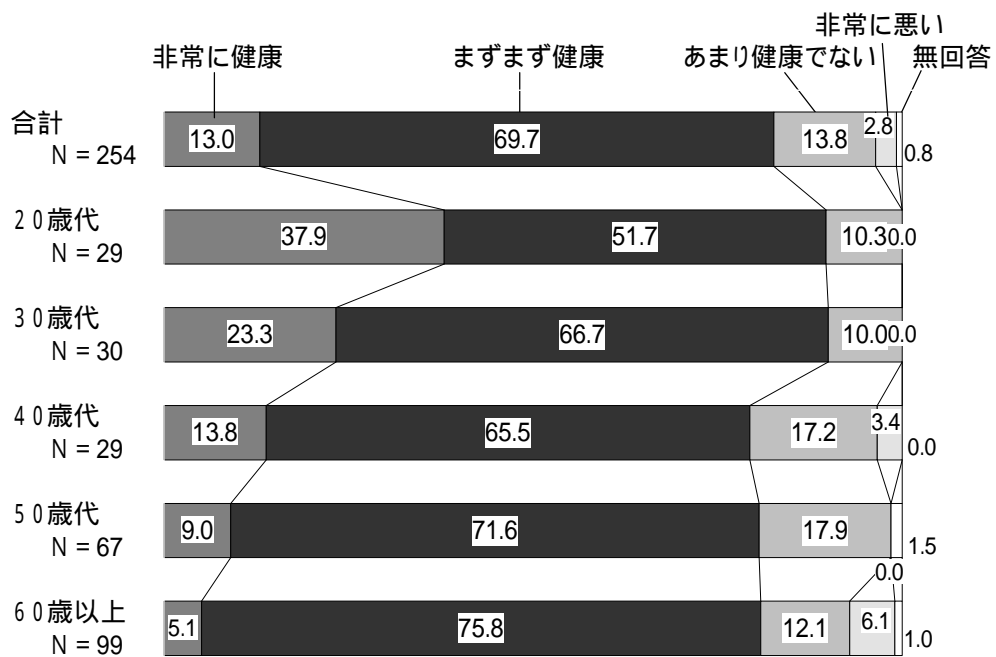


図 4. 年代別 健康状態 / 男性 (単独回答、単位：%)

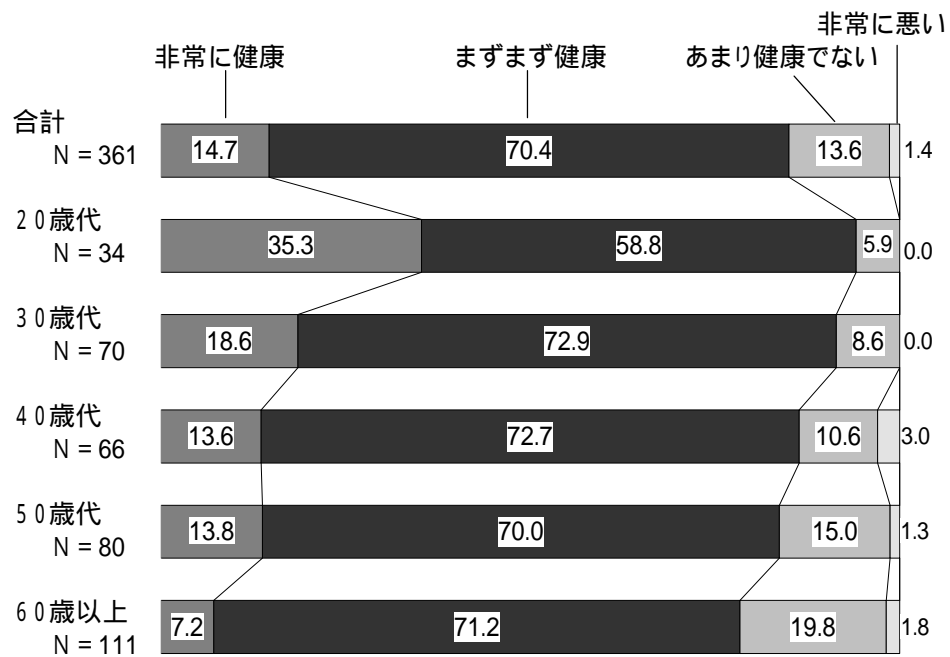


図 5. 年代別 健康状態 / 女性 (単独回答、単位：%)

(2) 健康維持の方法

健康維持の方法を、回答者全体で見ると、「睡眠・休養を十分にとる」が 44.9%と一番高い割合を示しており、次いで「栄養や食事に気をつける」が 40.6%、「運動やスポーツをする」が 32.9%となっていた(図 6.)。総理府調査では、「食生活に気をつける」が 68.1%、「睡眠や休養をよくとる」が 58.2%となっており、全体的に、生活面をコントロールすることによって健康の維持を目指していることが伺える。

性別で見ると、男性は「睡眠・休養を十分にとる」(45.3%)、「運動やスポーツをする」(37.4%)、「定期的に健康診断を受ける」(31.5%)、「たばこ・酒などの嗜好品を控える」(16.1%)などの運動やスポーツ、健康面を重視する人が多く、女性では「栄養や食事に気をつける」(48.2%)、「規則正しい生活をする」(34.6%)、「薬(栄養剤)を飲む」(18.3%)など食事・生活面を重視する人が多かった。

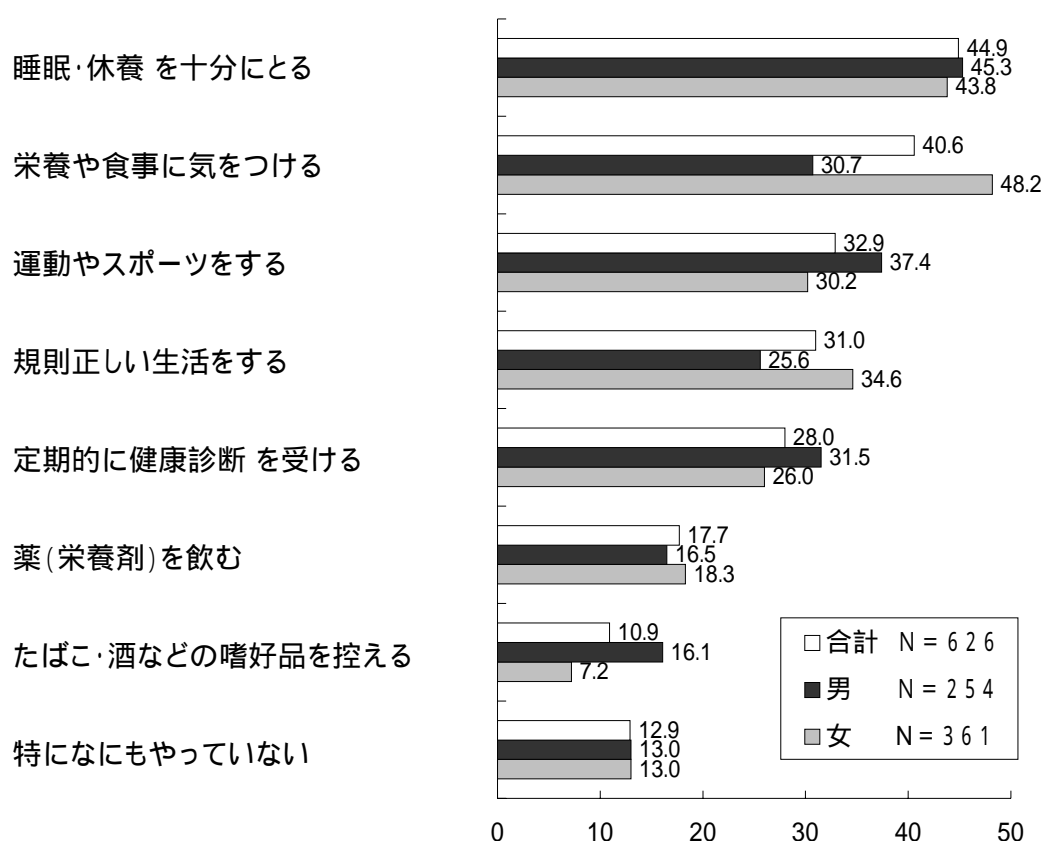


図 6. 健康維持法 / 性別(複数回答、単位:%)

さらに、性・年代別で最も高い割合を示した項目をみると、30歳代、50歳代、60歳以上の男性では「睡眠や休養を十分にとる」、40歳代の男性では「栄養や食事に気をつける」、20歳代の男性では「運動やスポーツをする」となっていた(表1.)。また30歳代、50歳代、60歳以上の女性では「栄養や食事に気をつける」、20歳代、40歳代の女性では「睡眠・休養を十分にとる」となっていた。逆に、「特に何もやっていない」と最も多く回答した年代は、男性では30歳代、女性では20歳代となっていた(表2.)。

表1. 性・年代別健康維持法 / 男性(複数回答、単位:%)

男性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 254	N = 29	N = 30	N = 29	N = 67	N = 99
1 睡眠・休養を十分にとる	45.3	37.9	36.7	31.0	46.3	53.5
2 運動やスポーツをする	37.4	58.6	30.0	31.0	34.3	37.4
3 定期的に健康診断を受ける	31.5	10.3	10.0	44.8	35.8	37.4
4 栄養や食事に気をつける	30.7	27.6	16.7	44.8	26.9	34.3
5 規則正しい生活をする	25.6	31.0	16.7	10.3	23.9	32.3
6 薬(栄養剤)を飲む	16.5	10.3	20.0	17.2	16.4	17.2
7 たばこ・酒などの嗜好品を控える	16.1	17.2	23.3	24.1	16.4	11.1
その他	0.8	3.4	0.0	0.0	0.0	1.0
特になにもやっていない	13.0	13.8	30.0	13.8	14.9	6.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平均回答数	2.17	2.10	1.83	2.17	2.15	2.30
-------	------	------	------	------	------	------

表2. 性・年代別健康維持法 / 女性(複数回答、単位:%)

女性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 361	N = 34	N = 70	N = 66	N = 80	N = 111
1 栄養や食事に気をつける	48.2	47.1	47.1	43.9	47.5	52.3
2 睡眠・休養を十分にとる	43.8	52.9	45.7	48.5	30.0	46.8
3 規則正しい生活をする	34.6	20.6	28.6	43.9	37.5	35.1
4 運動やスポーツをする	30.2	26.5	14.3	33.3	41.3	31.5
5 定期的に健康診断を受ける	26.0	5.9	11.4	16.7	31.3	43.2
6 薬(栄養剤)を飲む	18.3	8.8	17.1	19.7	15.0	23.4
7 たばこ・酒などの嗜好品を控える	7.2	14.7	12.9	1.5	10.0	2.7
その他	1.7	0.0	2.9	1.5	2.5	0.9
特になにもやっていない	13.0	23.5	14.3	15.2	13.8	7.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平均回答数	2.23	2.00	1.94	2.24	2.29	2.43
-------	------	------	------	------	------	------

2. 運動・スポーツの実施状況について

(1) 運動・スポーツの実施

運動スポーツの実施状況

過去 1 年間の運動・スポーツの実施の有無を、調査対象者全体でみると、「行った」が 57.7%、「しなかった」が 40.9%となっていた(図 7.)。

「行った」と回答した人を性別でみると、男性が 61.4%に対して、女性 55.4%と、男性の方が高かった。さらに、性・年代別にみると、「行った」は、男性の 20 歳代(86.2%)と 40 歳代(72.4%)、女性の 20 歳代(67.6%)でそれぞれ高い割合を示していた。「しなかった」は、男女ともに 60 歳以上(男性 45.5%・女性 45.9%)が最も高くなっていた(図 8.、図 9.)。

総理府調査では、「行った」と回答した人が 68.0%となっており、今回調査が 10.3 ポイント下回っていた。この傾向は、20 歳代を除けば、男女ともあらゆる年代で共通している。

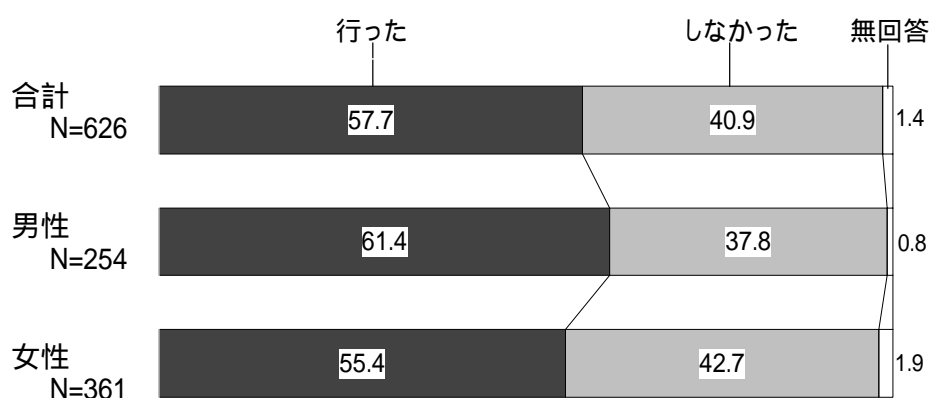


図 7. 過去 1 年間のスポーツ実施の有無 / 性別(単独回答、単位:%)

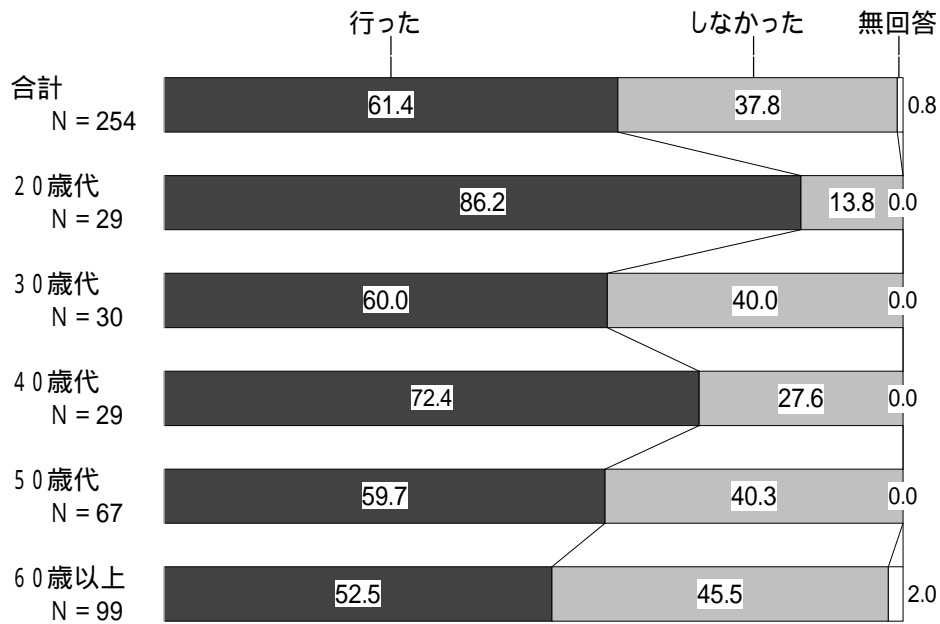


図 8. 年代別 過去 1 年間のスポーツ実施の有無 / 男性 (単独回答、単位: %)

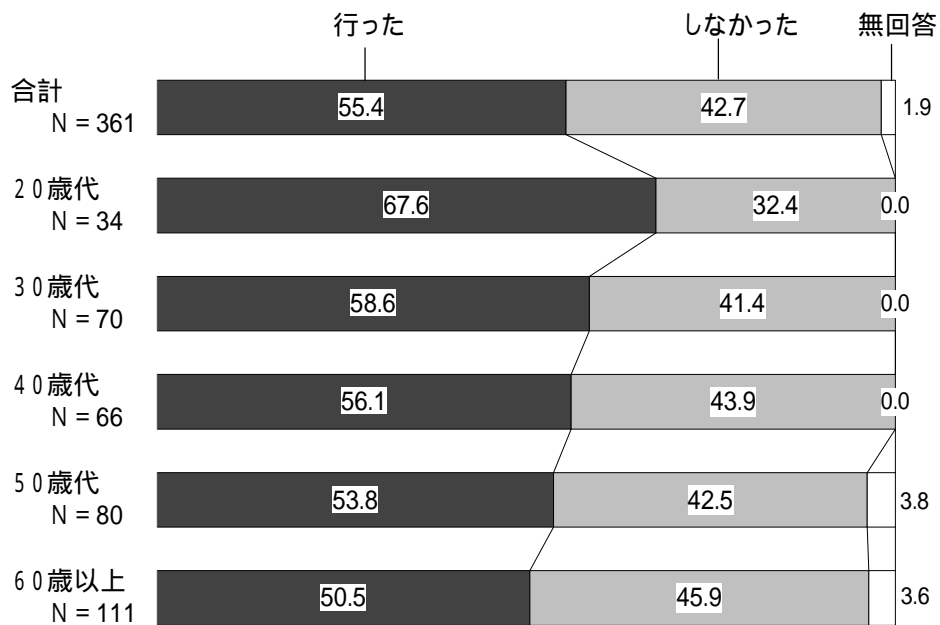


図 9. 年代別 過去 1 年間のスポーツ実施の有無 / 女性 (単独回答、単位: %)

この1年間に行った運動・スポーツの頻度

過去1年間に運動・スポーツを行ったと回答した人(N=361)に対して、実施頻度を尋ねたところ、「週に1~2日」が30.7%、「週に3日以上」が26.6%、「月に1~3日」が20.8%、「3ヶ月に1~2日」が9.4%、「年に1~3日」が6.6%となっていた(図10.)。

性別で見ると、男女とも「週に1~2日」(男性31.4%・女性30.0%)が最も高い割合を示していた。「週に1~2回」について、性・年代別でみたところ、男性では20~30歳代(44.4~40.0%)、女性では40歳代(40.5%)の割合が高くなっていた(図11.、図12.)。

運動・スポーツを週1日以上行っている者を「運動・スポーツの日常的な実施者(「週3日以上」+「週1~2日」)」とすると、今回調査では57.3%となっており、実施頻度では総理府調査(54.7%)を若干上回る結果となった。

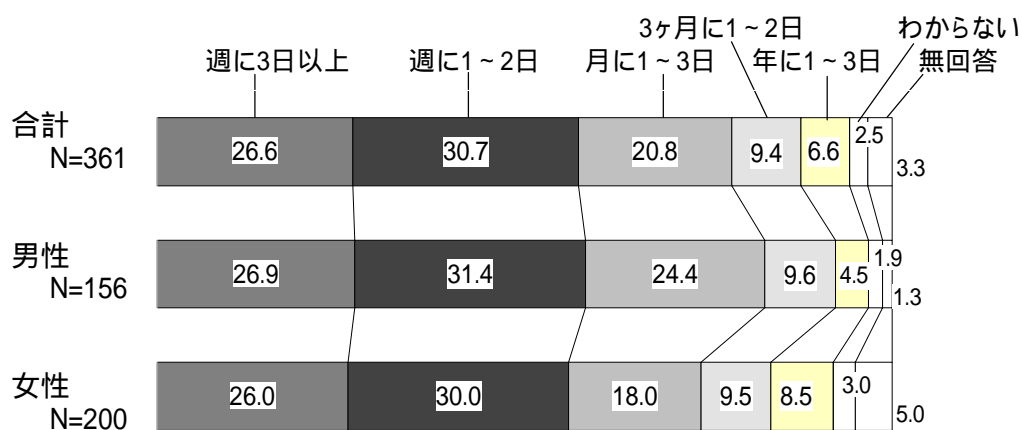


図10. 過去1年間のスポーツの実施頻度/性別(単独回答、単位:%)

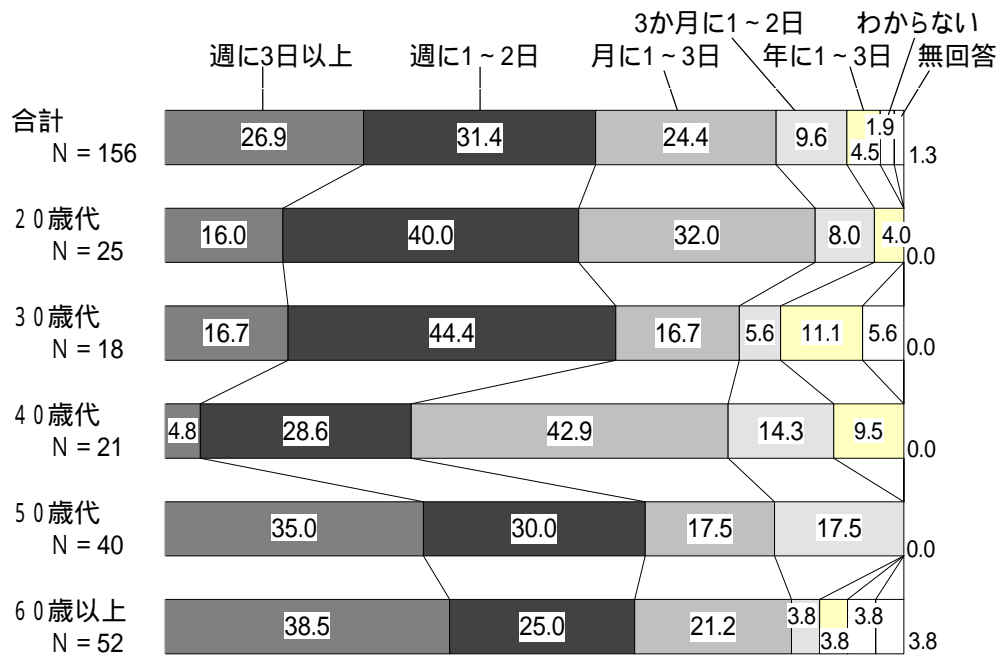


図 11. 年代別 過去1年間のスポーツの実施頻度 / 男性(単独回答、単位:%)

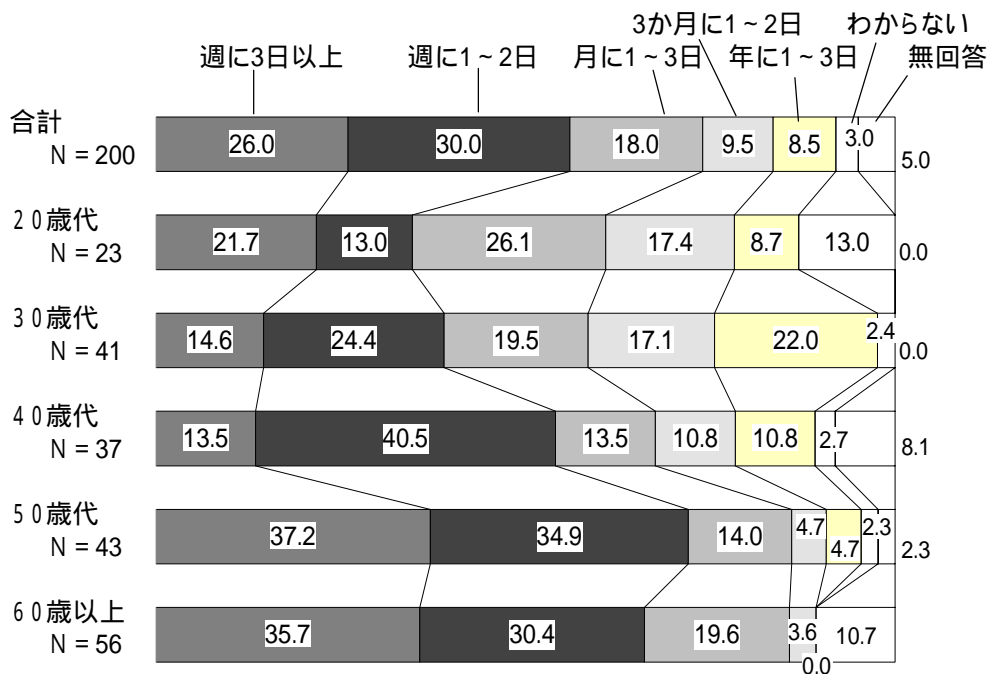


図 12. 年代別 過去1年間のスポーツの実施頻度 / 女性(単独回答、単位:%)

調査対象者全体 (N=626) に占める『運動・スポーツの日常的な実施者』の割合を算出したところ 33.0% となり (図 13.)、総理府調査の 37.2% と比べると約 4 ポイント下回った。前回調査と比較すると、「週に 3 日以上」(8.0%→15.3%) が 7.3 ポイント上昇しており、「週に 1~2 日」(24.2%→17.7%) が 6.5 ポイント低下していた。

さらに『運動・スポーツの日常的な実施者』を性別で見ると、男性は 35.8%、女性は 31.0% となり、総理府調査と比較すると、男性は総理府調査 (36.4%) とほぼ同じであるが、女性は総理府調査 (38.0%) を 7 ポイント下回った。

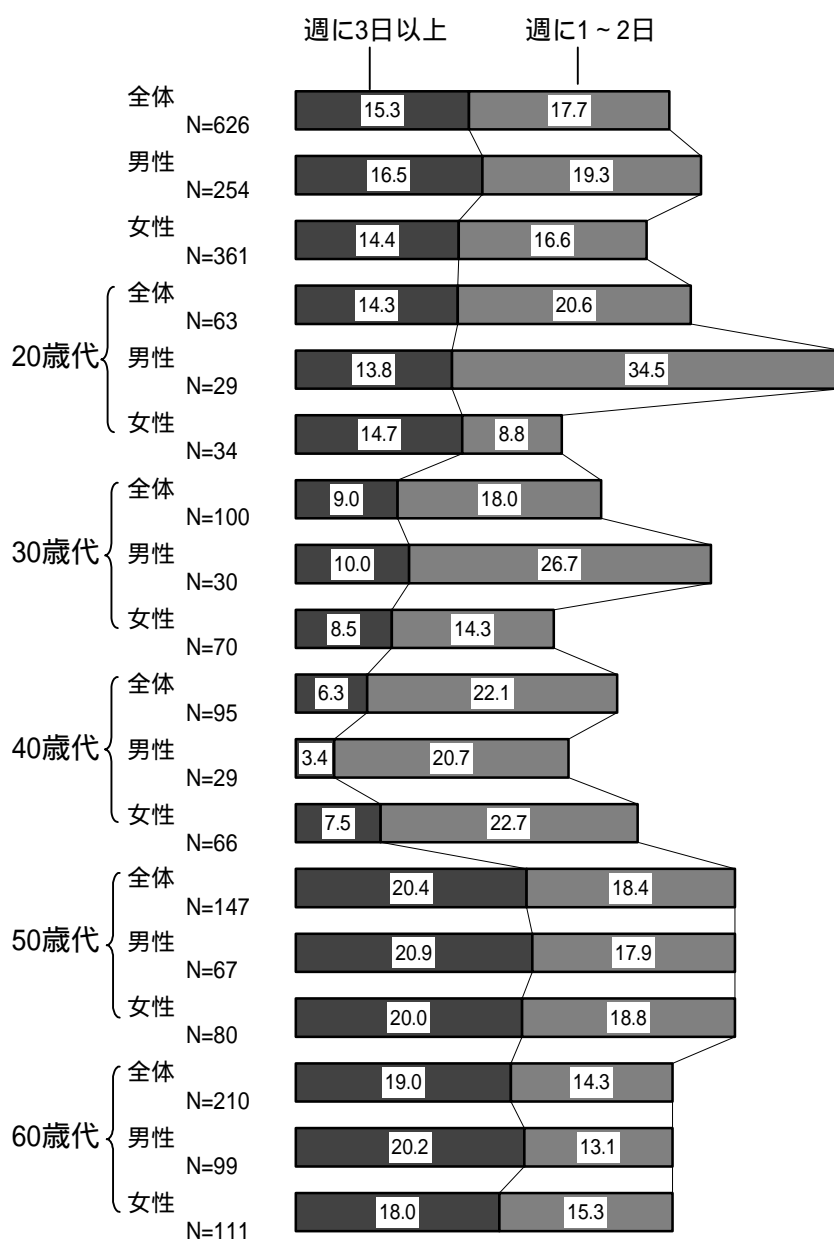


図 13.全体から見た日常的スポーツ実施者の実施 (単独回答、単位:%)

(2)この1年間に行った運動・スポーツの種目

過去1年間に運動やスポーツを行った人に、行った運動・スポーツ種目を尋ねたところ、「ウォーキング」(46.8%)、「体操(ラジオ体操、職場体操、美容体操、なわとびを含む)」(26.6%)、「ハイキング・ピクニック」(21.9%)、「健康づくりの水泳」(20.5%)、「軽い球技(キャッチボール、バレーボールの円陣、ピンポン等)」(19.7%)といった、“健康づくり運動”や“比較的軽い運動”が上位に挙げられていた(表 3.)。それぞれの種目を総理府調査と比較すると、「ウォーキング」(総理府 33.8% - 今回調査 46.8%)、「体操」(総理府 14.5% - 本調査 26.6%)、「健康づくりの水泳」(総理府 11.1% - 今回調査 20.5%)となっており、いずれも今回調査の方が高い割合となっていた。

性別で見ると、男性では、「ウォーキング」(43.6%)、「練習場でのゴルフ」(30.1%)、「ゴルフ」(26.9%)、「軽い球技(キャッチボール、バレーボールの円陣、ピンポン等)」(25.6%)、「ランニング・ジョギング」(23.1%)などが上位に挙げられていた。また、女性では、「ウォーキング」(48.5%)、「体操(ラジオ体操、職場体操、美容体操、なわとびを含む)」(29.5%)、「健康づくりの水泳」(26.5%)、「ハイキング・ピクニック」(23.0%)、「海水浴(遊泳)」(18.5%)などが挙げられていた。

性・年代別にみると、男性の40～60歳以上で、「ゴルフ」、「練習ゴルフ」が多くみられ、50歳代、60歳以上で「ウォーキング」が最も高くなっていた(表 4.)。女性においても、20歳代、30歳代、50歳代、60歳以上で「ウォーキング」が最も高くなっていた(表 5.)。

表 3. 1年間に行った運動・スポーツの種目 / 性別(複数回答、単位:%)

	(合計が各5%以上の種目)		
	合計	男性	女性
	N = 361	N = 156	N = 200
1 ウォーキング	46.8	43.6	48.5
2 体操(ラジオ体操、職場体操、美容体操、なわとび含む)	26.6	22.4	29.5
3 ハイキング・ピクニック	21.9	20.5	23.0
4 健康づくりの水泳	20.5	12.8	26.5
5 軽い球技(キャッチボール、バレーボールの円陣、ピンポン等)	19.7	25.6	15.5
6 海水浴(遊泳)	18.8	19.9	18.5
7 練習場でのゴルフ	17.5	30.1	8.0
8 ゴルフ	14.7	26.9	5.5
9 ランニング・ジョギング	14.4	23.1	7.5
10 体力トレーニング(器具を使う体力づくり運動)	14.4	16.0	13.5
11 スキー、クロスカントリースキー、スノーボード	13.0	12.2	14.0
12 釣り	11.6	17.9	6.5
13 登山、トレッキング	11.1	10.9	11.0
14 エアロビクスダンス、エアロビクス体操(ジャズダンス、ジャズ体操を含む)	9.1	1.3	15.5
15 サイクリング、マウンテンバイク、モーターサイクルスポーツ	8.9	9.6	8.0
16 キャンプ、オートキャンプ	7.2	9.6	5.5
17 テニス	6.9	5.1	8.5
18 ソフトボール	6.4	12.8	1.5
19 卓球	5.8	4.5	7.0
20 その他の軽い運動	5.0	5.1	4.5

表 4. 年代別 1 年間に行った運動・スポーツの種目 / 男性 (複数回答、単位:%)

(各 5%以上の種目)

男性	合計	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上		
	N = 156	N = 25		N = 18		N = 21		N = 40		N = 52		
1	ウォーキング	43.6	軽い球技	52.0	軽い球技	50.0	ゴルフ	47.6	ウォーキング	52.5	ウォーキング	61.5
2	練習ゴルフ	30.1	ジョギング	52.0	練習ゴルフ	38.9	練習ゴルフ	42.9	ゴルフ	32.5	練習ゴルフ	34.6
3	ゴルフ	26.9	スキー	40.0	体操	33.3	海水浴	38.1	練習ゴルフ	27.5	ハイキング	30.8
4	軽い球技	25.6	サッカー	36.0	ジョギング	33.3	軽い球技	33.3	ハイキング	25.0	ゴルフ	26.9
5	ジョギング	23.1	海水浴	32.0	海水浴	33.3	体カトル	28.6	ジョギング	20.0	体操	26.9
6	体操	22.4	体カトル	32.0	スキー	33.3	ウォーキング	23.8	釣り	17.5	釣り	19.2
7	ハイキング	20.5	ウォーキング	28.0	ゴルフ	27.8	健康水泳	23.8	軽い球技	15.0	ジョギング	13.5
8	海水浴	19.9	野球	28.0	他軽い運動	22.2	キャンプ	23.8	体操	15.0	健康水泳	11.5
9	釣り	17.9	ソフトボール	28.0	キャンプ	22.2	ソフトボール	19.0	体カトル	12.5	海水浴	11.5
10	体カトル	16.0	体操	24.0	釣り	22.2	登山	19.0	登山	12.5	軽い球技	9.6
11	健康水泳	12.8	キャンプ	20.0	ウォーキング	16.7	体操	14.3	柔道、剣道	10.0	ソフトボール	7.7
11	ソフトボール	12.8	サイクリング	16.0	健康水泳	16.7	ハイキング	14.3	ソフトボール	10.0	登山	7.7
13	スキー	12.2	釣り	16.0	体カトル	16.7	サイクリング	14.3	健康水泳	7.5	体カトル	5.8
14	登山	10.9	健康水泳	12.0	その他競技	16.7	釣り	14.3	海水浴	7.5	サイクリング	5.8
15	キャンプ	9.6	他軽い運動	12.0	サイクリング	16.7	ジョギング	9.5	ゲートボール	5.0		
15	サイクリング	9.6	バレーボール	12.0	その他野外	16.7	スキー	9.5	野球	5.0		
17	サッカー	6.4	卓球	12.0	テニス	11.1			テニス	5.0		
18	野球	6.4	その他競技	12.0	登山	11.1			卓球	5.0		
19	他軽い運動	5.1	練習ゴルフ	8.0	ハイキング	11.1			ボート、ヨット	5.0		
19	テニス	5.1	空手	8.0	ボート、ヨット	11.1			サイクリング	5.0		
			テニス	8.0	ゲートボール	5.6						
			登山	8.0	サッカー	5.6						
			その他野外	8.0	ソフトボール	5.6						
					卓球	5.6						

表 5. 年代別 1 年間に行った運動・スポーツの種目 / 女性 (複数回答、単位:%)

(各 5%以上の種目)

女性	合計	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上		
	N = 200	N = 23		N = 41		N = 37		N = 43		N = 56		
1	ウォーキング	48.5	軽い球技	52.2	ウォーキング	41.5	体操	45.9	ウォーキング	48.8	ウォーキング	60.7
2	体操	29.5	ウォーキング	52.2	海水浴	36.6	ウォーキング	35.1	ハイキング	27.9	体操	26.8
3	健康水泳	26.5	スキー	34.8	体操	26.8	健康水泳	35.1	健康水泳	25.6	健康水泳	25.0
4	ハイキング	23.0	健康水泳	30.4	ハイキング	22.0	軽い球技	27.0	体操	23.3	ハイキング	23.2
5	海水浴	18.5	体操	26.1	健康水泳	19.5	海水浴	24.3	体カトル	23.3	ダンス踊り	16.1
6	軽い球技	15.5	ジョギング	26.1	軽い球技	17.1	ハイキング	24.3	登山	20.9	登山	10.7
6	エアビクス	15.5	海水浴	26.1	テニス	17.1	エアビクス	21.6	エアビクス	18.6	海水浴	8.9
8	スキー	14.0	体カトル	21.7	エアビクス	14.6	スキー	21.6	水泳競技	9.3	エアビクス	8.9
9	体カトル	13.5	その他競技	21.7	サイクリング	14.6	体カトル	16.2	テニス	9.3	他軽い運動	5.4
10	登山	11.0	ボート、ヨット	21.7	スキー	12.2	キャンプ	13.5	卓球	9.3	水泳競技	5.4
11	テニス	8.5	エアビクス	17.4	釣り	12.2	ジョギング	10.8	スキー	9.3	スキー	5.4
12	練習ゴルフ	8.0	練習ゴルフ	17.4	卓球	9.8	テニス	10.8	ゴルフ	9.3	サイクリング	5.4
12	サイクリング	8.0	バレーボール	17.4	体カトル	9.8	ダンス踊り	8.1	練習ゴルフ	7.0	釣り	5.4
14	ダンス踊り	7.5	卓球	13.0	練習ゴルフ	9.8	練習ゴルフ	8.1	釣り	7.0		
14	ジョギング	7.5	キャンプ	13.0	ジョギング	7.3	登山	8.1				
16	卓球	7.0	ハイキング	13.0	ゴルフ	7.3	サイクリング	8.1				
17	釣り	6.5	他軽い運動	8.7			水泳競技	5.4				
18	キャンプ	5.5	ソフトボール	8.7			卓球	5.4				
18	ゴルフ	5.5	テニス	8.7			その他競技	5.4				
20	その他競技	5.0	登山	8.7			スケート	5.4				
			サイクリング	8.7			ボート、ヨット	5.4				

(3) 今後行ってみたい運動・スポーツの種目

今後行ってみたい運動・スポーツの種目をみると、「健康づくりの水泳」(30.6%)、「ハイキング・ピクニック」(25.3%)、「ウォーキング」(22.6%)、「体力トレーニング(器具を使う体力づくり運動)」(18.5%)、「スキー、クロスカントリースキー、スノーボード」(17.5%)などが上位に挙げられていた(表 6.)。前回調査では、「スイミング」、「ウォーキング」、「ハイキング」が上位となっていた。

性別で見ると、男性は、「ハイキング」(28.8%)、「釣り」(24.0%)、「健康づくりの水泳」(23.2%)が上位に挙げられており、女性は、「健康づくりの水泳」(35.9%)、「ウォーキング」(26.5%)、「ハイキング・ピクニック」(22.4%)が上位に挙げられていた。

性・年代別にみると、20 歳代の男性では「スキー」(59.1%)、女性では「マリンスポーツ」(52.4%)が最も多く挙げられており、アウトドアスポーツに人気が高い。逆に、50～60 歳以上の男性では、「ハイキング」や「健康水泳」、40～60 歳以上の女性では、「ウォーキング」や「健康水泳」といった健康づくり運動が多くなっていた(表 7.、表 8.)。

表 6. 今後行ってみたい運動・スポーツの種目 / 性別(複数回答、単位%)

	(合計が各5%以上の種目)		
	合計 N = 297	男性 N = 125	女性 N = 170
1 健康づくりの水泳	30.6	23.2	35.9
2 ハイキング・ピクニック	25.3	28.8	22.4
3 ウォーキング	22.6	16.8	26.5
4 体力トレーニング(器具を使う体力づくり運動)	18.5	18.4	18.8
5 スキー、クロスカントリースキー、スノーボード	17.5	17.6	17.6
6 ボート、ヨット、ボートセーリング、スキューバダイビング、スノーボードダイビング、カヌー、水上バイク	16.5	13.6	18.8
7 キャンプ、オートキャンプ	14.5	16.0	13.5
8 釣り	13.8	24.0	5.9
9 登山、トレッキング	12.8	12.8	12.9
10 グライダー、パラグライダー、スカイダイビング、パラグライダー	12.8	14.4	11.8
11 海水浴	11.8	15.2	9.4
12 太極拳・気功	11.4	9.6	12.9
13 エアロビクスダンス、エアロビクス体操(ジャズダンス、ジャズ体操を含む)	11.1	4.8	15.9
14 テニス	11.1	9.6	11.8
15 軽い球技(キャッチボール、ハレーボールの円陣、ピンポン等)	10.8	7.2	13.5
16 ゴルフ	10.4	16.8	5.9
17 ランニング・ジョギング	10.4	16.0	6.5
18 サイクリング、マウンテンバイク、モーターサイクルスポーツ	9.4	12.8	6.5
19 体操(ラジオ体操、職場体操、美容体操、なわとび含む)	9.1	4.8	11.8
20 卓球	8.4	5.6	10.0
21 フォークダンス(社交ダンス、民謡踊りを含む)	6.7	1.6	10.6
22 ウォークラリー	6.1	7.2	5.3
23 練習場でのゴルフ	5.7	8.8	3.5

表 7. 年代別 今後行ってみたい運動・スポーツの種目 / 男性 (複数回答、単位%)

男性	合計 N = 125	20歳代 N = 22	30歳代 N = 15	40歳代 N = 20	50歳代 N = 33	60歳以上 N = 35
1	ハイキング 28.8	スキー 59.1	キャンプ 33.3	釣り 35.0	ハイキング 42.4	ハイキング 37.1
2	釣り 24.0	空手 31.8	グライダー 33.3	健康水泳 30.0	健康水泳 24.2	健康水泳 31.4
3	健康水泳 23.2	体カトル 27.3	ゴルフ 26.7	ハイキング 25.0	ウォーキング 24.2	釣り 28.6
4	体カトル 18.4	テニス 27.3	釣り 26.7	ウォーキング 25.0	釣り 21.2	ウォーキング 22.9
5	スキー 17.6	海水浴 27.3	体カトル 20.0	海水浴 20.0	ジョキング 18.2	登山 20.0
6	ウォーキング 16.8	ボート、ヨット 27.3	スキー 20.0	登山 20.0	太極拳 18.2	ゴルフ 20.0
6	ゴルフ 16.8	グライダー 27.3	海水浴 20.0	ボート、ヨット 20.0	体カトル 18.2	体カトル 17.1
8	ジョキング 16.0	ジョキング 22.7	ウォークラリー 20.0	ジョキング 15.0	ゴルフ 15.2	ソフトボール 14.3
8	キャンプ 16.0	キャンプ 22.7	サイクリング 20.0	弓道 15.0	サイクリング 15.2	キャンプ 14.3
10	海水浴 15.2	健康水泳 18.2	ジョキング 13.3	ゴルフ 15.0	ボートヨット 15.2	体操 11.4
11	グライダー 14.4	野球 18.2	水泳競技 13.3	ウォークラリー 15.0	海水浴 12.1	ジョキング 11.4
12	ボートヨット 13.6	エアロビクス 13.6	野球 13.3	グライダー 15.0	練習ゴルフ 9.1	練習ゴルフ 11.4
13	登山 12.8	太極拳 13.6	ソフトボール 13.3	サイクリング 15.0	ソフトボール 9.1	軽い球技 8.6
13	サイクリング 12.8	サッカー 13.6	テニス 13.3	軽い球技 10.0	登山 9.1	卓球 8.6
15	太極拳 9.6	スケート 13.6	ハイキング 13.3	太極拳 10.0	キャンプ 9.1	スキー 8.6
15	野球 9.6	サイクリング 13.6	ボート、ヨット 13.3	体カトル 10.0	軽い球技 6.1	ゲートボール 5.7
15	テニス 9.6	陸上競技 9.1	その他競技 13.3	練習ゴルフ 10.0	ゲートボール 6.1	野球 5.7
18	練習ゴルフ 8.8	バレーボール 9.1	軽い球技 6.7	野球 10.0	野球 6.1	テニス 5.7
18	ソフトボール 8.8	卓球 9.1	エアロビクス 6.7	スケート 10.0	卓球 6.1	海水浴 5.7
20	軽い球技 7.2	ハイキング 9.1	練習ゴルフ 6.7	キャンプ 10.0	スキー 6.1	サイクリング 5.7
20	ウォークラリー 7.2	ゴルフ 9.1	陸上競技 6.7	体操 5.0	グライダー 6.1	ウォークラリー 5.7
22	空手 5.6	釣り 9.1	すもう 6.7	エアロビクス 5.0		グライダー 5.7
22	卓球 5.6		サッカー 6.7	水泳競技 5.0		
22	スケート 5.6		バレーボール 6.7	柔道、剣道 5.0		
			スケート 6.7	テニス 5.0		
			登山 6.7	スキー 5.0		

表 8. 年代別 今後行ってみたい運動・スポーツの種目 / 女性 (複数回答、単位%)

女性	合計 N = 170	20歳代 N = 21	30歳代 N = 36	40歳代 N = 32	50歳代 N = 37	60歳以上 N = 44
1	健康水泳 35.9	ボート、ヨット 52.4	健康水泳 41.7	ウォーキング 31.3	健康水泳 37.8	健康水泳 36.4
2	ウォーキング 26.5	健康水泳 33.3	ボート、ヨット 33.3	健康水泳 28.1	ウォーキング 35.1	ウォーキング 31.8
3	ハイキング 22.4	テニス 33.3	スキー 27.8	スキー 28.1	体カトル 35.1	ダンス踊り 27.3
4	体カトル 18.8	海水浴 28.6	体カトル 25.0	軽い球技 21.9	ハイキング 29.7	ハイキング 27.3
4	ボートヨット 18.8	キャンプ 28.6	エアロビクス 19.4	ハイキング 21.9	登山 24.3	軽い球技 15.9
6	スキー 17.6	エアロビクス 23.8	グライダー 19.4	太極拳 15.6	エアロビクス 21.6	太極拳 15.9
7	エアロビクス 15.9	スキー 23.8	ウォーキング 16.7	テニス 15.6	体操 16.2	ウォークラリー 13.6
8	軽い球技 13.5	ハイキング 23.8	テニス 16.7	登山 15.6	太極拳 16.2	体操 11.4
8	キャンプ 13.5	グライダー 23.8	キャンプ 16.7	ジョキング 12.5	軽い球技 13.5	ゲートボール 11.4
10	太極拳 12.9	体カトル 19.0	卓球 13.9	体操 12.5	卓球 10.8	エアロビクス 9.1
10	登山 12.9	軽い球技 9.5	登山 13.9	キャンプ 12.5	スキー 10.8	卓球 9.1
12	体操 11.8	ウォーキング 9.5	サイクリング 13.9	ボート、ヨット 12.5	海水浴 10.8	ジョキング 6.8
12	テニス 11.8	水泳競技 9.5	体操 11.1	エアロビクス 9.4	キャンプ 10.8	体カトル 6.8
12	グライダー 11.8	弓道 9.5	釣り 11.1	ダンス踊り 9.4	ジョキング 8.1	キャンプ 6.8
15	ダンス踊り 10.6	卓球 9.5	太極拳 8.3	体カトル 9.4	他軽い運動 8.1	ボート、ヨット 6.8
16	卓球 10.0	スケート 9.5	その他競技 8.3	海水浴 9.4	ゴルフ 8.1	釣り 6.8
17	海水浴 9.4	サイクリング 9.5	ハイキング 8.3	ゴルフ 9.4	グライダー 8.1	
18	ジョキング 6.5		ゴルフ 8.3	グライダー 9.4	練習ゴルフ 5.4	
18	サイクリング 6.5		軽い球技 5.6	卓球 6.3	その他競技 5.4	
19	ゴルフ 5.9		ダンス踊り 5.6	サイクリング 6.3	テニス 5.4	
19	釣り 5.9		海水浴 5.6		スケート 5.4	
20	ウォークラリー 5.3		スケート 5.6		ボート、ヨット 5.4	
					サイクリング 5.4	

“今後してみたい種目”の割合から“1年間に行った運動・スポーツの種目”の割合を差し引いた『運動・スポーツの潜在的成長率』では、「健康づくりの水泳」が10.1ポイント(現在20.5%→今後30.6%)と最も上昇した。その他、「スキー・スノーボード」、「体力トレーニング」、「ハイキング・ピクニック」、「釣り、狩猟」といった健康づくり運動やアウトドアの運動・スポーツの潜在的成長率などもプラスになった。しかし、「ウォーキング」では24.2ポイント減(現在46.8%→今後22.6%)、「体操(ラジオ体操、職場体操、美容体操、なわとびを含む)」、「練習場でのゴルフ」など手軽な運動・スポーツがマイナスとなった(図14.)。

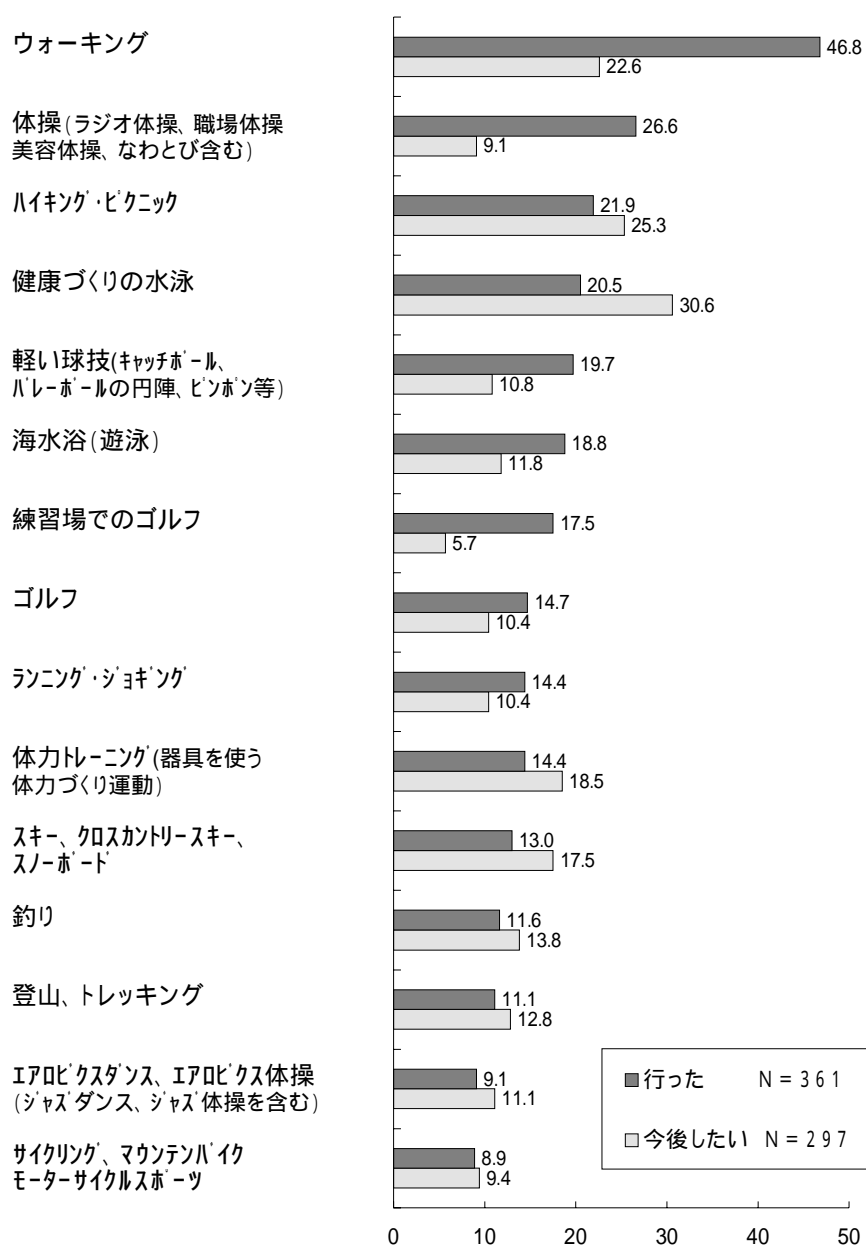


図14. 1年間に行った運動・スポーツ種目と今後してみたい種目 / 性別(複数回答、単位:%)

(4) 運動・スポーツを行った理由

過去1年間に運動・スポーツを行ったと回答した人(N = 361)に、運動する理由を尋ねたところ、「楽しみ・気晴らしとして」が 62.9%、「健康・体力づくりのため」が 59.3%、「運動不足を感じるから」が 48.2%で上位に挙げられていた(図 15.)。

総理府調査と比較すると、「運動不足を感じるから」(総理府 39.7% - 今回調査 48.2%)で 8.5 ポイント、「美容や肥満解消のため」(総理府 11.7% - 今回調査 19.7%)で 8.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男女とも「楽しみ・気晴らしとして」(男性 62.2%・女性 63.5%)、「健康・体力づくりのため」(男性 58.3%・女性 60.5%)、「運動不足を感じるから」(男性 50.6%・女性 45.0%)の順に高くなっていた。また、男女間で比較すると、「友人・仲間との交流として」(男性 42.9%・女性 29.0%)で、男性の方が 13.9 ポイント高くなっており、「美容や肥満解消のため」(男性 11.5%・女性 26.5%)で、女性の方が 15.0 ポイント高くなっていた。

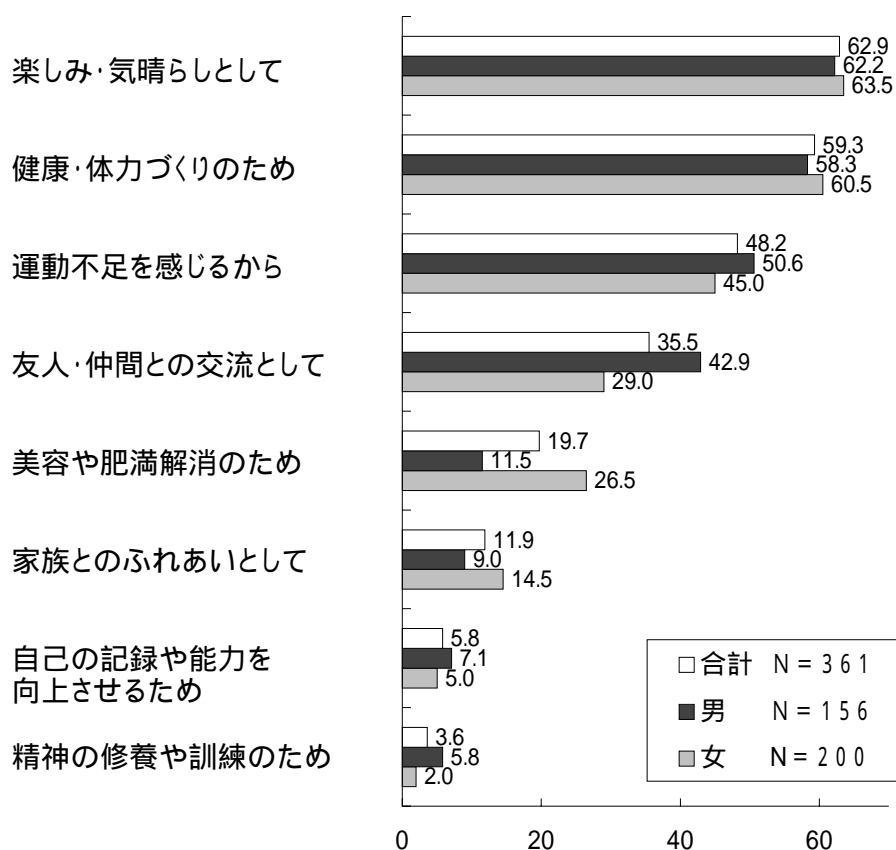


図 15.運動する理由 / 性別(複数回答、単位:%)

性・年代別にみると、男性では、20～50 歳代で「楽しみ・気晴らしとして」の割合が最も高くなっており、60 歳以上で「健康・体力づくりのため」の割合が最も高くなっていた(表 9.)。一方、女性では、20～30 歳代で、「楽しみ・気晴らしとして」(20 歳代 73.9%・30 歳代 61.0%)が、他の項目に比べ圧倒的に高くなっていた(表 10.)。

表 9. 年代別 運動する理由 / 男性(複数回答、単位:%)

男性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 156	N = 25	N = 18	N = 21	N = 40	N = 52
1 楽しみ・気晴らしとして	62.2	68.0	66.7	61.9	70.0	51.9
2 健康・体力づくりのため	58.3	56.0	38.9	52.4	62.5	65.4
3 運動不足を感じるから	50.6	48.0	38.9	38.1	47.5	63.5
4 友人・仲間との交流として	42.9	56.0	50.0	47.6	40.0	34.6
5 美容や肥満解消のため	11.5	16.0	5.6	23.8	10.0	7.7
6 家族とのふれあいとして	9.0	0.0	16.7	9.5	17.5	3.8
7 自己の記録や能力を向上させるため	7.1	8.0	22.2	4.8	2.5	5.8
8 精神の修養や訓練のため	5.8	8.0	0.0	4.8	10.0	3.8
その他	2.6	4.0	0.0	4.8	2.5	1.9
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均回答数	2.50	2.64	2.39	2.48	2.63	2.38

表 10. 年代別 運動する理由 / 女性(複数回答、単位:%)

女性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 200	N = 23	N = 41	N = 37	N = 43	N = 56
1 楽しみ・気晴らしとして	63.5	73.9	61.0	51.4	65.1	67.9
2 健康・体力づくりのため	60.5	52.2	39.0	56.8	79.1	67.9
3 運動不足を感じるから	45.0	43.5	46.3	35.1	46.5	50.0
4 友人・仲間との交流として	29.0	39.1	14.6	27.0	30.2	35.7
5 美容や肥満解消のため	26.5	30.4	36.6	29.7	25.6	16.1
6 家族とのふれあいとして	14.5	8.7	34.1	24.3	0.0	7.1
7 自己の記録や能力を向上させるため	5.0	8.7	0.0	2.7	11.6	3.6
8 精神の修養や訓練のため	2.0	0.0	0.0	0.0	4.7	3.6
その他	3.0	4.3	4.9	5.4	2.3	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	1.5	0.0	0.0	5.4	0.0	1.8
平均回答数	2.53	2.61	2.37	2.46	2.65	2.56

(5) 運動・スポーツを行わなかった理由

「運動やスポーツをしなかった」と回答した人(N = 256)に、運動・スポーツをしなかった理由を尋ねたところ、「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がなかったから」(49.6%)、「機会がなかった」(43.8%)が上位を占めていた(図 16.)。総理府調査では、「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がなかったから」が41.0%で大きな差異がみられないのに対して、「機会がなかった」が8.6%となっており、今回調査が35.2ポイントと大きく上回っていた。

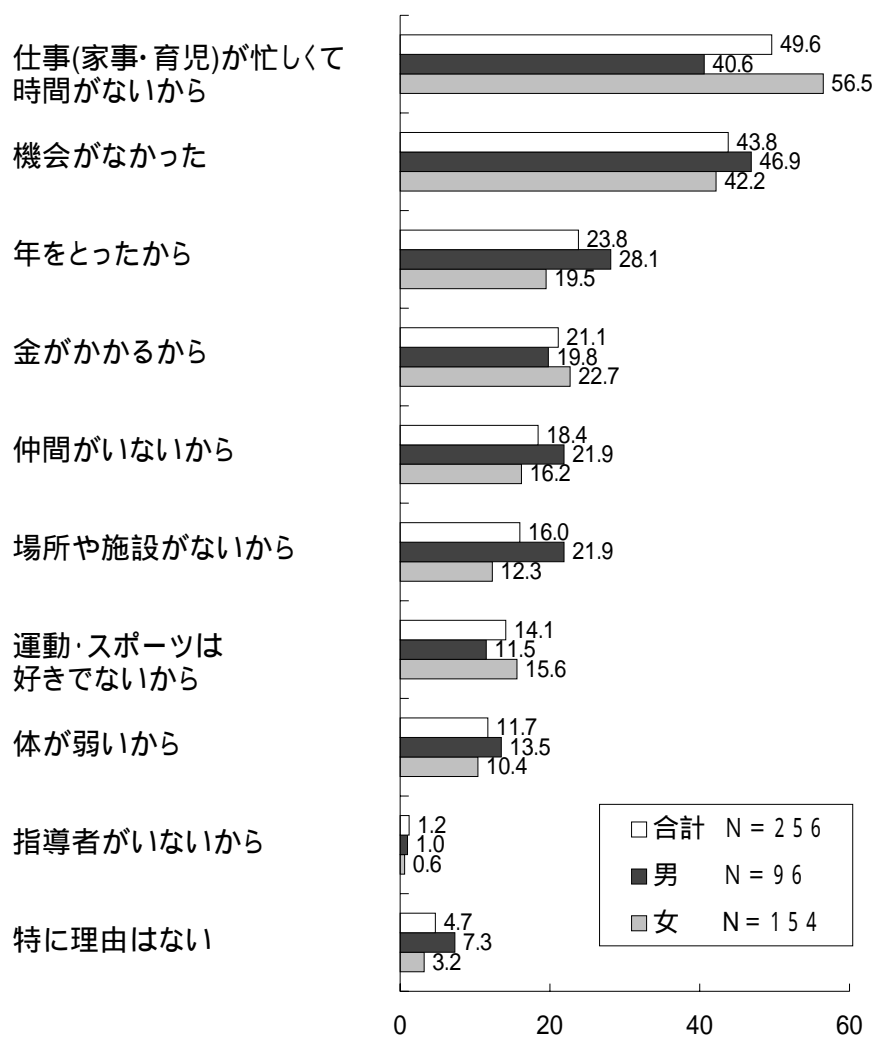


図 16. 運動しない理由/性別(複数回答、単位%)

性別でみると、男性では「機会がなかった」が 46.9%、「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がなかったから」が 40.6%となっており、女性では「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がなかったから」が 56.5%、「機会がなかったから」が 42.2%となっていた。「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がなかったから」については、総理府調査(男性 39.5%・女性 41.9%)では、男女間でほとんど差異が見られないのに対し、今回調査では、女性の方が男性より 15.9 ポイント高くなっていた。

性・年代別にみると、男性は、「機会がなかった」が全ての年代で上位に挙げられていた。また、「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がない」は、30～60 歳以上で上位に挙げられており、60 歳以上になると、「年をとったから」という理由が挙げられていた(表 11.)。

表 11. 年代別 運動しない理由 / 男性(複数回答、単位%)

男性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N=96	N=4	N=12	N=8	N=27	N=45
1 機会がなかった	46.9	75.0	50.0	50.0	59.3	35.6
2 仕事(家事・育児)が忙しくて時間がない	40.6	25.0	41.7	62.5	59.3	26.7
3 年をとったから	28.1	0.0	8.3	25.0	14.8	44.4
4 場所や施設がないから	21.9	25.0	41.7	25.0	29.6	11.1
5 仲間がいないから	21.9	50.0	16.7	12.5	22.2	22.2
6 金がかかるから	19.8	0.0	16.7	37.5	22.2	17.8
7 体が弱いから	13.5	25.0	0.0	12.5	0.0	24.4
8 運動・スポーツは好きでないから	11.5	25.0	8.3	12.5	18.5	6.7
9 指導者がいないから	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
特に理由はない	7.3	0.0	8.3	0.0	7.4	8.9
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	1.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
平均回答数	2.15	2.25	1.92	2.71	2.33	2.00

表 12. 年代別 運動しない理由 / 女性(複数回答、単位%)

女性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 154	N = 11	N = 29	N = 29	N = 34	N=51
1 仕事(家事・育児)が忙しくて時間がない	56.5	63.6	79.3	55.2	70.6	33.3
2 機会がなかった	42.2	36.4	48.3	58.6	52.9	23.5
3 金がかかるから	22.7	45.5	20.7	34.5	23.5	11.8
4 年をとったから	19.5	0.0	6.9	0.0	5.9	51.0
5 仲間がいないから	16.2	27.3	13.8	24.1	8.8	15.7
6 運動・スポーツは好きでないから	15.6	18.2	17.2	17.2	14.7	13.7
7 場所や施設がないから	12.3	36.4	10.3	17.2	11.8	5.9
8 体が弱いから	10.4	0.0	3.4	13.8	5.9	17.6
9 指導者がいないから	0.6	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0
特に理由はない	3.2	0.0	0.0	3.4	2.9	5.9
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	2.6	0.0	0.0	3.4	0.0	5.9
平均回答数	2.05	2.27	2.00	2.32	2.00	1.90

一方、女性は、20・30・50 歳代で「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がない」が最も多くみられた(表 12.)。また、20 歳代男性では「金がかかるから」が 0.0%なのに対して、20 歳代女性では 45.5%と上位に挙げられていた。「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がない」については、20 歳代(男性 25.0%・女性 63.6%)と 30 歳代(男性 41.7%・女性 79.3%)で、40 ポイント弱、女性の方が高くなっている。そして、40 歳代(男性 62.5%・女性 55.2)でその差は逆転し、男性の方が高くなっていた。全体的に 40 歳代で金銭的理由、60 歳以上になると年齢的な理由を、上位に挙げる割合が多くみられた。金銭的理由については、40 歳代男性を除き、男性より女性の方が上位に挙げる割合が多くみられた。

(6) 運動・スポーツを実施した場所

過去1年間に運動・スポーツを行ったと回答した人(N = 361)に対して、実施場所を尋ねたところ、「民間(商業)スポーツ施設」が 32.7%、「公園・河川敷など」が 30.5%、「公共のスポーツ施設」が 27.1%となっていた(表 13.)。前回調査と比較すると、「民間(商業)スポーツ施設」(38.8%→32.7%)が 5.1 ポイント下降しているのに対し、「公共のスポーツ施設」(15.6%→27.1%)が 11.5 ポイント上昇しており、公共の施設を利用する割合が増加している。

表 13. 実施場所 / 性別(複数回答、単位:%)

主な活動施設(男女)

	合計	男性	女性
	N = 361	N = 156	N = 200
1 民間(商業)スポーツ施設	32.7	32.7	33.5
2 公園・河川敷など	30.5	40.4	23.0
3 公共のスポーツ施設	27.1	21.8	31.5
4 道路、空き地・広場など	16.6	20.5	12.5
5 自然環境や野外活動施設	12.5	10.3	14.5
6 自宅・庭、個人の施設	10.5	8.3	12.0
7 学校のスポーツ施設	9.4	10.9	8.5
8 職場のスポーツ施設	1.4	1.9	1.0
その他	2.5	1.9	3.0
特に決まっていない	11.1	9.6	12.5
無回答	1.9	0.0	3.5
平均回答数	1.57	1.58	1.58

活動している公共施設の内容(男女)

	合計	男性	女性
	N = 98	N = 34	N = 63
1 スポーツセンター	32.7	23.5	38.1
2 体育館	24.5	26.5	23.8
3 屋外プール	18.4	20.6	15.9
4 テニスコート	16.3	11.8	19.0
5 運動場	12.2	26.5	4.8
6 球技場	8.2	17.6	3.2
7 野球場	6.1	17.6	0.0
8 ソフトボール場	2.0	2.9	1.6
9 ゲートボール場	1.0	0.0	1.6
その他	19.4	14.7	22.2
無回答	1.0	0.0	1.6
平均回答数	1.42	1.62	1.32

性別でみると、男性では「公園・河川敷など」(40.4%)、「民間(商業)スポーツ施設」(32.7%)、「公共のスポーツ施設」(21.8%)が多くなっており、女性では「民間(商業)スポーツ施設」(33.5%)、「公共のスポーツ施設」(31.5%)、「公園・河川敷など」(23.0%)が多くなっていた。

「公共のスポーツ施設」を選択した人(N = 98)に、どのような施設を利用しているか尋ねたところ、「スポーツセンター」(32.7%)、「体育館」(24.5%)、「屋外プール」(18.4%)が上位を占めていた。さらに、性別でみると、男性では「体育館」、「運動場」がともに 26.5%、「スポーツセンター」が 23.5%となっており、女性では「スポーツセンター」が 38.1%、「体育館」が 23.8%、「テニスコート」が 19.0%となっていた。

3. クラブ・同好会の加入状況について

(1) クラブ・同好会への加入状況

現在、職場や地域、民間施設などで、運動やスポーツクラブ・同好会に入っているかたずねたところ、回答者全体では「入っている」が19.3%、「入っていない」が78.6%と、未加入者が多くなっていた(図17.)。「入っている」の割合を前回調査と比較すると若干下回ったが(20.8%→19.3%)、総理府調査(15.8%)との比較では3.5ポイント上回った。

加入率を性別で見ると、男性は21.3%、女性は18.3%となっており、前回調査と比較すると、男性の加入率は5.7ポイント下降しており(27.0%→21.3%)、女性の加入率は2.0ポイント上昇していた(16.3%→18.3%)。

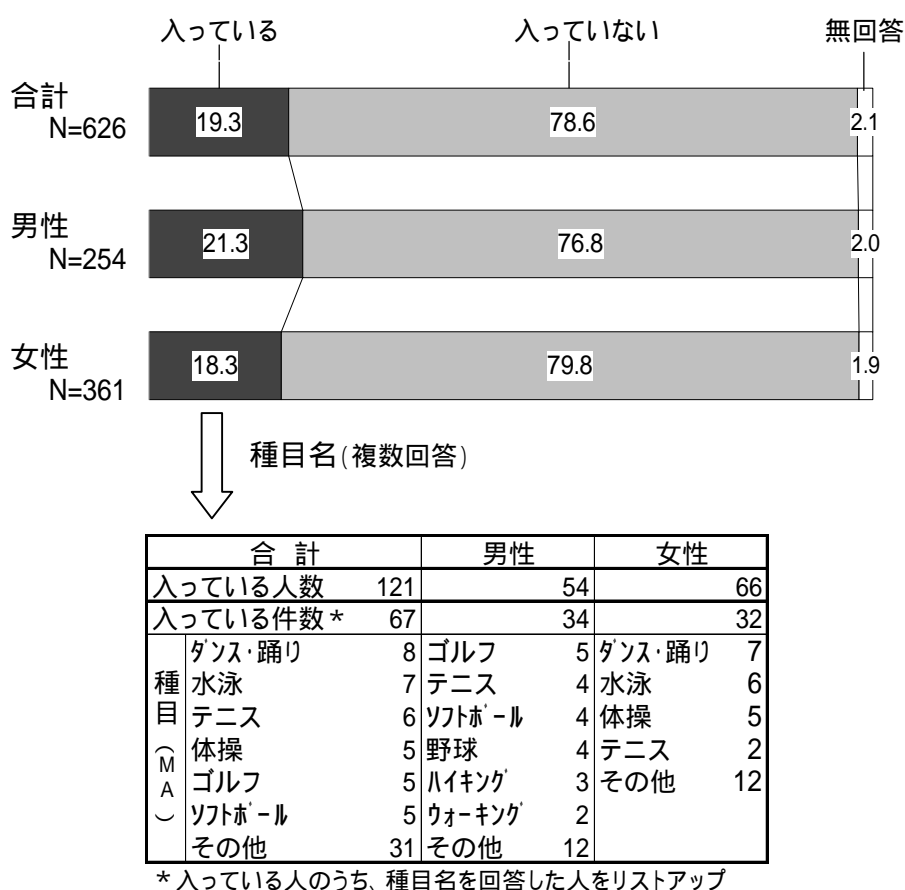


図17. スポーツクラブや同好会への加入状況とその形態(単独回答、単位:%)

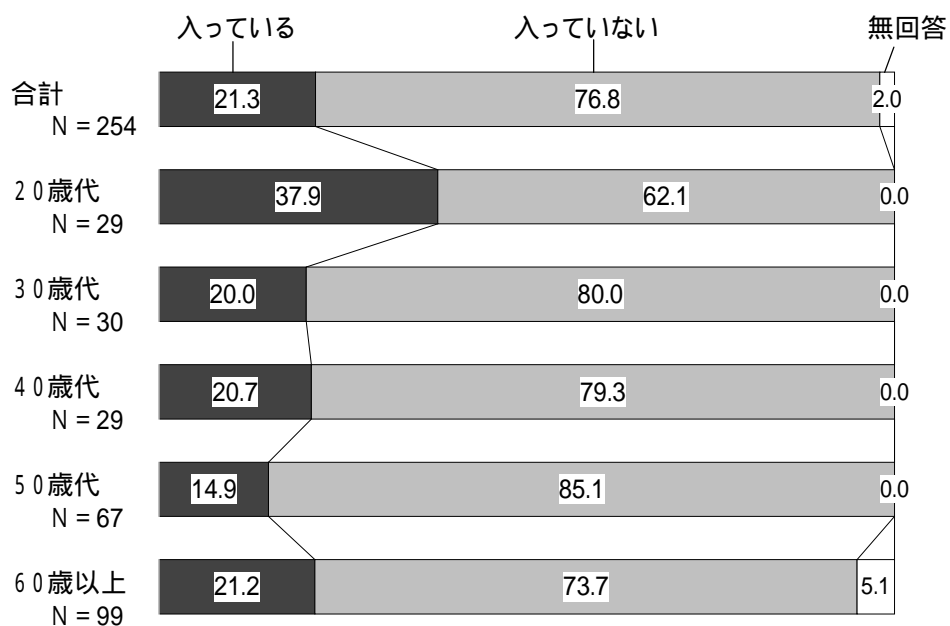


図 18. 年代別 スポーツクラブや同好会への加入状況 / 男性 (単独回答、単位:%)

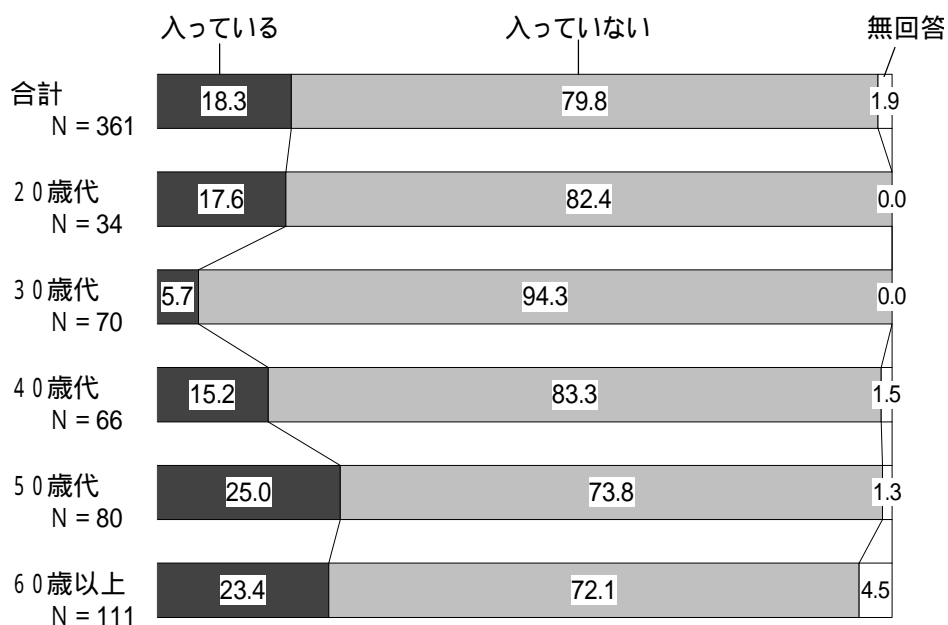


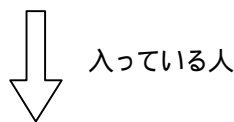
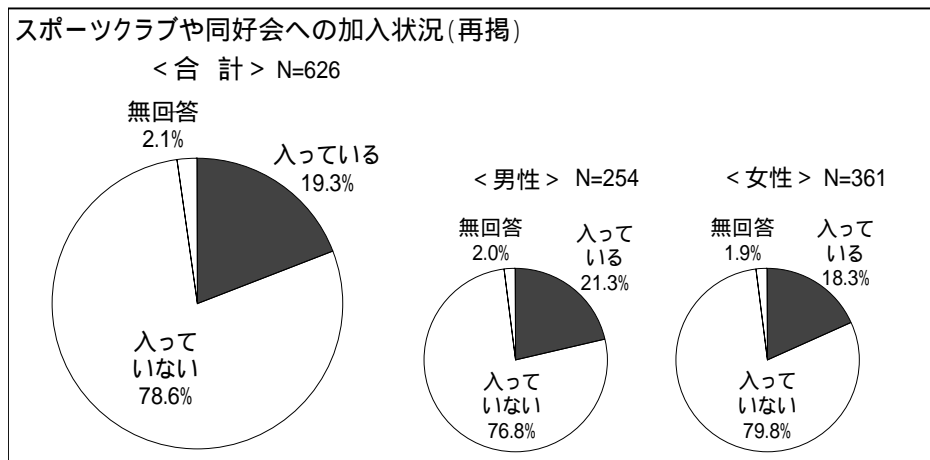
図 19. 年代別 スポーツクラブや同好会への加入状況 / 女性 (単独回答、単位:%)

加入率を性・年代別で見ると、男性では 20 歳代(37.9%)が最も高く、30・40・60 歳以上が約 20%、50 歳代が 14.9%となっていた(図 18.)。女性では、20・40 歳代が 20%弱、50～60 歳以上が約 25%となっており、30 歳代が 5.7%と最も低い値を示していた(図 19.)。

クラブ・同好会に加入していると回答した人(N= 121)に、種目名を尋ねたところ、「ダンス・踊り」、「水泳」、「テニス」、などが主に挙げられていた。また、性別で見ると、男性では、「ゴルフ」、「テニス」、「ソフトボール」などが主に挙げられており、女性では、「ダンス・踊り」、「水泳」、「体操」などが主に挙げられていた。

(2) クラブ同好会の形態

スポーツクラブや同好会に加入していると回答した人(N = 121)に、クラブや同好会の形態を尋ねたところ、「民間スポーツクラブなどが開設する会員制のクラブ」が 35.5%、「地域の仲間をつくるクラブや同好会」が 24.8%、「広く同好者でつくるクラブや同好会」が 21.5%と上位を占めていた(図 20.)。



地域や職場で加入しているクラブのタイプ(男女)

	合計	男性	女性
	N = 121	N = 54	N = 66
1 民間スポーツクラブなどが開設する会員制のクラブ	35.5	25.9	43.9
2 地域の仲間をつくるクラブや同好会	24.8	25.9	24.2
3 広く同好者でつくるクラブや同好会	21.5	27.8	16.7
4 公共の体育館やプールなどのクラブや同好会	10.7	5.6	15.2
5 PTAなど学校関係のクラブや同好会	7.4	5.6	9.1
6 職場のクラブや同好会	6.6	9.3	4.5
7 大学、専門学校のクラブや同好会	5.8	11.1	1.5
8 学校時代の仲間をつくるクラブや同好会	5.0	9.3	1.5
9 商店街などの同業の仲間のクラブや同好会	2.5	5.6	0.0
その他	3.3	5.6	1.5
無回答	1.7	0.0	1.5
平均回答数	1.25	1.31	1.20

図 20. クラブや同好会の形態 / 性別(複数回答、単位:%)

性別で見ると、男性では、「広く同好者でつくるクラブや同好会」(27.8%)、「地域の仲間をつくるクラブや同好会」(25.9%)、「民間スポーツクラブなどが開設する会員制のクラブ」(25.9%)が、ほぼ同じ割合で高い割合を示していた。それに対して、女性では、「民間スポーツクラブなどが開設する会員制のクラブ」が43.9%と圧倒的に高くなっており、総理府調査より25.4ポイント高い割合を示していた(総理府 18.5% - 今回調査 43.9%)。

(3) クラブ・同好会への加入意向

スポーツクラブや同好会の未加入者(N = 492)に、スポーツクラブや同好会への加入意向を尋ねたところ、「加入したいと思う」が 38.0%、「加入したいと思わない」が 28.9%、「わからない」が 31.5%となっていた(図 21.)。総理府調査と比較すると、今回調査では、「加入したいと思う」が 12.8 ポイント高くなっており(総理府 25.2% - 今回調査 38.0)、「加入したいと思わない」が 37.9 ポイント下回っていた(総理府 66.8% - 今回調査 28.9%)。全国的にみて、大阪市民は、現在の加入率も、今後の加入意向も、共に高い傾向にあるといえる。

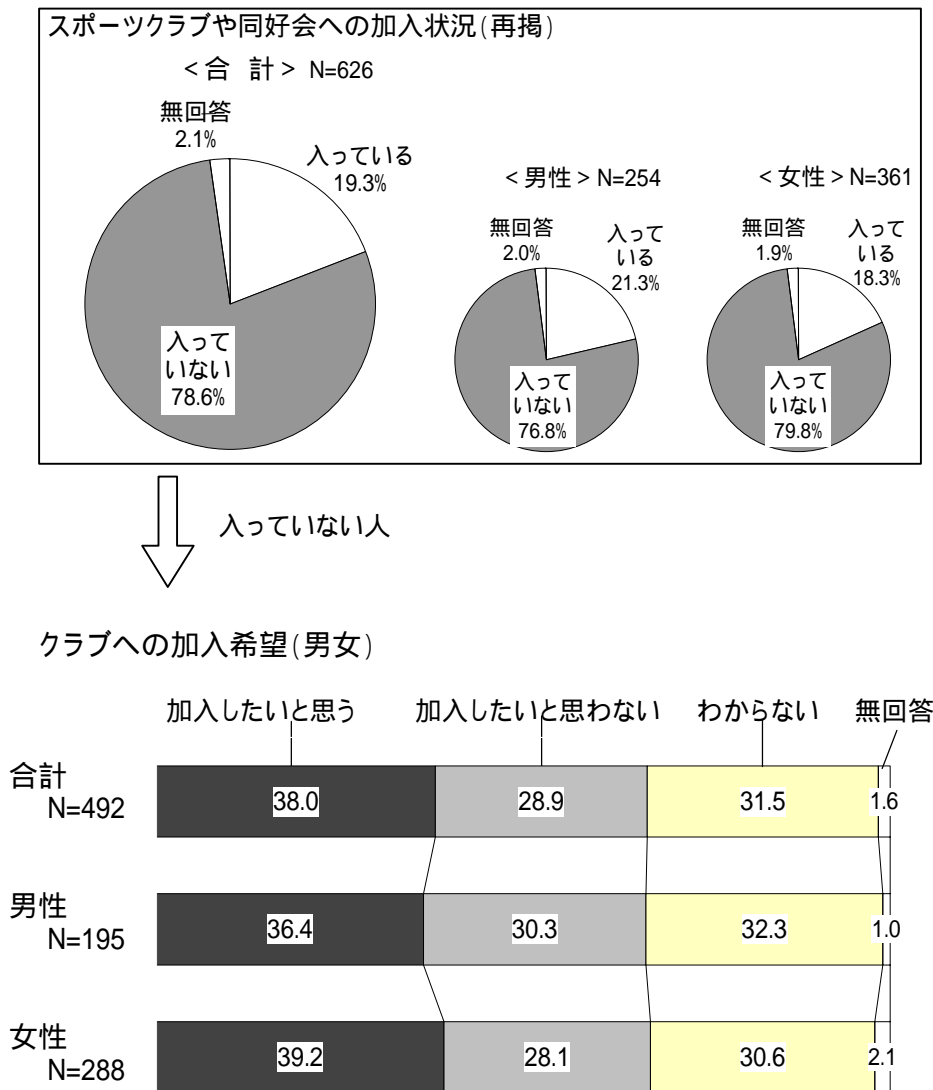


図 21. クラブの加入意向 / 性別(単独回答、単位: %)

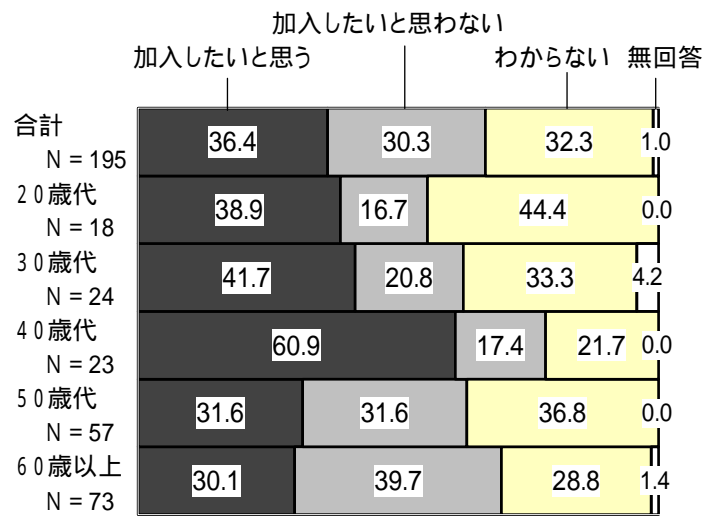


図 22. 年代別クラブの加入意向 / 男性(単独回答、単位:%)

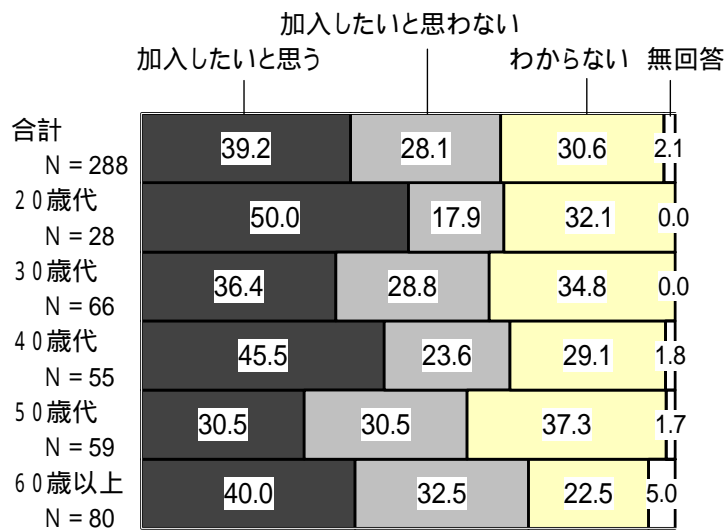


図 23. 年代別クラブの加入意向 / 女性(単独回答、単位:%)

性・年代別にみると、男性の40歳代(60.9%)は、圧倒的に加入を希望する割合が高くなっていた(図22、図23.)。

さらに、調査対象者全体(N=626)の中で、「現在加入している」と「加入したい」の割合を合わせると49.2%になり、ほぼ半数の人がクラブ加入に興味をもっていた。そして、「加入したいと思わない」の割合は22.7%、「わからない」の割合は24.8%となっていた(図24.)。

性別でみると、「加入したいと思う」(男性36.4%・女性39.2%)、「加入したいと思わない」(男性30.3%・女性28.1%)のどちらにおいても、男女の差異はほとんどみられなかった。

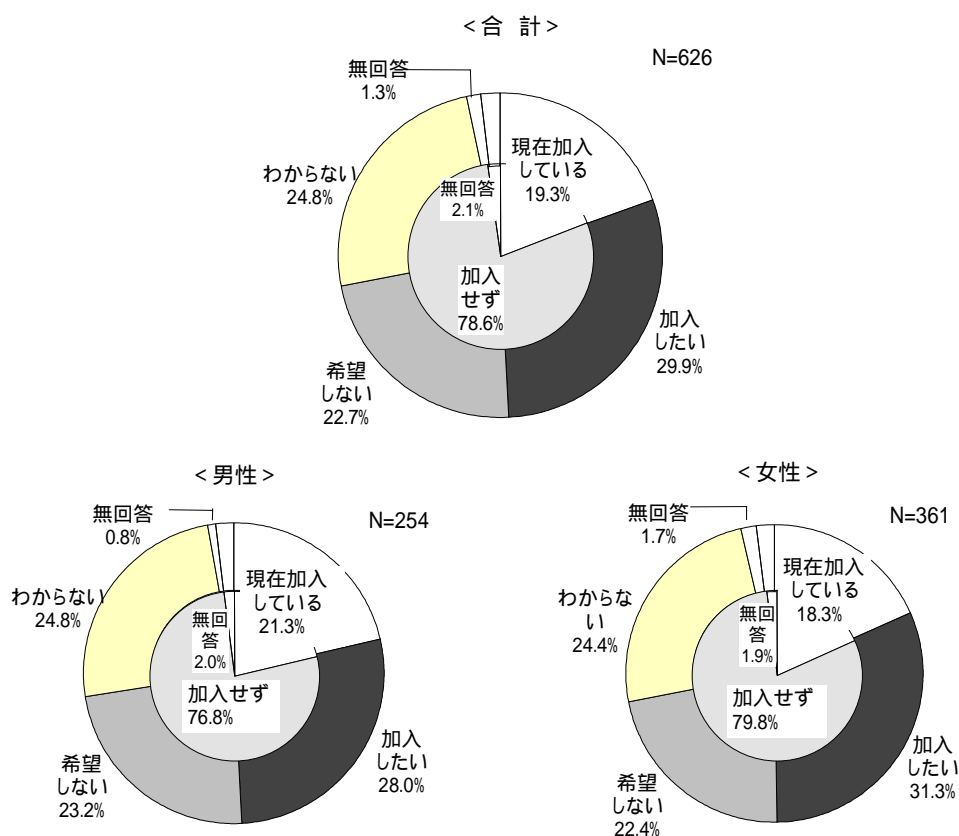


図24. クラブの加入状況と意向 / 性別 (単独回答、単位:%)

4. 総合型地域スポーツクラブについて

(1) 総合型地域スポーツクラブの認知度

総合型地域スポーツクラブについて尋ねたところ、回答者全体では、「知っている」が 13.1%であったのに対して、「知らない」が 82.9%であった(図 25.)。

性別で見ると、「知っている」と回答した人は、男女ともに 13.0%であった。性・年代別で見ると、「知っている」と回答した男性は、60 歳代が 18.2%、50 歳代が 17.9%となっていたのに対し、40 歳代では 0.0%と全く認知されていなかった(図 26.)。また女性では、60 歳代が 18.0%、50 歳代が 17.5%、40 歳代が 9.1%となっていた(図 27.)。

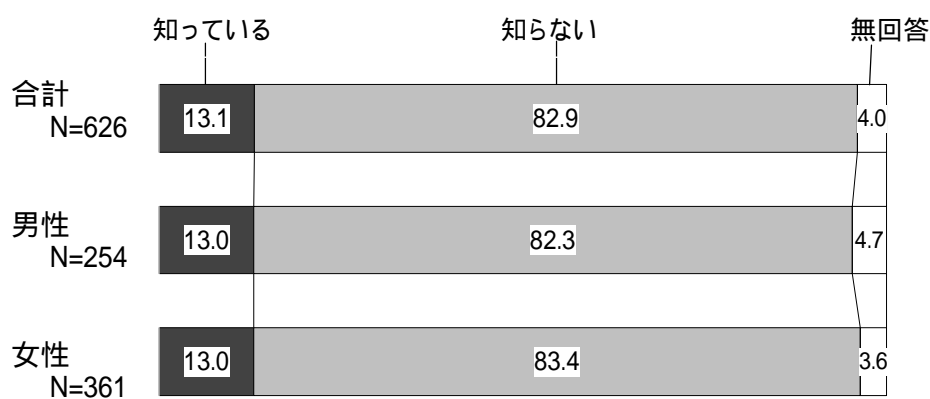


図 25. 総合型地域スポーツクラブの認知/性別(単独回答、単位:%)

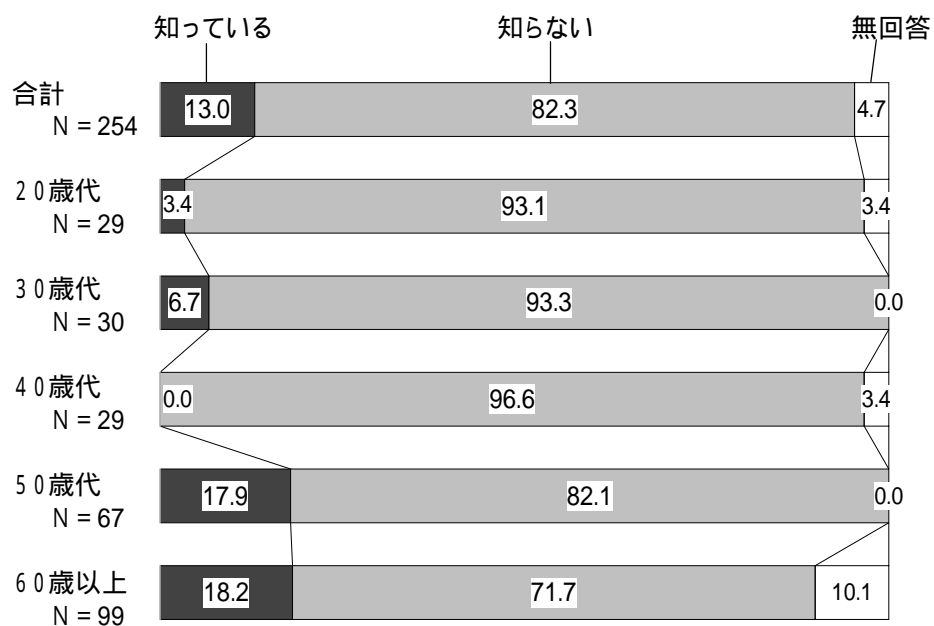


図 26. 年代別 総合型地域スポーツクラブの認知 / 男性 (単独回答、単位：%)

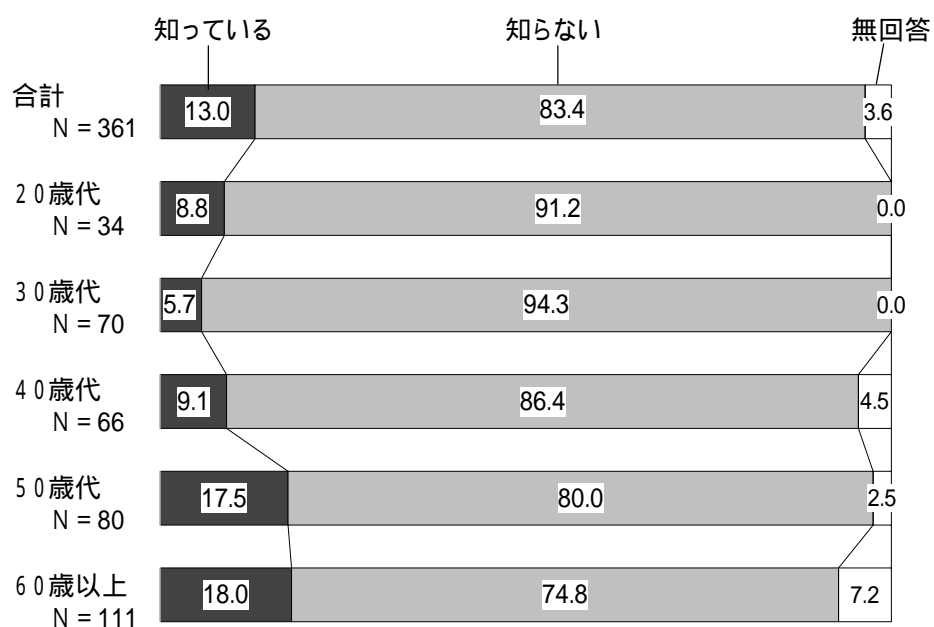
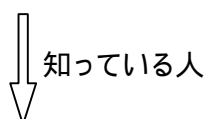
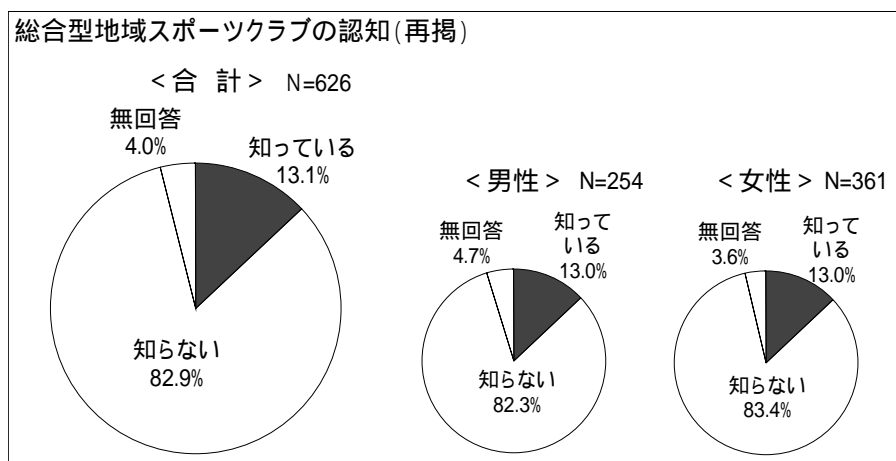


図 27. 年代別 総合型地域スポーツクラブの認知 / 女性 (単独回答、単位：%)

(2) 総合型地域スポーツクラブに関する情報の入手

総合型地域スポーツクラブを「知っている」と回答した人(N = 82)に、知ったきっかけについて尋ねたところ、「広報誌等」(45.1%)、「友人・スポーツ仲間」(39.0%)、「新聞・テレビ等」(22.0%)となっていた(図 28.)。

性別でみると、男性では、「広報誌等」が51.5%、「友人、スポーツ仲間」と「新聞、テレビ等」がともに27.3%となっていた。また女性では、「友人・スポーツ仲間」が46.8%、「広報誌」が40.4%、「新聞・テレビ等」が19.1%となっていた。女性は、男性と比べ、知人、友人といった人的ネットワークから、総合型地域スポーツクラブの情報を得ているということがわかる。



総合型地域スポーツクラブを知った理由(男女)

	合計	男性	女性
	N = 82	N = 33	N = 47
1 広報誌等	45.1	51.5	40.4
2 友人・スポーツ仲間	39.0	27.3	46.8
3 新聞、テレビ等	22.0	27.3	19.1
4 雑誌等の書籍	6.1	9.1	4.3
5 研修・講習会	4.9	3.0	6.4
その他	1.2	3.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0
平均回答数	1.18	1.21	1.17

図 28. 総合型地域スポーツクラブを知ったきっかけ(複数回答、単位: %)

(3) 総合型地域スポーツクラブへの関心

総合型地域スポーツクラブへの関心を尋ねたところ、回答者全体では、「関心がある」が 53.2%であったのに対して、「関心がない」が 41.4%となっていた(図 29.)。

性別で見ると、男性では「関心がある」が 52.8%、「関心がない」が 42.5%となっており、女性でも「関心がある」が 53.5%、「関心がない」が 40.7%となっていた。関心の有無については、性別で大きな差異はないといえる。

性・年代別で見ると、「関心がある」と回答した男性は、40 歳代が 65.5%、30 歳代が 63.3%、20 歳代が 62.1%の順になっていた(図 30.)。女性は、20 歳代が 61.8%、40 歳代が 57.6%、50 歳代が 55.0%の順になっていた。特に、男性では、20～40 歳代の各年代において 6 割以上の方が関心を持っていた(図 31.)。

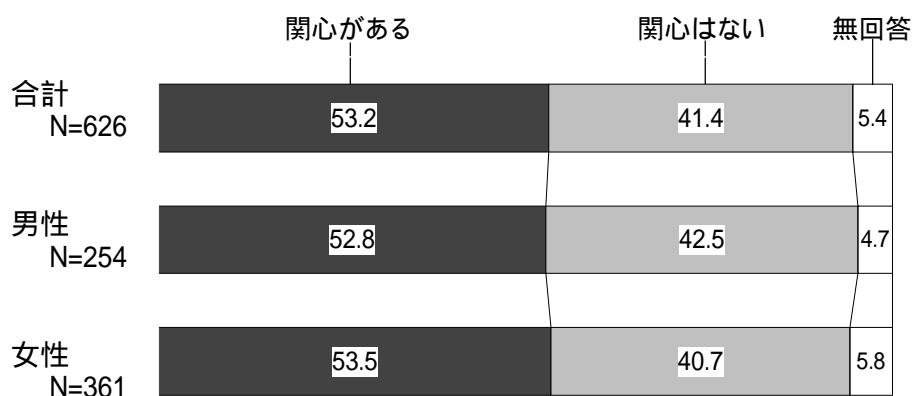


図 29. 総合型地域スポーツクラブへの関心 / 性別(単独回答、単位:%)

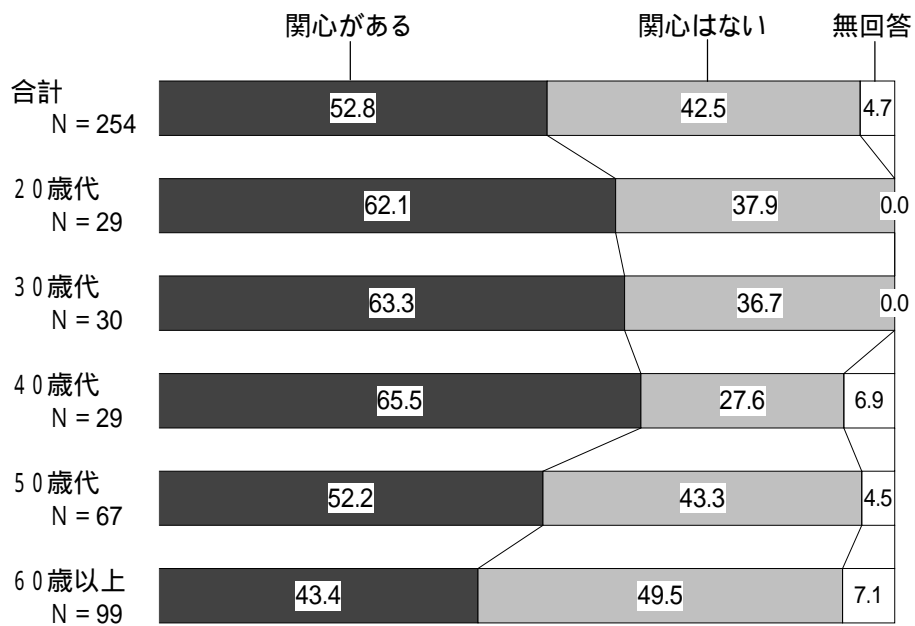


図 30. 年代別 総合型地域スポーツクラブへの関心 / 男性 (単独回答、単位: %)

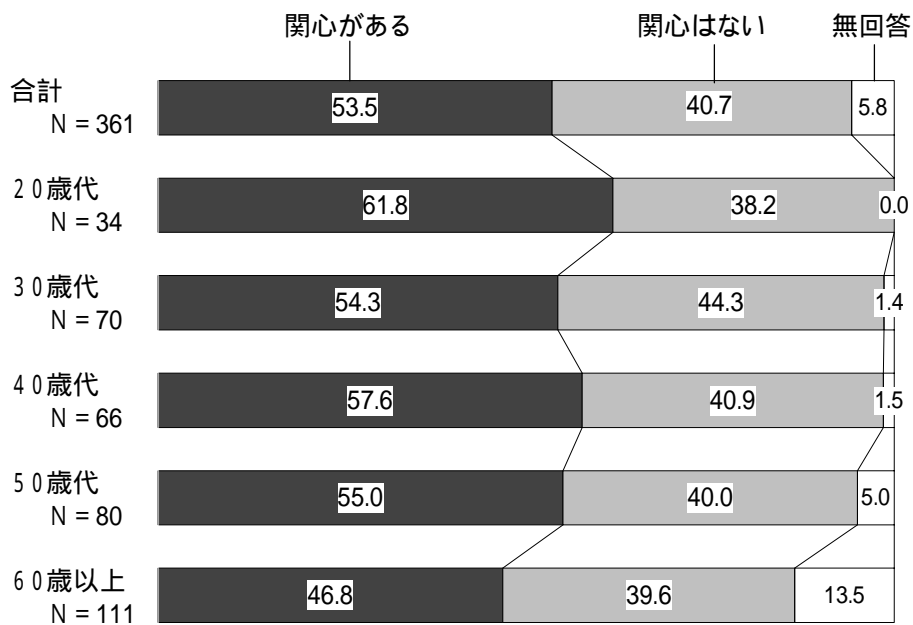


図 31. 年代別 総合型地域スポーツクラブへの関心 / 女性 (単独回答、単位: %)

(4) 総合型地域スポーツクラブへの関心の程度

総合型地域スポーツクラブに「関心がある」と回答した人(N = 333)に、総合型地域スポーツクラブについてたずねたところ、最も多かった回答が「詳しく知りたい」(42.3%)となっており、次に「会員になりたい」(41.7%)となっていた(図 32.)。

性別で見ると、男性では「詳しく知りたい」が 40.3%、「会員になりたい」が 39.6%となっており、女性では「詳しく知りたい」が 44.0%、「会員になりたい」が 43.5%となっていた。

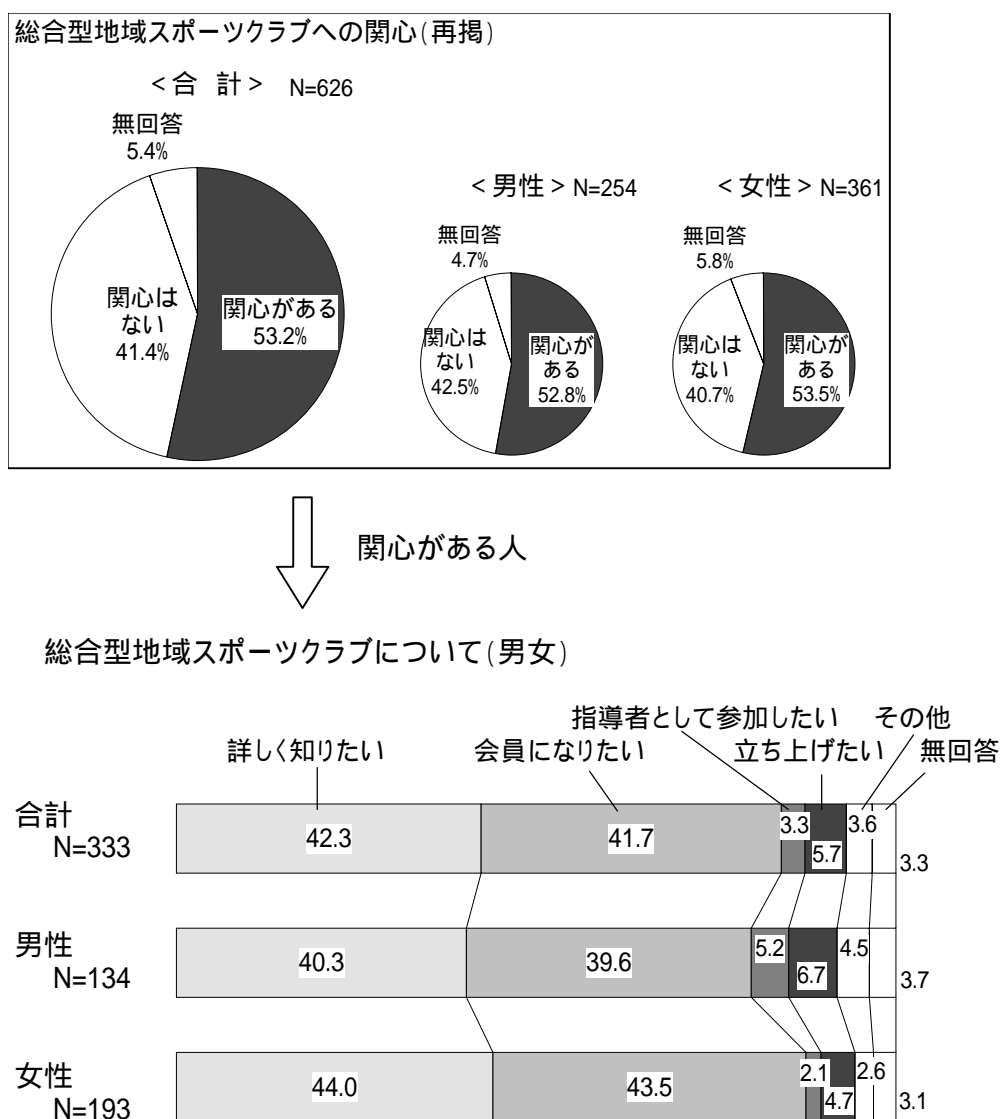
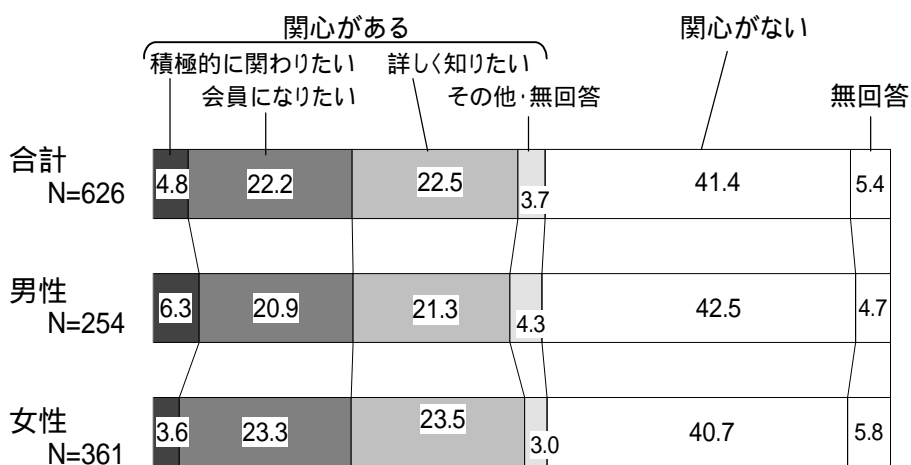


図 32. 総合型地域スポーツクラブへの関心 / 性別(単独回答、単位:%)

さらに、調査対象者全体に対して、総合型地域スポーツクラブへの関心を尋ねたところ、「詳しく知りたい」が22.5%、「会員になりたい」が22.2%となっていた(図33.)。また、「指導者として参加したい」と「立ち上げたい」を合わせて“積極的に関わりたい群”とし、性別でみたところ、男性は6.3%、女性は3.6%と、男性の方が積極的に関わりたいと希望していた。



* 積極的に関わりたい:指導者として参加したい+立ち上げたい

図 33. 総合型地域スポーツクラブへの関心 / 性別 (単独回答、単位:%)

(5) 地域住民の主体的なかかわりに対する意識

総合型地域スポーツクラブに「関心がある」と回答した人(N=333)に、地域住民が主体的に設立することについて尋ねたところ、「望ましいが現実には難しい」が63.7%、「行政が主体的に取り組むべき」が21.0%となっていた(図34.)。

性別で見ると、男性では、「望ましいが現実には難しい」が64.2%、「行政が主体的に取り組むべき」が22.4%となっていた。また女性では、「望ましいが現実には難しい」が64.8%、「行政が主体的に取り組むべき」が19.2%となっていた。つまり、関心はあるものの、半数以上は主体的な取り組みについて難しさを感じており、その分、行政に期待するといった傾向にあるといえる。

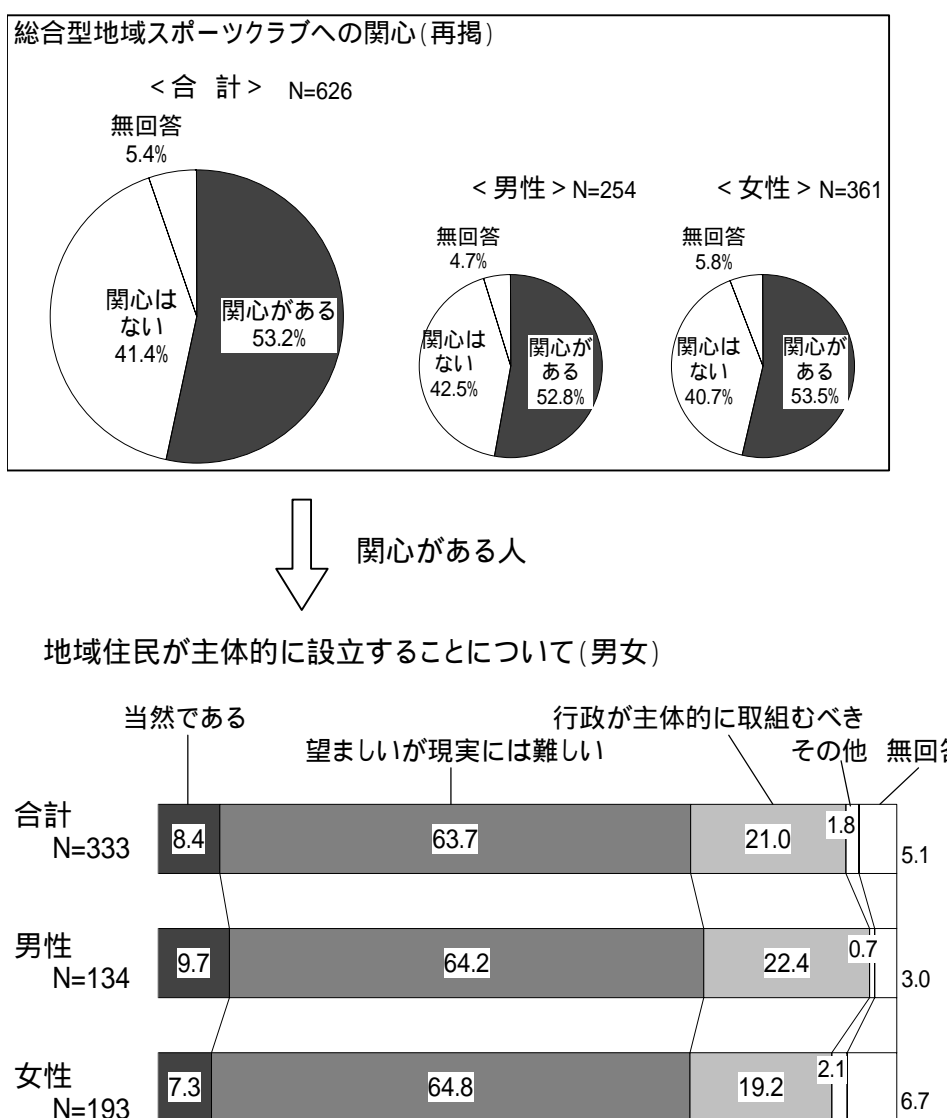


図34. 地域住民の主体的なかかわりに対する意識 / 性別(単独回答、単位:%)

(6) 会費について

総合型地域スポーツクラブに「関心がある」と回答した人(N=333)に、「会費」について尋ねたところ、「501～1,000円」が39.6%、「1,001～2,000円」が35.7%、「500円以下」が13.8%となっていた(図35.)。

性別で見ると、男性では「1,001～2,000円」が41.0%、「501～1,000円」が38.8%となっており、女性では「501～1,000円」が40.4%、「1,001～2,000円」が32.1%となっていた。

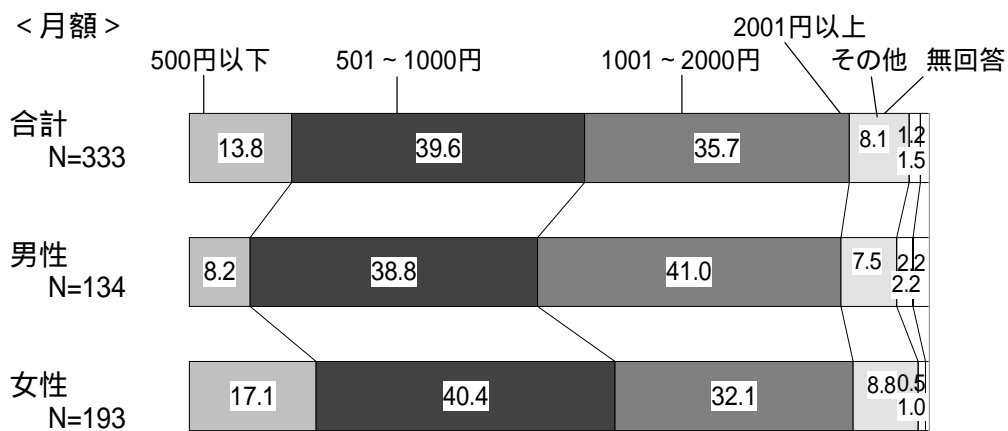
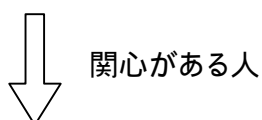
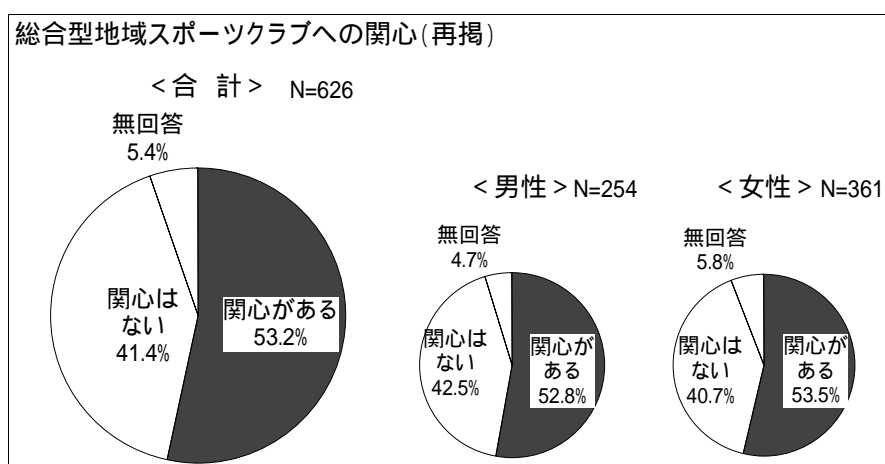


図 35. 会費の額 / 性別(単独回答、単位:%)

(7) 希望する公的援助の内容

総合型地域スポーツクラブに「関心がある」と回答した人(N=333)に、行政に希望するサポートについて尋ねたところ、「活動場所の優先使用」が40.2%、「総合型地域スポーツクラブのPR」が35.4%、「クラブづくりのための情報・ノウハウの提供」が33.9%となっていた(図36.)。

性別でみると、男女ともに「活動の場所の優先使用」「総合型地域スポーツクラブのPR」「クラブづくりのための情報・ノウハウの提供」という順になっていた。その中でも、最も回答が多かった「活動場所の優先使用」では、女性の方が約5ポイント上回っていた。



行政が行うサポートで必要なこと(男女)

	合計	男性	女性
	N = 333	N = 134	N = 193
1 活動場所の優先使用	40.2	37.3	42.5
2 総合型地域スポーツクラブのPR	35.4	35.1	35.2
3 クラブづくりのための情報・ノウハウの提供	33.9	34.3	34.2
4 助成金	26.1	22.4	29.5
5 指導者の紹介・研修	17.4	20.9	15.5
6 クラブハウスのための条件整備	15.9	20.1	13.0
7 スポーツ用具の貸し出し	15.6	14.9	15.5
8 交流会	4.8	6.0	4.1
その他	0.3	0.7	0.0
無回答	2.7	1.5	3.1
平均回答数	1.95	1.95	1.96

図36. 希望する公的援助の内容/性別(複数回答、単位:%)

5. スポーツ行事への参加状況について

(1) スポーツ行事への参加状況

過去 1 年間に、大阪市や区、町内会などが催す地域のスポーツ行事に参加したことがあるのかたずねたところ、回答者全体では、「参加しなかった」が 77.3%、「参加した」が 11.5%、「見物しただけ」が 8.9%となっていた(図 37.)。

「参加した」を性別でみると、男性が 14.2%、女性が 10.0%となっており、比較的、男性の割合が高くなっている。また、性・年代別でみると、男性では 50 歳代(17.9%)、女性では 60 歳代(11.3%)が高い割合を示していた(図 38.、図 39.)。

前回調査と比較すると、20 歳代の男性は、「参加した」割合が 10.9 ポイント上昇していた(6.3%→17.2%)。

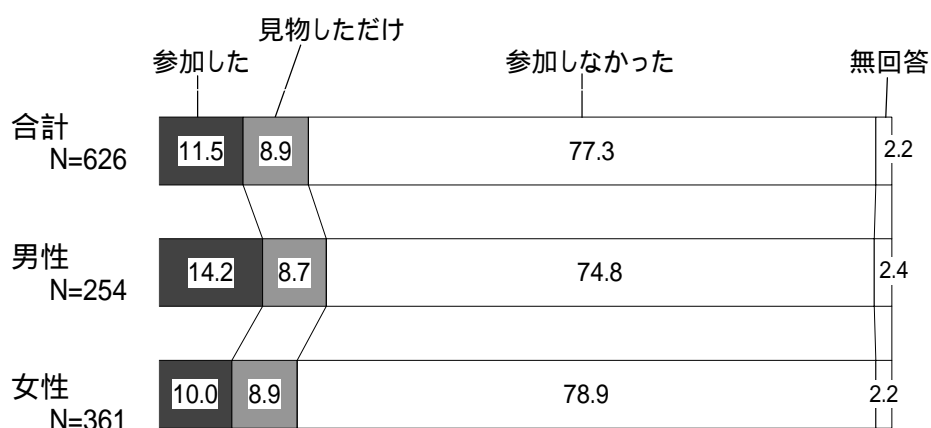


図 37. スポーツ行事への参加状況 / 性別(単独回答、単位:%)

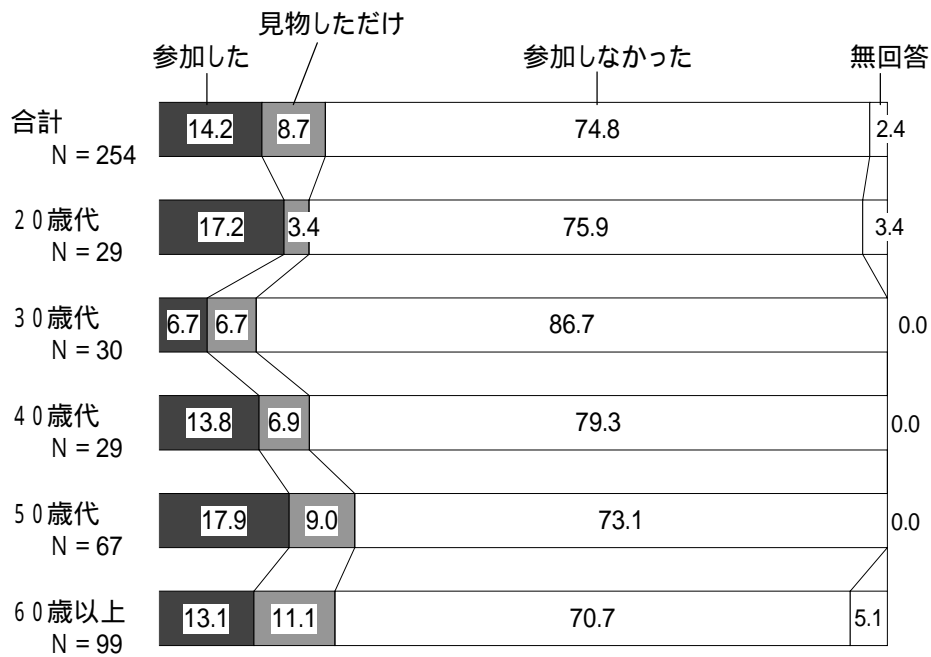


図 38. 年代別 スポーツ行事への参加状況 / 男性(単独回答、単位:%)

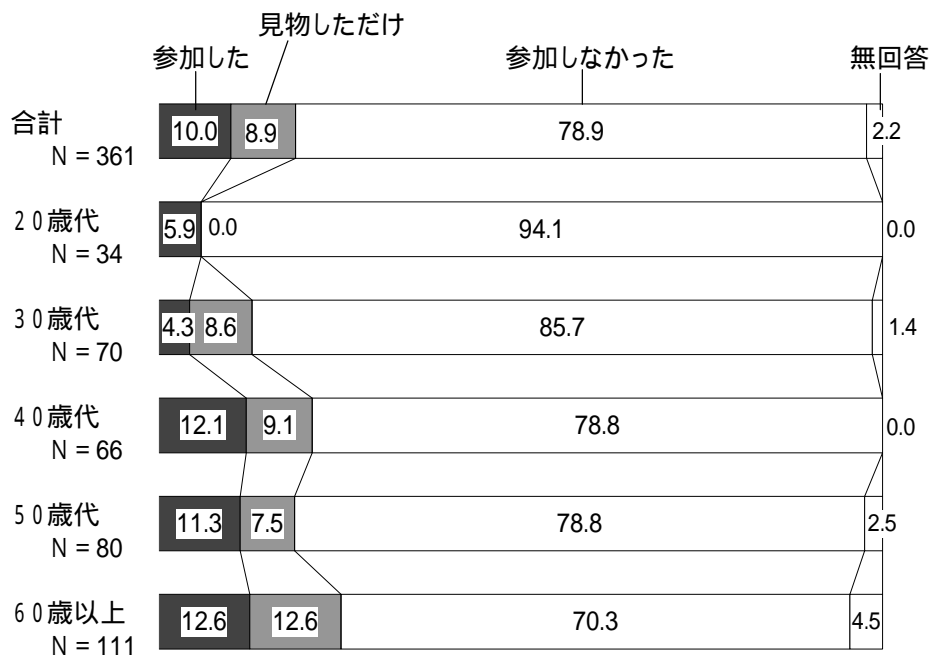


図 39. 年代別 スポーツ行事への参加状況 / 女性(単独回答、単位:%)

(2) 参加を希望するスポーツ行事の種類

スポーツ行事が開催される場合、どのような行事に参加したいのかたずねたところ、調査対象者全体では、「野外活動(ハイキング、キャンプ、ピクニック、自然散策など)」が 36.6%、「健康づくり(健康づくりイベント、ウォーキングイベント、スイミングなど)」が 34.0%、「レクリエーション(運動会やニュースポーツ祭、ファミリースポーツ大会など)」が 15.2%となっていた(表 14.)。前回調査と比較しても、これらの割合、順位は、ほぼ同様の結果であった。

性・年代別でみると、20 歳代の男性では「競技大会」が 41.4%と圧倒的に多くなっており、女性では「野外活動」、「全国、国際スポーツ大会やイベント観戦」がともに 23.5%と高い割合を占めていた(表 15.、表 16.)。また、中高年層をみると、男性では、40～60 歳以上で「野外活動」が多くなっており、女性では、40～60 歳以上で「健康づくり」が多くなっていった。つまり、比較的、年齢の若い層は、競技性のあるスポーツ行事に関心が強く、高齢になるにつれて、野外活動や健康づくりといった生涯をとおしてできる活動に関心が高まる傾向にあるといえる。

表 14. 希望するスポーツ行事の内容 / 性別(複数回答、単位:%)

	合 計	男性	女性
	N = 626	N = 254	N = 361
1 野外活動(ハイキングなど)	36.6	42.9	32.4
2 健康づくり(健康づくりイベントなど)	34.0	30.7	36.6
3 レクリエーション(運動会など)	15.2	15.7	14.7
4 スポーツ教室・講習会	13.4	13.0	13.6
5 テスト(体力テスト・スポーツテストなど)	11.7	11.0	12.2
6 全国・国際スポーツ大会やイベント観戦	8.3	7.5	8.9
7 競技大会(区民スポーツ大会など)	7.2	11.4	4.4
8 指導者・審判講習会	3.0	5.5	1.4
その他	0.2	0.4	0.0
特にない	16.9	13.0	19.1
わからない	7.7	6.7	8.0
無回答	2.9	2.8	3.0
平均回答数	1.59	1.62	1.56

表 15. 年代別 参加を希望するスポーツ行事の種類 / 男性 (複数回答、単位:%)

男性	合計 N = 254	20歳代 N = 29	30歳代 N = 30	40歳代 N = 29	50歳代 N = 67	60歳以上 N = 99
1 野外活動(ハイキングなど)	42.9	20.7	20.0	58.6	56.7	42.4
2 健康づくり(健康づくりイベントなど)	30.7	17.2	13.3	24.1	38.8	36.4
3 レクリエーション(運動会など)	15.7	13.8	23.3	27.6	14.9	11.1
4 スポーツ教室・講習会	13.0	6.9	20.0	6.9	20.9	9.1
5 競技大会(区民スポーツ大会など)	11.4	41.4	13.3	6.9	7.5	6.1
6 テスト(体力テスト・スポーツテストなど)	11.0	34.5	6.7	6.9	7.5	9.1
7 全国・国際スポーツ大会やイベント観戦	7.5	20.7	6.7	10.3	4.5	5.1
8 指導者・審判講習会	5.5	10.3	0.0	10.3	6.0	4.0
その他	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
特にない	13.0	6.9	23.3	13.8	6.0	16.2
わからない	6.7	0.0	16.7	3.4	3.0	9.1
無回答	2.8	0.0	0.0	3.4	3.0	4.0
平均回答数	1.62	1.72	1.43	1.75	1.71	1.56

表 16. 年代別 参加を希望するスポーツ行事の種類 / 女性 (複数回答、単位:%)

女性	合計 N = 361	20歳代 N = 34	30歳代 N = 70	40歳代 N = 66	50歳代 N = 80	60歳以上 N = 111
1 健康づくり(健康づくりイベントなど)	36.6	20.6	22.9	37.9	45.0	43.2
2 野外活動(ハイキングなど)	32.4	23.5	27.1	33.3	41.3	31.5
3 レクリエーション(運動会など)	14.7	8.8	22.9	18.2	5.0	16.2
4 スポーツ教室・講習会	13.6	17.6	20.0	19.7	5.0	10.8
5 テスト(体力テスト・スポーツテストなど)	12.2	14.7	15.7	15.2	8.8	9.9
6 全国・国際スポーツ大会やイベント観戦	8.9	23.5	8.6	12.1	8.8	2.7
7 競技大会(区民スポーツ大会など)	4.4	11.8	5.7	1.5	5.0	2.7
8 指導者・審判講習会	1.4	2.9	0.0	3.0	1.3	0.9
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特にない	19.1	20.6	20.0	19.7	21.3	16.2
わからない	8.0	5.9	10.0	3.0	13.8	6.3
無回答	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.9
平均回答数	1.56	1.50	1.53	1.64	1.55	1.56

6. スポーツボランティアの活動について

(1) スポーツに関するボランティア活動の経験

過去1年間のスポーツボランティアの経験についてたずねたところ、「行った」と答えた人の割合は7.0%であった(図40.)。総理府調査では、「行った」が8.5%、前回調査では5.3%で、前回調査と比較すると1.7ポイント高くなっており、総理府調査と比較すると1.5ポイント低くなった。

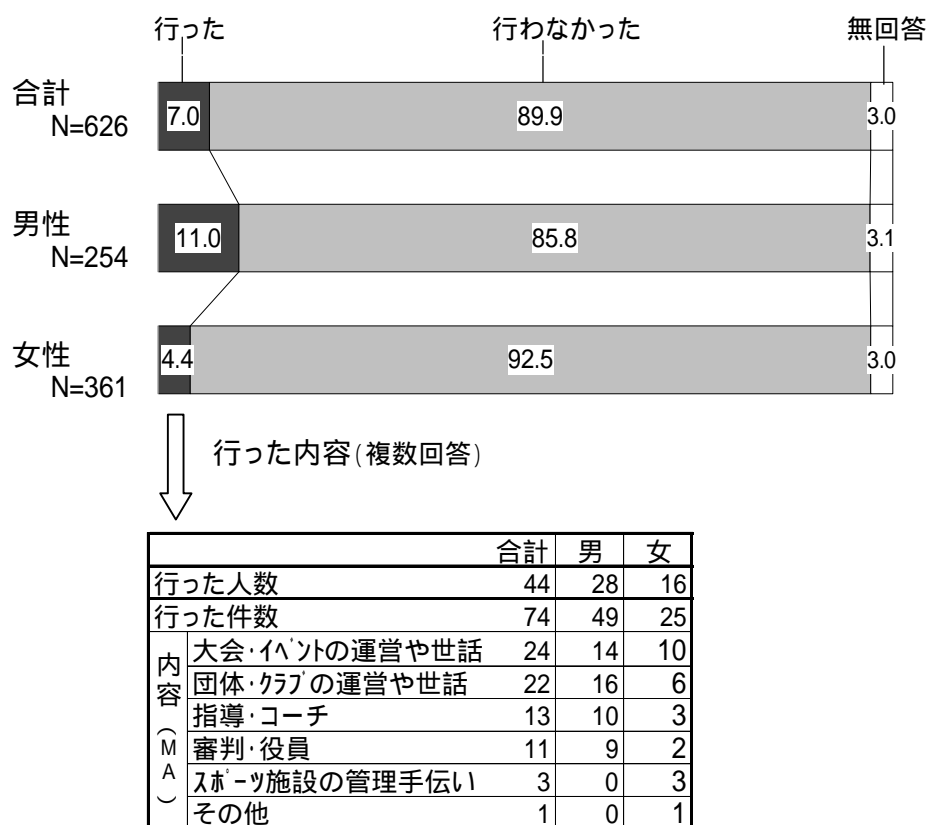


図40. スポーツボランティアの活動経験の有無/性別(単独回答、単位:%)

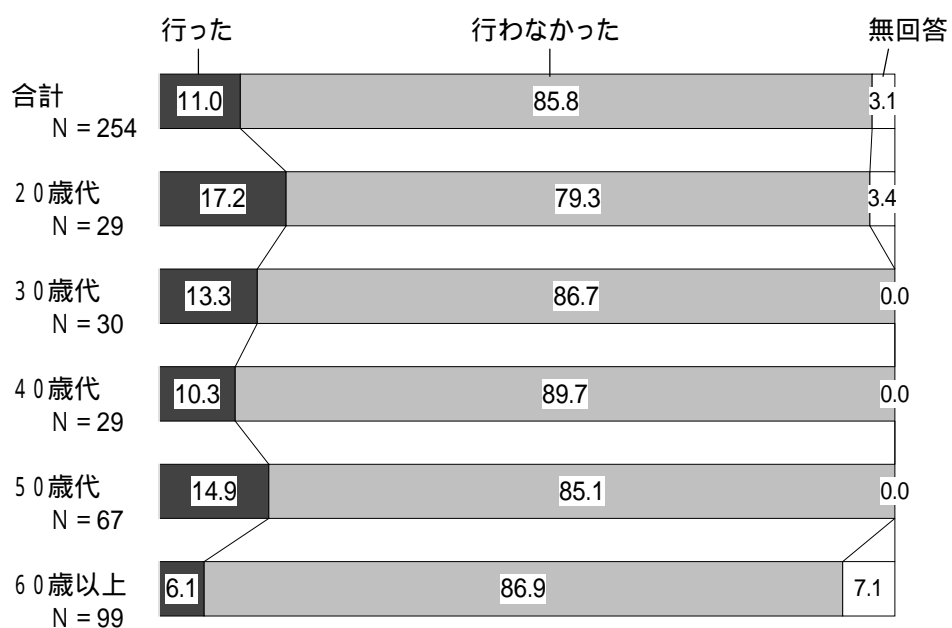


図 41. 年代別 スポーツボランティアの活動経験の有無 / 男性 (単独回答、単位:%)

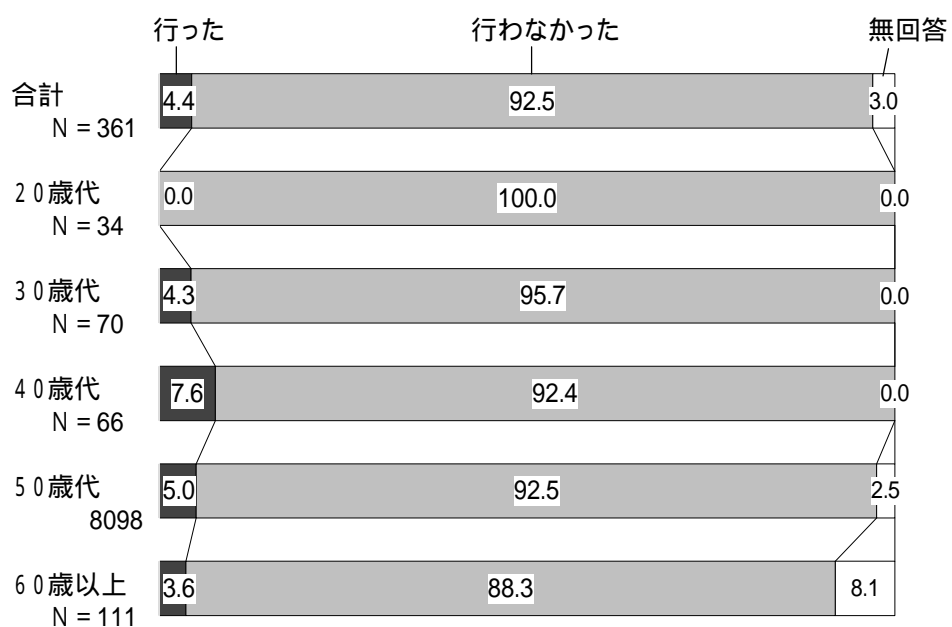


図 42. 年代別 スポーツボランティアの活動経験の有無 / 女性 (単独回答、単位:%)

性別で見ると、男性は 11.0%、女性は 4.4%となっており、男性が 6.6 ポイント上回っていた(図 41、図 42.)。総理府調査でも、男性が 10.4%、女性が 6.8%と、男性の方が高い割合を示していた。

「行った」と回答した人(N=44)を性・年代別にみると、男性では 20 歳代(17.2%)、50 歳代(14.9%)が多くなっていた。また、女性で最も高い割合を示したのは 40 歳代であるが、7.6%と低い割合であった。

(2) ボランティア活動の内容

「行った」と回答した人(N=44)に、活動の内容についてたずねたところ、「大会・イベントの運営や世話」が 24 件と最も多く、次に「団体・クラブの運営や世話」が 22 件、「スポーツの指導・コーチ」が 13 件となっていた(図 40.)。

(3) 今後のボランティア活動の意向

今後のボランティア活動についてたずねたところ、「ぜひ行きたい」が 2.4%、「できれば行きたい」が 22.0%、「全く行きたいとは思わない」が 15.3%となった(図 43.)。総理府調査では、「行きたい(「ぜひ行きたい」+「できれば行きたい」)」が 21.5%となっており、今回調査が 2.9 ポイント上回っていた。

性別で見ると、女性に比べ、男性の方が、「ぜひ行きたい」(男性 3.9%・女性 1.4%)、「できれば行きたい」(男性 24.8%・女性 20.2%)といった積極派が多くなっている。

性・年代別では、「ぜひ行きたい」で 20.7%と高い割合を示した男性 20 歳代を除いて、年齢が高くなるにつれ、ボランティア活動の参加に対する意向が、徐々に高まる傾向にある。(図 44、図 45.)

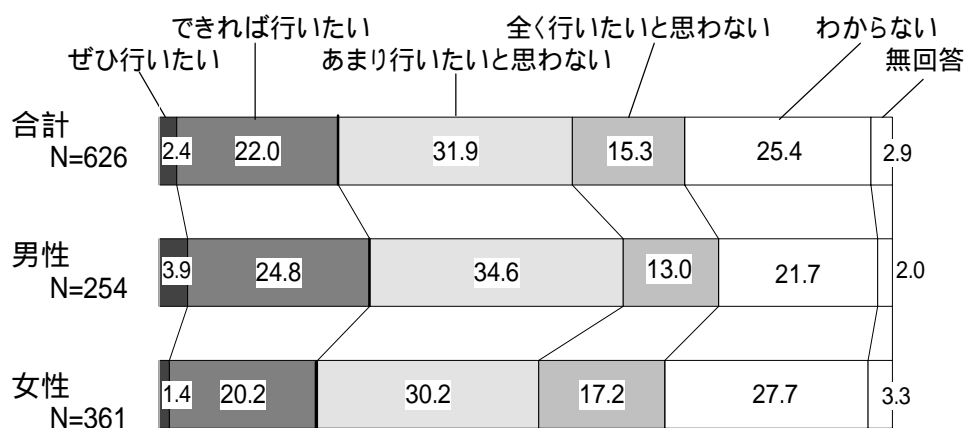


図 43. ボランティア活動の意向 / 性別(単独回答、単位:%)

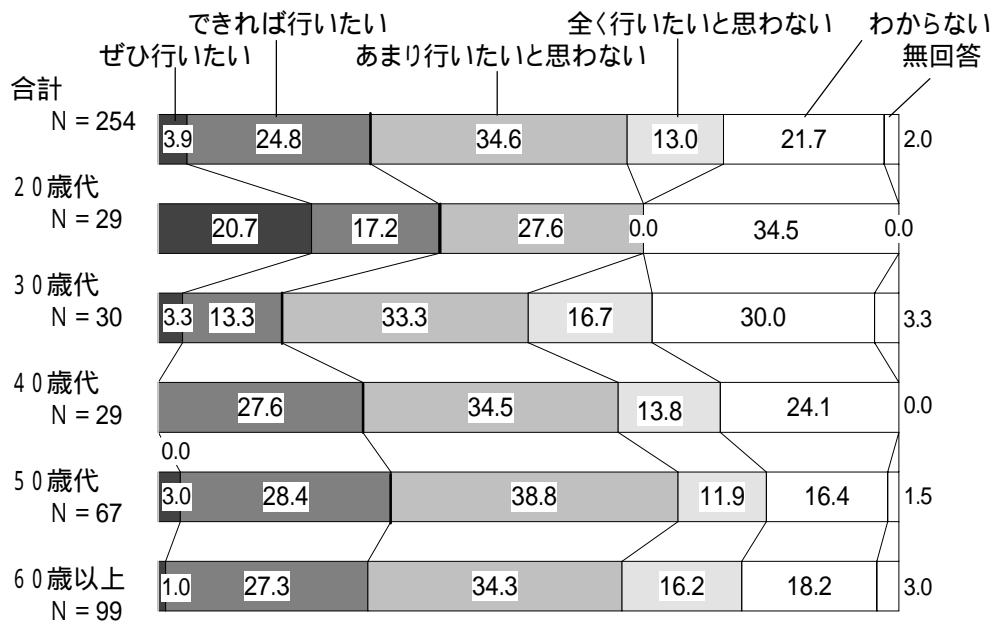


図 44. 年代別 ボランティア活動の意向 / 男性(単独回答、単位:%)

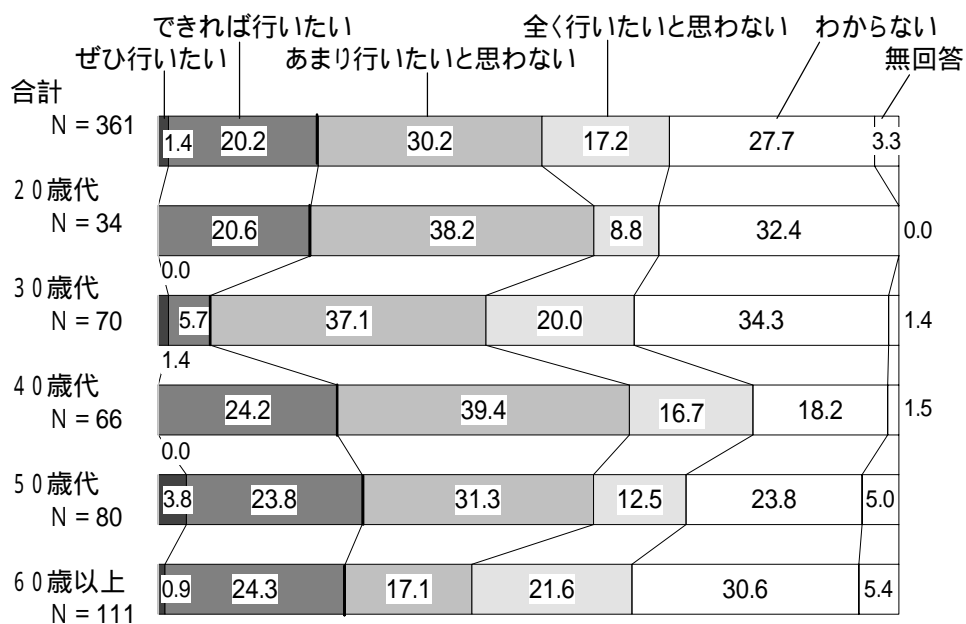


図 45. 年代別 ボランティア活動の意向 / 女性(単独回答、単位:%)

7. スポーツに関する試合・大会の観戦について

(1) 競技場での観戦経験

過去 1 年間の競技場におけるスポーツの試合や大会(プロスポーツを含む)の観戦経験をたずねたところ、観戦経験が「ある」とする人は 28.0%であった(図 46.)。

「ある」を性別で見ると、男性が 33.5%、女性が 24.1%となっており、男性が約 10 ポイント上回っている。前回調査では、男性は 32.6%、女性は 17.8%となっており、やや上昇傾向にあることが分かる。

また、「ある」を性・年代別で見ると、男性は 20～40 歳代で 40%以上となっていた(図 47.)。それに比べ、女性の 20～40 歳代は 30%前後となっており、約 10 ポイントの差がみられる(図 48.)。

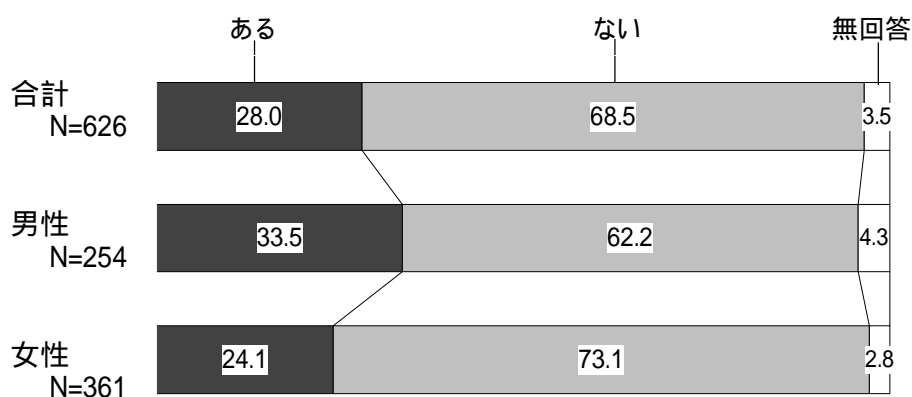


図 46. 競技場での観戦経験の有無 / 性別(単独回答、単位:%)

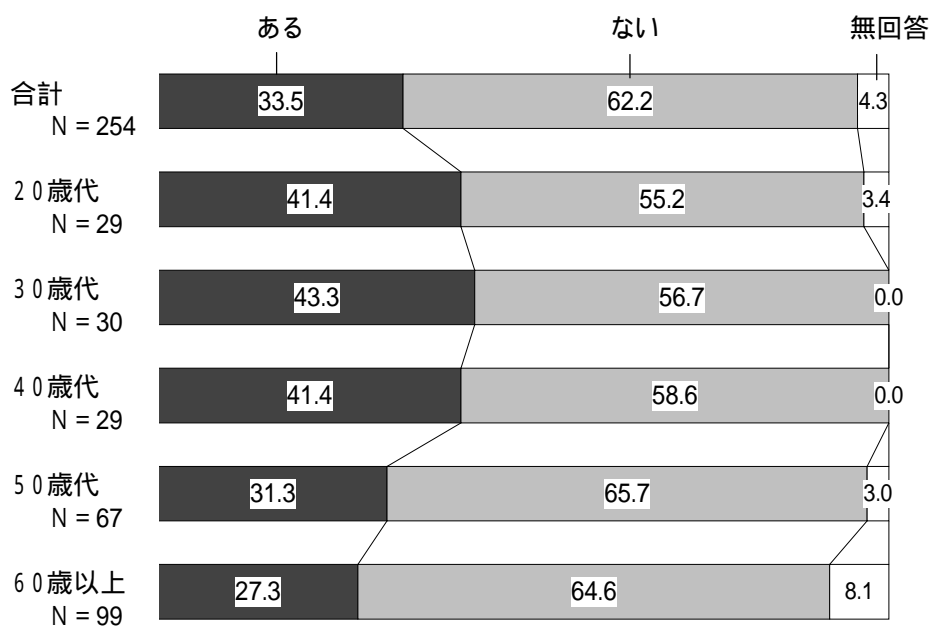


図 47. 年代別 競技場での観戦経験の有無 / 男性(単独回答、単位:%)

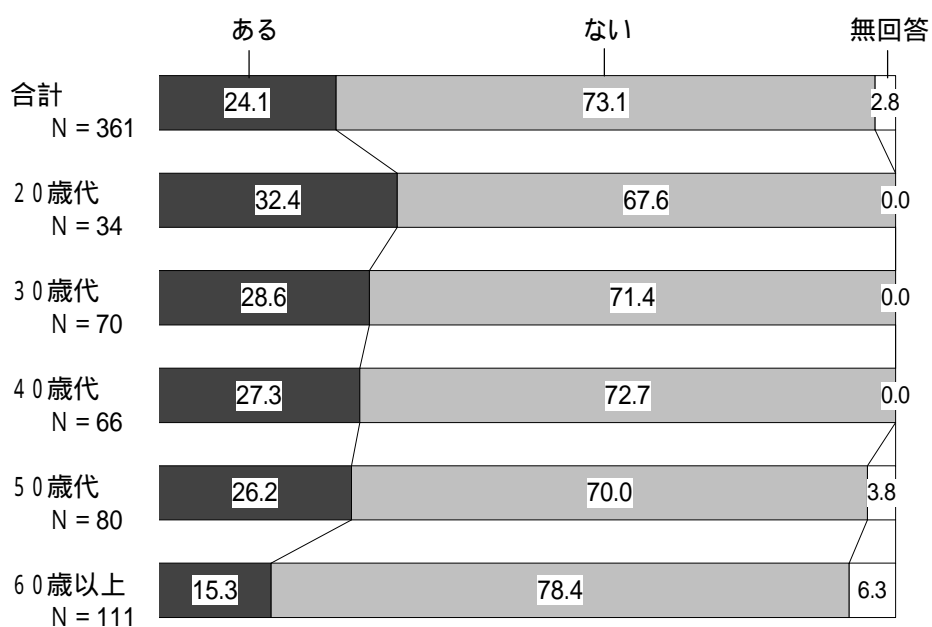
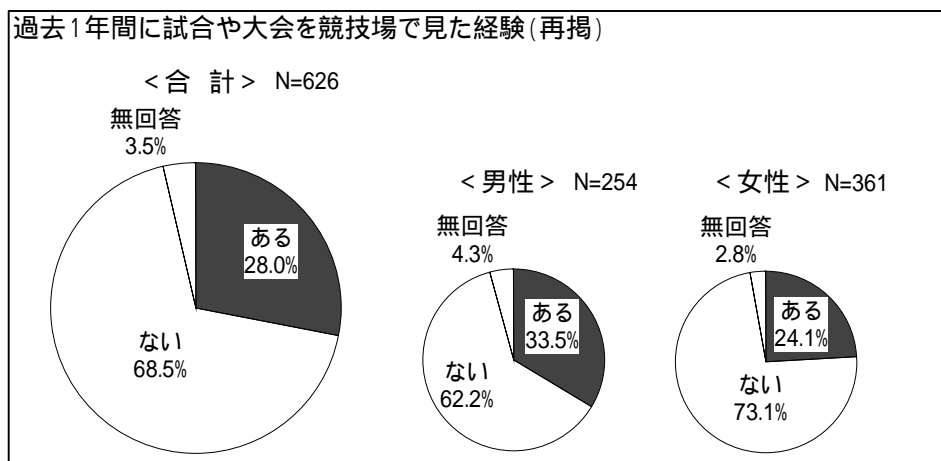


図 48. 年代別 競技場での観戦経験の有無 / 女性(単独回答、単位:%)

(2) 競技場で観戦した試合・大会の種目

過去 1 年間の観戦経験者に、観戦したスポーツの試合や大会の種目について尋ねたところ、「野球」が 65.7%と最も多くなっており、次いで「サッカー」が 21.7%となっていた(図 49.)。



↓
見に行ったことのある人

競技場に見に行った大会の種目(男女)

	合計	男性	女性
見に行った人数	175	85	87
見に行った件数(複数回答)	265	139	122
各種目を見た人の比率*			
1 野球	65.7	69.4	62.1
2 サッカー	21.7	27.1	16.1
3 ラグビー	5.1	7.1	3.4
4 マラソン	4.0	1.2	5.7
5 テニス	4.0	2.4	5.7
6 卓球	3.4	0.0	6.9
7 アメリカンフットボール	3.4	4.7	2.3
8 バレーボール	3.4	1.2	5.7
9 陸上競技	2.9	4.7	1.1
10 ゴルフ	2.3	4.7	0.0
11 水泳	2.3	1.2	3.4
12 ソフトボール	2.3	3.5	1.1
13 体操	2.3	1.2	3.4
その他	13.7	18.9	9.0
無回答	1.1	2.4	0.0
平均回答数	1.38	1.51	1.26

1 人が見に行った件数のうち、同一種目はまとめている
 ex)1 人がプロ野球と高校野球を見に行った場合
 見に行った件数：2、見に行った種目：1

野球 124 件のうち
 プロ野球と明記 72 件
 高校野球と明記 14 件

サッカー 40 件のうち
 ワールドカップと明記 10 件
 Jリーグと明記 8 件

その他の種目
 相撲、キックベースボール・剣道・空手など

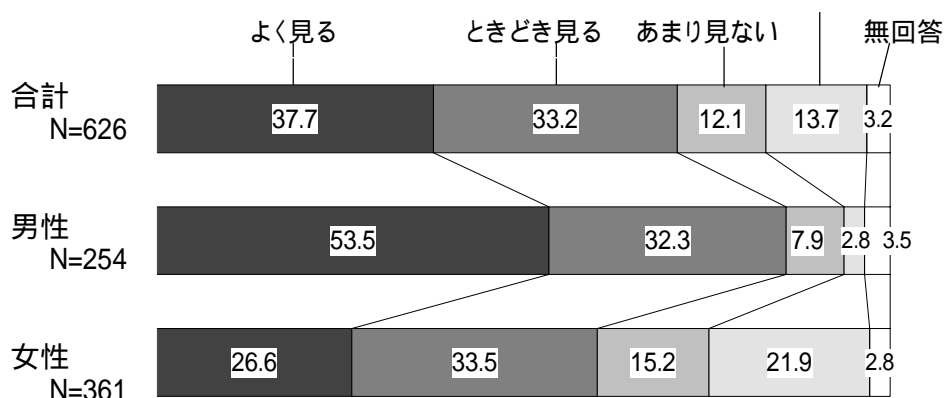
図 49. 競技場で観戦した試合・大会の種目 / 性別(複数回答、単位:%)

性別でみると、男女ともに「野球」(男性 69.4%・女性 62.1%)、「サッカー」(男性 27.1%・女性 16.1%)の順になっており、男性の方がやや高い割合を示していた。前回調査でも、「野球」は 69.7%と圧倒的に高い割合を占めていた。

(3) テレビでの観戦経験

テレビでの観戦経験を尋ねたところ、回答者全体では、「よく見る(週に3回以上)」が 37.7%、「ときどき見る(週に1~2回)」が 33.2%、「あまり見ない(月に1回~3回)」が 12.1% となっていた(図 50.)。

性別でみると、「よく見る」では、男性が 53.5%、女性が 26.6%となっており、男性の方は、女性より 26.9 ポイント上回っていた。また、性・年代別でみると、60 歳以上の男女は、「よく見る」(男性 64.6%・女性 37.8%)が高くなっていた(図 51.、図 52.)。



よく見る : 週に3回以上
 ときどき見る : 週に1~2回
 あまり見ない : 月に1~3回
 ほとんど見ない : 月に1回未満

図 50. テレビでの観戦経験の有無 / 性別 (単独回答、単位:%)

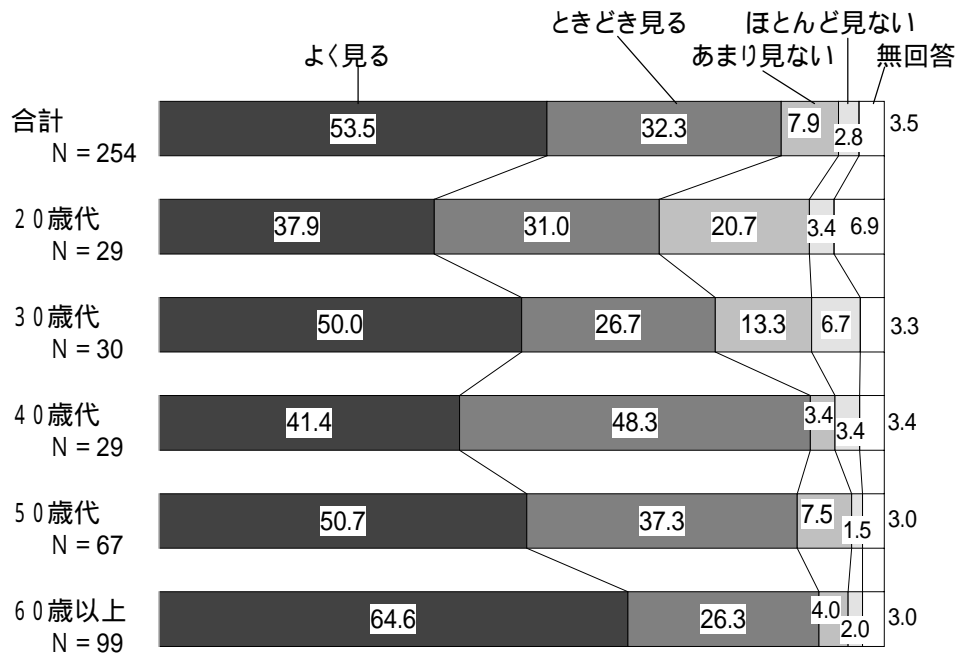


図 51. 年代別 テレビでの観戦経験の有無 / 男性(単独回答:単位%)

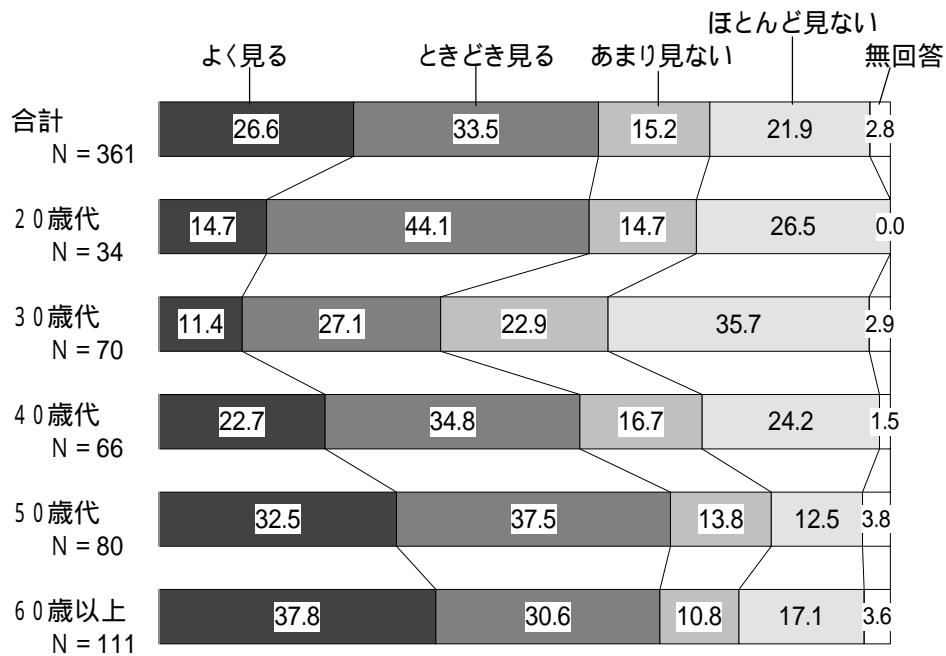


図 52. 年代別 テレビ観戦経験の有無 / 女性(単独回答:単位%)

(4) テレビで観戦した試合・大会の種目

テレビで観戦したことがあると回答した人に、主なスポーツの試合、大会の種目についてたずねたところ、「野球」が 63.7%で最も高く、次いで「サッカー」が 61.3%、「水泳」が 35.6%と続いた(表 17.)。

性別で見ると、男性では「野球」(男性 72.4%・女性 57.6%)の割合が高いのに対して、女性は「サッカー」(男性 56.7%・女性 65.4%)の見た割合が高くなっていた。

表 17. テレビで観戦した試合・大会の種目 / 性別 (複数回答、単位:%)

	合計	男性	女性
	N = 626	N = 254	N = 361
観戦した件数(複数回答)	1418	613	782
各種目を観戦した人の比率*			
1 野球	63.7	72.4	57.6
2 サッカー	61.3	56.7	65.4
3 水泳	35.6	30.7	38.8
4 ゴルフ	11.5	17.3	7.5
5 マラソン	5.9	5.9	5.8
6 テニス	5.8	5.5	6.1
7 相撲	4.5	5.9	3.6
8 ボクシング	4.3	8.7	1.4
9 バレーボール	1.9	1.2	2.5
10 K-1	1.6	2.0	1.4
11 陸上競技	1.4	1.2	1.4
12 オリンピック	1.1	2.0	0.6
13 ラグビー	1.0	2.0	0.3
その他	5.2	7.1	3.9
無回答	14.1	12.2	15.0
平均回答数	2.38	2.49	2.31

*1人が観戦した件数のうち、同一種目はまとめている

ex)1人がプロ野球と高校野球を観戦した場合

観戦した件数:2、観戦した種目:1

野球437件のうち

プロ野球と明記 179件

高校野球と明記 77件

サッカー393件のうち

ワールドカップと明記 199件

8. 国際競技大会、オリンピックムーブメントに関する意識について

(1) 国際競技大会・イベントの認知度

大阪市では、これまで数多くの国際的競技大会やオリンピックムーブメントに関わるイベントが開催され、またこれからも様々な大会やイベントの開催が予定されている。

そこで、これらの大会やイベントについてたずねたところ、「2002 FIFA ワールドカップ」(68.2%)の認知率が最も高く、次いで「東アジア競技大会」が22.5%、「世界卓球選手権大会」が16.6%となっていた(図53.)。前回調査と比べると、「2002 FIFA ワールドカップ」は17.7ポイントと大幅に上昇していた(50.5%→68.2%)。

性別でみると、すべての大会の認知率において、女性より男性の方が高い割合を示していた。

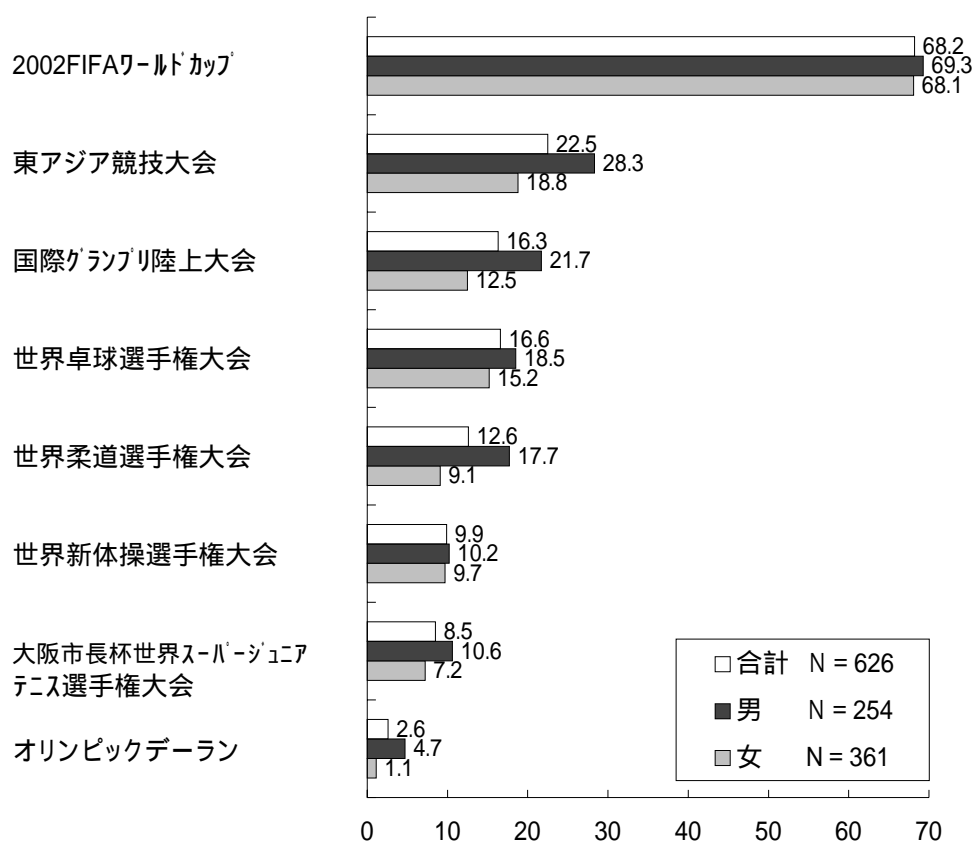


図 53. 国際競技大会・イベントの認知度 / 性別 (複数回答、単位:%)

(2) 今後開催を希望する国際競技大会の種目

今後、開催を希望する国際競技大会の種目について尋ねたところ、「サッカー」が 24.8%と最も高く、次いで「水泳」が 19.5%、「陸上競技」が 18.4%、「総合競技大会」が 17.4%となっていた(表 18.)。

性別では、「サッカー」(男性 25.2%・女性 24.9%)は、男女とも最も高い割合を占めていた。次に、男性では、「野球」(24.8%)の割合が高くなっており、女性では「水泳」(23.8%)の割合が高くなっていった。

性・年代別でみると、男性の 20～30 歳代では、「サッカー」が 40%以上と最も高い割合を占めていた(表 19.)。しかし、50 歳代では、「野球」が 26.9%、60 歳代では「陸上競技」が 26.3%となっており、年代により希望する種目に違いがある。女性では、30～50 歳代において、「サッカー」が最も高い割合を占めていた。また、50 歳代、60 歳以上では、「バレーボール」の割合が高くなっていった(表 20.)。

表 18. 開催を希望する国際競技大会の種目 / 性別(複数回答、単位:%)

	合計	男性	女性
	N = 626	N = 254	N = 361
1 サッカー	24.8	25.2	24.9
2 水泳	19.5	14.2	23.8
3 陸上競技	18.4	20.9	16.6
4 総合競技大会	17.4	18.5	16.9
5 野球	15.3	24.8	9.1
6 バレーボール	11.7	3.5	16.9
7 体操	10.4	5.9	13.6
8 テニス	7.7	5.1	9.1
9 ラグビー	6.2	11.0	2.8
10 ソフトボール	4.8	5.5	4.2
11 スケート	4.3	2.4	5.8
12 バスケットボール	3.7	3.9	3.6
13 柔道	3.5	6.7	1.4
14 ボクシング	3.2	5.1	1.9
14 卓球	3.2	2.8	3.6
その他	7.6	7.9	7.1
なし・無回答	13.4	14.2	12.2
平均回答数	1.87	1.90	1.84

表 19. 年代別 開催を希望する国際競技大会の種目 / 男性 (複数回答、単位:%)

男性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 254	N = 29	N = 30	N = 29	N = 67	N = 99
1 サッカー	25.2	41.4	43.3	24.1	17.9	20.2
2 野球	24.8	27.6	30.0	17.2	26.9	23.2
3 陸上競技	20.9	17.2	10.0	10.3	23.9	26.3
4 総合競技大会	18.5	10.3	10.0	17.2	22.4	21.2
5 水泳	14.2	6.9	6.7	37.9	11.9	13.1
6 ラグビー	11.0	10.3	13.3	20.7	11.9	7.1
7 柔道	6.7	0.0	0.0	3.4	4.5	13.1
8 体操	5.9	0.0	0.0	6.9	6.0	9.1
9 ソフトボール	5.5	3.4	6.7	3.4	4.5	7.1
10 ボクシング	5.1	10.3	6.7	0.0	6.0	4.0
10 テニス	5.1	6.9	3.3	6.9	6.0	4.0
12 バスケットボール	3.9	17.2	3.3	0.0	4.5	1.0
その他	16.6	27.5	26.6	27.5	13.5	9.0
なし・無回答	14.2	6.9	13.3	6.9	17.9	16.2
平均回答数	1.90	1.93	1.85	1.89	1.95	1.89

表 20. 年代別 開催を希望する国際競技大会の種目 / 女性 (複数回答、単位:%)

女性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 361	N = 34	N = 70	N = 66	N = 80	N = 111
1 サッカー	24.9	17.6	35.7	31.8	26.2	15.3
2 水泳	23.8	23.5	25.7	30.3	16.3	24.3
3 総合競技大会	16.9	17.6	27.1	15.2	20.0	9.0
3 バレーボール	16.9	17.6	7.1	10.6	21.3	23.4
5 陸上競技	16.6	17.6	11.4	15.2	21.3	17.1
6 体操	13.6	0.0	10.0	9.1	17.5	19.8
7 テニス	9.1	14.7	10.0	15.2	5.0	6.3
7 野球	9.1	11.8	5.7	12.1	3.8	12.6
9 スケート	5.8	2.9	11.4	1.5	8.8	3.6
その他	24.6	38.1	25.8	33.2	22.7	15.3
なし・無回答	12.2	8.8	5.7	7.6	13.8	18.9
平均回答数	1.84	1.77	1.80	1.89	1.88	1.81

(3) オリンピアンに実施してもらいたい活動

オリンピックに実施してもらいたい活動を尋ねたところ、回答者全体では、「スポーツイベントへの参加・交流」が44.1%、次いで「地域スポーツクラブ等での交流・指導」が37.7%、「学校訪問」が33.9%となっていた(図 53.)。

性別で見ると、「学校訪問」は、男性が28.0%、女性が38.8%となっており、女性の方が10.8ポイント上回っていた。逆に、「スポーツに関する講演会」は、男性が25.2%、女性16.6%と、男性の方が8.6%上回っていた。

性・年代別で見ると、男女とも20～30歳代において、「スポーツイベントへの参加・交流」の割合が高くなっており、年代が上がるにつれて、その割合は低くなっている(表 21.、表 22.)。また、「学校訪問」は、男女とも、30歳代(男性40.0%・女性54.3%)、40歳代(男性37.9%・女性59.1%)といった、小中学生の子どもを持つ親の年代で高い割合を占めていた。

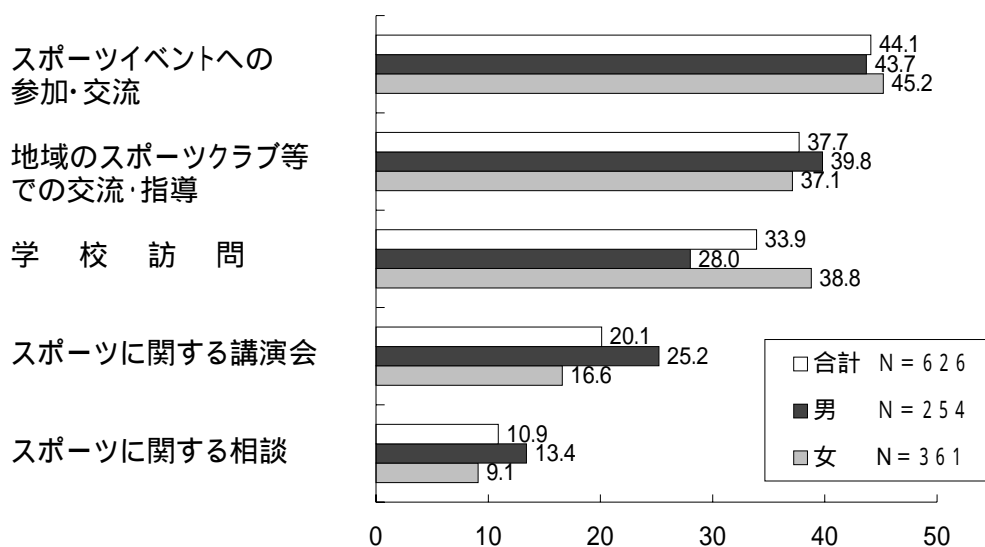


図 53. オリンピアンに実施してもらいたい活動 / 性別 (複数回答、単位:%)

表 21. 年代別 オリンピアンに実施してもらいたい活動 / 男性(複数回答、単位:%)

男性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 254	N = 29	N = 30	N = 29	N = 67	N = 99
1 スポーツイベントへの参加・交流	43.7	69.0	70.0	44.8	37.3	32.3
2 地域のスポーツクラブ等での交流・指導	39.8	62.1	36.7	48.3	44.8	28.3
3 学校訪問	28.0	34.5	40.0	37.9	34.3	15.2
4 スポーツに関する講演会	25.2	13.8	20.0	24.1	28.4	28.3
5 スポーツに関する相談	13.4	24.1	10.0	17.2	11.9	11.1
その他	0.8	0.0	3.3	0.0	1.5	0.0
なし・無回答	22.0	6.9	6.7	10.3	23.9	33.3
平均回答数	1.93	2.19	1.93	1.92	2.08	1.73

表 22. 年代別 オリンピアンに実施してもらいたい活動 / 女性(複数回答、単位:%)

女性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 361	N = 34	N = 70	N = 66	N = 80	N = 111
1 スポーツイベントへの参加・交流	45.2	58.8	61.4	45.5	42.5	32.4
2 学校訪問	38.8	35.3	54.3	59.1	37.5	18.9
3 地域のスポーツクラブ等での交流・指導	37.1	35.3	45.7	43.9	37.5	27.9
4 スポーツに関する講演会	16.6	20.6	12.9	19.7	16.3	16.2
5 スポーツに関する相談	9.1	5.9	8.6	9.1	12.5	8.1
その他	0.3	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0
なし・無回答	22.2	11.8	10.0	7.6	21.3	42.3
平均回答数	1.89	1.77	2.03	1.92	1.87	1.80

9. スポーツ情報サービスについて

(1) スポーツ情報の入手方法

スポーツ情報(施設の有無、施設の空き情報、プログラム、イベント・行事の開催、場所や時間など)を主にどのような方法で入手しているのかたずねたところ、「大阪市政だよりや区の広報誌など、行政が出す刊行物などで入手している」(以下、市区広報誌等から)が 60.9%、「新聞や新聞広告で入手している」が 32.9%、「テレビやラジオで入手している」が 29.9%、と多くなっていた(表 23.)。「市区広報誌」の割合が、「新聞や新聞広告」「テレビやラジオ」の約 2 倍となっており、行政の刊行物による情報提供サービスの重要性が伺える。

前回調査と比較すると、「市区広報誌等から入手している」(56.3%→60.9%)が 4.6 ポイント高くなっている。そして、「知人・友人・家族から入手する」(19.5%→9.7%)が約 10 ポイント低くなっており、人から情報を入手するよりも刊行物やメディアから入手する傾向が高くなったと考えられる。さらに、「インターネットで入手する」と答えた人の割合が、前回の 2.2%から 4.7 ポイントと上昇しており、インターネットが活用されてきていることが見て分かる。

性・年代別にみると、すべての年代で、市区広報誌等の行政情報が最も高い割合を占めていた(表 24.、表 25.)。加えて 40 代～60 歳以上では「新聞・新聞広告」が高い割合になっていた。一方、20～30 歳代では「テレビ・ラジオ」や「電車・バスなどの公共機関に貼られた広告」で知る割合が高くなっている。また、「インターネットで入手する」と答えた割合は、若い年代ほど多くなっている。

表 23. スポーツ情報の入手方法 / 性別(複数回答、単位:%)

	合計	男性	女性
	N = 626	N = 254	N = 361
1 市や区など行政の刊行物などで	60.9	56.3	64.5
2 新聞・新聞広告で	32.9	39.0	28.3
3 テレビ・ラジオで	29.9	32.3	27.7
4 電車・バスなどに貼られた広告で	20.9	20.5	21.1
5 知人・友人・家族から	9.7	6.3	12.2
6 インターネットで	6.9	7.1	6.9
7 イベント雑誌などで	2.9	3.5	2.5
8 直接施設や会場で	2.7	3.5	2.2
9 (財)大阪市スポーツ振興協会広報誌 「オオサカハッスル」で	1.1	2.0	0.6
その他	0.3	0.0	0.6
なし・無回答	7.0	7.5	6.6
平均回答数	1.81	1.84	1.78

表 24. 年代別 スポーツ情報の入手方法 / 男性(複数回答、単位:%)

男性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 254	N = 29	N = 30	N = 29	N = 67	N = 99
1 市や区など行政の刊行物などで	56.3	41.4	53.3	55.2	61.2	58.6
2 テレビ・ラジオで	32.3	24.1	50.0	17.2	31.3	34.3
3 新聞・新聞広告で	39.0	6.9	26.7	34.5	41.8	51.5
4 電車・バスなどに貼られた広告で	20.5	27.6	20.0	37.9	13.4	18.2
5 インターネットで	7.1	20.7	13.3	17.2	4.5	0.0
6 知人・友人・家族から	6.3	13.8	10.0	6.9	6.0	3.0
7 イベント雑誌などで	3.5	13.8	6.7	6.9	1.5	0.0
8 直接施設や会場で	3.5	20.7	0.0	0.0	3.0	1.0
9 (財)大阪市スポーツ振興協会広報誌「オオサカハッスル」で	2.0	3.4	0.0	0.0	1.5	3.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なし・無回答	7.5	6.9	3.3	0.0	9.0	10.1
平均回答数	1.84	1.85	1.86	1.76	1.80	1.89

表 25. 年代別 スポーツ情報の入手方法 / 女性(複数回答、単位:%)

女性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 361	N = 34	N = 70	N = 66	N = 80	N = 111
1 市や区など行政の刊行物などで	64.5	52.9	78.6	72.7	62.5	55.9
2 新聞・新聞広告で	28.3	14.7	14.3	28.8	41.3	31.5
3 テレビ・ラジオで	27.7	26.5	15.7	27.3	25.0	37.8
4 電車・バスなどに貼られた広告で	21.1	35.3	27.1	18.2	27.5	9.9
5 知人・友人・家族から	12.2	17.6	5.7	12.1	15.0	12.6
6 インターネットで	6.9	20.6	12.9	9.1	1.3	1.8
7 イベント雑誌などで	2.5	0.0	5.7	4.5	0.0	1.8
8 直接施設や会場で	2.2	2.9	2.9	6.1	0.0	0.9
9 (財)大阪市スポーツ振興協会広報誌「オオサカハッスル」で	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8
その他	0.6	0.0	0.0	1.5	1.3	0.0
なし・無回答	6.6	0.0	4.3	1.5	5.0	14.4
平均回答数	1.78	1.71	1.70	1.83	1.83	1.80

(2) 入手したいスポーツ情報

入手したいスポーツ情報について尋ねたところ、「スポーツ施設に関わる情報(施設の場所、空き時間、利用手続きなど)」が43.6%で、最も高い割合を占めていた(表26.)。次いで「市民参加型のスポーツ行事やスポーツイベントの情報」が28.0%、「スポーツ教室やスポーツプログラムについての情報」が26.5%と高い割合を占めており、自らがスポーツをするために必要な情報を、より多く入手したいという傾向が窺える。

性別でみると、男女共に、「スポーツ施設に関わる情報(施設の場所、空き時間、利用手続きなど)」が最も高い割合(男性42.1%、女性45.2%)を占めていた。その他、男性では「市民参加型のスポーツ行事やスポーツイベントの情報」(28.0%)、「全国的、国際的なスポーツ大会やスポーツイベントの情報」(27.6%)の順となっており、女性では「スポーツ教室やスポーツプログラムについての情報」(29.9%)、「市民参加型のスポーツ行事やスポーツイベントの情報」(27.7%)の順となっていた。

性・年代別にみると、ほとんどの年代で「スポーツ施設についての情報」が最も高い割合を占めていた(表27.、表28.)。50～60歳以上では「市民参加型のスポーツ行事やイベントの情報」が高い割合を占めており、30～40歳代では「スポーツ教室やスポーツプログラムについての情報」が高い割合となっていた。また、20歳代では「全国的、国際的なスポーツ大会やイベントの情報」が高い割合となっていた。

表26. 入手したいスポーツ情報 / 性別(複数回答、単位:%)

	合計	男性	女性
	N = 626	N = 254	N = 361
1 スポーツ施設について	43.6	42.1	45.2
2 市民参加型のスポーツ行事・イベント	28.0	28.0	27.7
3 スポーツ教室やスポーツプログラム	26.5	22.0	29.9
4 全国的、国際的なスポーツ大会やイベント	21.7	27.6	17.7
5 スポーツクラブやサークル	17.6	19.7	16.6
6 スポーツ医科学について	11.0	13.8	9.1
7 ボランティア募集や集まりなど	2.7	3.5	2.2
8 指導者講習会や研修会など	1.3	2.0	0.8
9 指導者や審判の派遣申込	0.8	1.2	0.6
その他	0.5	0.0	0.8
なし・無回答	14.4	12.6	15.0
平均回答数	1.79	1.83	1.77

表 27. 年代別 入手したいスポーツ情報 / 男性(複数回答、単位:%)

男性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 254	N = 29	N = 30	N = 29	N = 67	N = 99
1 スポーツ施設について	42.1	62.1	53.3	48.3	40.3	32.3
2 市民参加型の行事やイベント	28.0	27.6	20.0	24.1	29.9	30.3
3 全国的、国際的大会やイベント	27.6	31.0	33.3	31.0	17.9	30.3
4 スポーツ教室やスポーツプログラム	22.0	13.8	33.3	34.5	20.9	18.2
5 スポーツクラブやサークル	19.7	24.1	20.0	31.0	17.9	16.2
6 スポーツ医科学について	13.8	17.2	10.0	17.2	16.4	11.1
7 ボランティアの募集や集まりなど	3.5	0.0	3.3	0.0	6.0	4.0
8 指導者講習会や研修会など	2.0	0.0	0.0	3.4	3.0	2.0
9 指導者や審判の派遣申込	1.2	0.0	0.0	0.0	3.0	1.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なし・無回答	12.6	3.4	3.3	0.0	16.4	19.2
平均回答数	1.83	1.82	1.79	1.90	1.86	1.80

表 28. 年代別 入手したいスポーツ情報 / 女性(複数回答、単位:%)

女性	合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
	N = 361	N = 34	N = 70	N = 66	N = 80	N = 111
1 スポーツ施設について	45.2	64.7	60.0	50.0	38.8	31.5
2 スポーツ教室やスポーツプログラム	29.9	29.4	38.6	42.4	27.5	18.9
3 市民参加型の行事やイベント	27.7	0.0	28.6	28.8	27.5	35.1
4 全国的、国際的大会やイベント	17.7	32.4	18.6	19.7	11.3	16.2
5 スポーツクラブやサークル	16.6	17.6	12.9	19.7	22.5	12.6
6 スポーツ医科学について	9.1	14.7	5.7	10.6	10.0	8.1
7 ボランティアの募集や集まりなど	2.2	2.9	2.9	0.0	5.0	0.9
8 指導者講習会や研修会など	0.8	0.0	1.4	1.5	0.0	0.9
9 指導者や審判の派遣申込	0.6	0.0	0.0	1.5	1.3	0.0
その他	0.8	0.0	1.4	0.0	2.5	0.0
なし・無回答	15.0	2.9	7.1	4.5	17.5	27.9
平均回答数	1.77	1.67	1.83	1.83	1.77	1.73

10. 「スポーツ都市大阪」のイメージ

大阪市は「スポーツの楽しさがあふれるまち大阪」＝「スポーツパラダイス大阪」の実現に向けた取り組みを進めている。

そこで、期待する「スポーツ都市大阪」のイメージについてたずねたところ、「公園や緑の自然につつまれてスポーツが楽しめる都市」が 55.6%、「手軽に利用できるスポーツ施設が整備された都市」が 52.7%、「市民のためのスポーツ大会や行事が多く開かれる都市」が 17.1%となっていた(表 29.)。つまり、“緑につつまれ、身近で手軽にスポーツと触れ合うことができる都市”といった期待が上位を占めている。

前回調査と比較すると「公園や緑の自然につつまれてスポーツが楽しめる都市」(49.9%→55.6%)「手軽に利用できるスポーツ施設が整備された都市」(55.1%→52.7%)、のように 1 位と 2 位の順位が入れ代わっており、より環境を意識したスポーツ都市づくりに期待が高まってきたといえる。

年代別に見ると、20～40 歳代では「手軽に利用できるスポーツ施設が整備された都市」の割合が高くなっていた(表 30.、表 31.)。一方、50～60 歳以上では「公園や緑の自然につつまれてスポーツが楽しめる都市」の割合が高くなっていた。

表 29. 「スポーツ都市大阪」のイメージ/性別(複数回答、単位:%)

	合 計	男 性	女 性
	N = 626	N = 254	N = 361
1 自然につつまれてスポーツが楽しめる	55.6	54.3	56.5
2 手軽に利用できるスポーツ施設が整備	52.7	47.6	56.5
3 市民のためのスポーツ大会・行事が多く開催	17.1	15.7	18.3
4 全国的・国際的規模のスポーツ施設が整備	12.5	17.7	9.1
5 全国・国際レベルのスポーツ大会が多く開催	12.3	15.4	10.2
6 オリンピックの理念が生かされる	8.6	8.3	8.9
7 スポーツの国際交流が盛ん	7.0	6.3	7.5
8 スポーツの愛好者やスポーツクラブが多い	5.9	8.3	4.4
9 世界で活躍するスポーツ選手が多い	4.0	4.7	3.3
その他	0.5	0.0	0.8
無回答	6.9	6.3	6.9
平均回答数	1.89	1.90	1.89

表 30. 年代別「スポーツ都市大阪」のイメージ / 男性(複数回答、単位:%)

男性	合計 N = 254	20歳代 N = 29	30歳代 N = 30	40歳代 N = 29	50歳代 N = 67	60歳以上 N = 99
1 自然につつまれてスポーツが楽しめる	54.3	44.8	43.3	55.2	67.2	51.5
2 手軽に利用できるスポーツ施設が整備	47.6	58.6	43.3	58.6	50.7	40.4
3 全国的・国際的規模のスポーツ施設が整備	17.7	10.3	13.3	17.2	16.4	22.2
4 市民のためのスポーツ大会・行事が多く開催	15.7	20.7	16.7	17.2	19.4	11.1
5 全国・国際レベルのスポーツ大会が多く開催	15.4	20.7	23.3	13.8	10.4	15.2
6 スポーツの愛好者やスポーツクラブが多い	8.3	6.9	13.3	13.8	3.0	9.1
7 オリンピックの理念が生かされる	8.3	6.9	3.3	0.0	7.5	13.1
8 スポーツの国際交流が盛ん	6.3	13.8	6.7	3.4	4.5	6.1
9 世界で活躍するスポーツ選手が多い	4.7	6.9	10.0	6.9	1.5	4.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	6.3	3.4	0.0	6.9	6.0	9.1
平均回答数	1.90	1.96	1.73	2.00	1.92	1.90

表 31. 年代別「スポーツ都市大阪」のイメージ / 女性(複数回答、単位:%)

女性	合計 N = 361	20歳代 N = 34	30歳代 N = 70	40歳代 N = 66	50歳代 N = 80	60歳以上 N = 111
1 自然につつまれてスポーツが楽しめる	56.5	44.1	58.6	60.6	58.7	55.0
1 手軽に利用できるスポーツ施設が整備	56.5	58.8	64.3	59.1	62.5	45.0
3 市民のためのスポーツ大会・行事が多く開催	18.3	17.6	14.3	10.6	21.3	23.4
4 全国・国際レベルのスポーツ大会が多く開催	10.2	8.8	20.0	9.1	3.8	9.9
5 全国的・国際的規模のスポーツ施設が整備	9.1	14.7	12.9	7.6	6.3	8.1
6 オリンピックの理念が生かされる	8.9	5.9	5.7	12.1	8.8	9.9
7 スポーツの国際交流が盛ん	7.5	17.6	1.4	10.6	7.5	6.3
8 スポーツの愛好者やスポーツクラブが多い	4.4	5.9	1.4	4.5	8.8	2.7
9 世界で活躍するスポーツ選手が多い	3.3	8.8	1.4	3.0	5.0	1.8
その他	0.8	0.0	2.9	1.5	0.0	0.0
無回答	6.9	2.9	5.7	4.5	5.0	11.7
平均回答数	1.89	1.88	1.94	1.87	1.92	1.84